新砂貯木場の鳥類調査報告

(2014年10月~2017年5月)



特定非営利活動法人 ネイチャーリーダー江東

新砂貯木場の鳥類調査報告

(2014年10月~2017年5月)

目次

1.	本報告の位置づけについて・・・・・・・・・・	-	-	-	-	-	1
2.	新砂貯木場の歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	-	-	-	-	-	2
3.	調査地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	-	-	-	-	-	4
4.	調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	-	-	-	-	-	7
5.	調査者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	-	-	-	-	-	7
6.	調査方法	-	-	-	-	-	7
7.	調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		-	-	-	-	11
	7-1. 概況		-	-	-	-	11
	7-2. 種類別状況		-	-	-	-	13
	7-2-1 カモ目カモ科		-	-	-	-	14
	7-2-1-1 オカヨシガモ(<i>Anas strepera</i>)		-	-	-	-	14
	7-2-1-2 ヒドリガモ(Anas penelope)		-	-	-	-	15
	7-2-1-3 マガモ(Anas platyrhynchos)		-	-	-	-	15
	7-2-1-4 カルガモ(Anas zonorhyncha)		-	-	-	-	16
	7-2-1-5 ハシビロガモ(<i>Anas clypeata</i>)		-	-	-	-	17
	7-2-1-6 オナガガモ(<i>Anas acuta</i>)		-	-	-	-	18
	7-2-1-7 コガモ(<i>Anas crecca</i>)		-	-	-	-	19
	7-2-1-8 ホシハジロ(Aythya ferina)		-	-	-	-	20
	7-2-1-9 キンクロハジロ(Aythya fuligula) -		-	-	-	-	21
	7-2-1-10 スズガモ(<i>Aythya marila</i>)		-	-	-	-	22
	7-2-1-11 ミコアイサ(Mergellus albellus) -		-	-	-	-	23
	7-2-2 カイツブリ目カイツブリ科		-	-	-	-	23
	7-2-2-1 カイツブリ(<i>Tachybaptus ruficollis</i>)		-	-	-	-	24
	7-2-2-2 カンムリカイツブリ(<i>Podiceps cristatus</i>	s)		-	-	-	24
	7-2-2-3 ハジロカイツブリ(<i>Podiceps nigricollis</i>)			-	-	-	25
	7-2-3 カツオドリ目ウ科	-	-	-	-	-	25
	7-2-3-1 カワウ(<i>Phalacrocorax carbo</i>)		-	-	-	-	26
	7-2-4 ペリカン目サギ科		-	-	-	-	28
	7-2-4-1 アオサギ(<i>Ardea cinerea</i>)		-	-	-	-	28
	7-2-4-2 ダイサギ(<i>Ardea alba</i>)	-		-	-	-	29
	7-2-4-3 コサギ(Egretta garzetta)		-	-	-	-	30
	7-2-5 ツル目クイナ科		-	-	-	-	31
	7-2-5-1 オオバン(Fulica atra)		-	-	-	-	31
	7-2-6 チドリ目シギ科		-	-	-	-	31
	7-2-6-1 キアシシギ(Heteroscelus brevipes) -		-	-	-	-	32
	7-2-6-2 イソシギ(Actitis hypoleucos)		-	-	-	-	32

		7-2-6-3 キョ	ウジョ	ショ	$F(A_I)$	en	ari	a in	ter	pr	es)	-	-	-	-	-	33
		7-2-7 チドリ目カ	モメ科	ŀ			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33
		7-2-7-1 ユリ	カモメ	(La	arus	rid	ibu	ındı	ıs)		-	-	-	-	-	-	34
		7-2-7-2 ウミ	ネコ(1	arı	is cr	ass	iro	stri	S)		-	-	-	-	-	-	35
		7-2-7-3 セグ	ロカモ	メ(Ları	is a	ırge	ente	itu	s)			-	-	-	-	36
		7-2-7-4 オオ	セグロ	力刊	モメ(Lai	rus	sch	ist	isa	ıgu	S)		-	-	-	37
		7-2-7-5 コア	ジサシ	(St)	erna	al	bifi	rons	₅)		-	-	-	-	-	-	37
8.	調査地と	周辺地域との対	比			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38
	8-1	調査地周辺の調	查区分			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38
	8-2	調査地における	2014 [£]	手の	計測	状剂	兄	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39
	8-3	調査地に隣接す	る水域	(A	`~E	3)	<u>ک</u> 0	の比	較	-	-	-	-	-	-	-	40
	8-4	調査地に重なる	水域(C ~	E)	と	のは	北較		-	-	-	-	-	-	-	43
	8-5.	調査地とは水門	と地面	によ	り隔	育て	られ	った	水	或(F) {	<u>-</u> 0	比	較	-	-	46
9. }	江東区に	こおけるその他の	水鳥調	査と	2の対	讨比		-	-	-	-	-	-	-	-	-	48
	9-1.	当会の水鳥調査	結果と	の比	2較	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	48
	9-2.	江東区の水鳥生	息調査	結果	ととの)比	較	-	-	-	-	-	-	-	-	-	54
	9-3.	その他水域の参	考調査	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	56
10.	調査地	における水鳥調査	 室結果の	りま	とめ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	57
資料	斗編					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	61
	資料編	目次				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	62

(地図、航空写真)

本報告書において使用した地図、航空写真は、原則として「国土地理院の地図・空中写真閲覧サービス」より複写、ダウンロードしたものの必要個所をトリミングし、サイズを変更の上使用しています。 また、位置関係を明示するために原図に文字や図を書き加えたものもあります。

(写真)

調査地や鳥などの写真について、(宮本)と記載しているものは、本調査に参加した宮本喜一朗氏が撮影したもの、記載のないものは本報告執筆者(荒川洋一)によるものです。なお、7-2 調査結果の種類別状況で使用した写真は、本件調査地以外で撮影したものも含まれます。

(鳥類名、分類)

本報告書の鳥類の標準和名および分類、配列は日本鳥類目録改訂第7版に準拠しています。 ただし、外来種のドバトは資料編において便宜的にキジバトの下に入れています。

表紙の写真:新砂貯木場「枠内」の様子 2014年 11 月宮本喜一郎氏撮影

新砂貯木場の鳥類調査報告(2014-2017)

1. 本報告の位置づけについて

私たち、特定非営利活動法人ネイチャーリーダー江東(以下「当会」といいます。)は、2014年10月から2015年4月までの期間、初めて新砂貯木場の鳥類調査を行いその結果を「新砂貯木場鳥類調査報告(2014年10月~2015年4月)」としてまとめました。当会は、その後も東京都下水道局砂町水再生センターのご協力を得て、2015年、2016年と調査を続けることができましたので、ここに、新たな記録を含め3年間の調査結果を取りまとめ、改めて新砂貯木場の鳥類調査報告として公開することとしました。今後の江東区や東京湾の鳥類の生態を理解するうえで参考となれば幸いです

当会では江東区の生き物調査の一環として、過去 20 年近くにわたり、区内に定めた 6 ヶ所で毎年 12 月に水鳥の数を調べています。その調査を補完する目的で区内の既存調査区域以外で鳥類が生息している場所を調べていたときに、新砂貯木場(図 1 赤丸印内)にとても多くの水鳥が集まっていることがわかりました。これが新砂貯木場の調査を始めたきっかけです。



図1 新砂貯木場の位置

新砂貯木場は東京都下水道局砂町水再生センター(以下「水再生センター」といいます。)の南側にあり、当会が毎月モニタリング調査を行っている荒川下流、新砂干潟の西側にあたります。 新砂貯木場の調査を行うには、干潟は観測できる位置になく、水再生センターの南にある夢の島マリーナ側であれば何とか観測できるものの、鳥までの距離がある上に、マリーナで修理中の船や砂町運河を航行する船などに遮られ、また、新砂水門の壁の裏側が死角となり、鳥の種類や数を調査する場所としては適していないと思われました。

当会で検討した結果、正確な調査のためには水再生センター内に入らせていただきたいとの結論となり、2014年春に同センターにご相談をしました。水再生センターは、構内各所で随時、様々な工事が行われていることなどから、当方の安全面なども考慮し、容易には認めていただけませんでした。しかし、最終的には一定の制限の下で

構内に立ち入り、継続的な調査を行うことを認めてくださいました。そこで、2014 年 10 月の第 3 週から 2015 年 4 月まで、毎月第 1、第 3 水曜日に新砂貯木場における定点の水鳥調査を一冬継続して行うことが実現しました。(以下「2014 年度」、または「初年度」といいます。) この初年度の調査の結果、相当数の水鳥が冬越しをしていることがわかりましたので、しばらく継続して調査を進める必要があると考えました。そこで当会としてはその後、2 年間にわたり毎年申請をして 2015 年 9 月から 2016 年 5 月まで、

2016 年 9 月から 2017 年 5 月まで(以下それぞれ「2015 年度」「2016 年度」、または、「2 年目」「3 年目」といいます。)調査実施の承認をいただき、調査を行うことができました。これにより鳥の渡りとしては 3 回の越冬のシーズンを継続して調査することができました。

2. 新砂貯木場の歴史

新砂貯木場は、木材関連の会社などが集中していた木場の機能を新木場に移転するにあたって臨海部に整備された貯木場の一つです。

当初は、貯木場としてその機能を発揮してきたようですが、その後の新たな産業構造や環境の変化から、それら新設された貯木場も、現在では本来の貯木場として機能しているものは少なくなっているようです。実際に貯木機能は果たせなくなっても、東京都港湾局によりますとこの場所の名称は現在も「新砂貯木場」と称しているとのことです。



図 2-1 新砂貯木場 (75年1月)



図 2-2 新砂貯木場 (79年 10月)

いつ頃から新砂貯木場の周辺が現在のような形になったのか、国土地理院がウエッブ上で閲覧のために提供している航空写真を見ますと 1975 年 1 月 19 日(図 2-1)の写真では貯木の様子は見られますが、貯木が流出しないように囲う柵はなく、運河の水門も今日のようなものではなかったようです。1979 年 10 月 20 日(図 2-2)では、貯木の柵は完成し水門は現在の形になっています。

これら二つの写真では新砂貯木場の左側に三角形のように見える部分がありますが、ここは、現在の夢の島マリーナの場所で当時は砂町貯木場とよばれ、大きな貯木場でした。 上記の写真でも多くの木が置かれているのが見られます。

1986年10月に東京都港湾局が発行した「東京港の将来像について」によりますと、新砂貯木場は1979年には取扱い実績は無く、対岸の砂町貯木場(現在の夢の島マリーナ

の場所)と共に1984年には使用を中止していたようです。



図 2-3 砂町貯木場(左)と新砂貯木場(右) (84 年 12 月)



図 2-4 砂町貯木場(左)と新砂貯木場(右) (88 年 1 月)



図 2-5 砂町貯木場(左)と新砂貯木場(右) (89 年 10 月)

確かに、1984 年 12 月 3 日(図 2-3)の航空写真では、 貯木されている様子はあ りません。

この写真を、視点を変え てみますと、この新砂貯 木場の北側と西側に接す る水再生センターの地形 は、これまでは埋め立て や建物の建設などにより 少しずつ形を変えてきま

したが、この写真では同センター南端の護岸の位置が、ほぼ現在と同じ状況になっているように見えます。その後の写真を見ても、この地形に大きな変化はありません。

貯木機能の点では、1988 年1月24日(図2-4)の写 真によれば新砂、砂町両 貯木場には、木材が置か れていますので、実際に は両方とも貯木場として 使用を継続していたと思 われます。

その後、1989 年 10 月 20 日(図 2-5)の写真では、砂 町貯木場には木材はあり ませんが、新砂貯木場には びっしり貯木されていま す。

江東区年表には、まさにそ

の日 1989 年 10 月 20 日に「マリーナ建設のため砂町貯木場を廃止」と記載されています。

同年表によるとマリーナの一部供用開始は1992年3月1日とされていますが、1992年10月10日の航空写真(図2-6)では、マリーナは確かに出来上がっているように見えます。



図 2-6 夢の島マリーナ(左)と新砂貯木場(右) (92 年 10 月)



図 2-7 夢の島マリーナ(左)と新砂貯木場(右) (06 年 11 月)

うな貯木は見られません。 その後の写真を見る限り では、新砂貯木場では一 部船影は見られるものの、 貯木は見られず、2006年 11月10日の写真(図2-7) はほぼ今日と同様である ように思われます。

新砂貯木場には過去のよ

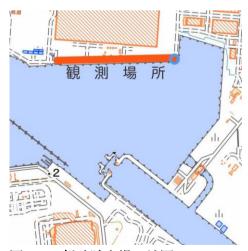


図 3-1 新砂貯木場の地図

地上では、めまぐるしく変貌を続けている江東区において、これだけの長期間、地形的に大きな変動がなく、また、閉鎖的な水面なので、船舶の交通や物資の移動などに大きな影響を受けることなく推移していることは、そこを利用する鳥類との関係においては大変重要であり貴重な環境であると思われます。

3. 調査地

図 3-1 は新砂貯木場全体を示した地図です。水再生センターの許可に基づき、同センター南端にある、東西に伸びる堤防とその手前の草地を観測場所と定めま

した。(図 3-1 の赤色部分)

観測場所の北側には、水再生センターの建物や施設、道路などがあります。

観測場所の東端、図 3-1 で青丸印の場所から貯木場水域全体を見渡した様子は図 3-2、3-3 のとおりです。

上掲の「東京港の将来像について」によりますと、新砂貯木場の面積は約8haですので、 江東区にある都立木場公園の三分の一程度の広さがあります。

北から東側にかけて下水道局の東部スラッジプラントの建物があり(図 3-2 の左側の建物群)、その南には林が水面に沿って続きます。



図 3-2 観測場所の北東から東の部分

船を係留する杭が見られる(2015年4月15日撮影)



図 3-3 観測場所の東南から西の部分

コンクリートの柵が水域を取り囲んでいる(2015年4月15日撮影)

林が切れるあたりでは、砂町排水機場関連と思われる低層の建物があり、高い塀が新砂水門に至ります。水門の南奥には新木場の新江東清掃工場の大きな建物があり(図 3·3 のほぼ中央にある大きな建物)、その手前に夢の島マリーナの船舶修理場、その西にマリーナの船舶係留桟橋があります。観測場所の西側には水門からマリーナの前を通り夢の島大橋の下を辰巳方面に向かう砂町運河が見られます。



図 3-4 枠内の船やフロート (宮本)

この北側の護岸から、東の林を経て南の水門に至る壁面と、西側にある運河に囲まれた水域およびそれをとりまく建造物や陸地部分が調査地(以下「調査地」といいます。)となります。この水域には、貯木の流出を防ぐために、大きく水面を取り囲むように設けられたコンクリート製の頑丈な垣根のような柵(以下便宜的に「枠」といいます。)が設置され、枠の内外には

ところどころに船などを係留するための(本来は貯木を整理係留するために設置された ものではないかと推測されます)杭があり、枠内には浮き桟橋のようなものや丸い玉の



図 3-5 枠外(北側水路)の係留船や移動中の船

形をしたフロートがあります。枠内にはヨットやボートのような中小型船舶が(初年度には常時、2年目以降はまれに)何隻か係留されており(図3-4)、枠外にも漁船や屋形船のような船舶が係留されることがあります(図3-5)。これらの係留は、調査時に見られた状況から推察すると、初年度における枠内の小型船舶をのぞき、台風接近時など臨時的な運用に限定されているようです。

観測場所に沿って堤防の北側には水再生センターの道路がありますが、車両通行頻度は高くなく比較的静寂です。また、同センター南端にある施設屋上に設置された区営新砂運動場の南縁から水辺までは少なくとも100m以上の距離があることから、運動をして



図 3-6 飛び立つカモ類 (宮本)

いる人の気配は、観測場所では全く感じません。観測場所東側の林も通常は人が立ち入る場所ではないので、この調査地にいる鳥たちを脅かす存在としては、係留船舶の出入りや、この水域に立ち入る外部からの船舶程度です。本件調査を行う調査員も堤防上に立つ場合などに、細心の注意を払っても堤防直下の、棚状になった場所に休息しているカモ類や、堤防付近に浮かんでいる水鳥に脅威を与えてしまうことがあります。(図 3-6)

西側の砂町運河における船舶の航行は決して少なくありませんが、調査地の鳥の動向に大きな影響を与えることはなさそうです。

なお、3年間の調査期間内においては、水再生センターの用地内、砂町運河などにおいて短期または長期にわたり工事が行われることがありました。このようなときには鳥たちにはある程度の影響があるのではないかと思われることもありましたが、そのような場所は局所的であり、新砂貯木場全体の鳥類動向や観測に影響を与える

ところまでには至らなかったのではないかと思われます。

調査地に設置されている枠をはじめ、係留された船がある場合にはその船などが、水面にいる水鳥を観測するためには障害となります。また、南側にある枠のさらに南側にも水鳥が利用できる水面がありますが、観測場所からは距離が相当あるほかに、この枠自体にさえぎられて十分に観測できない部分が多くあります。そのため観測場所の堤防上に立ち上がり、あるいはしゃがみこみ、又は堤防際の草地からなど、障害物を極力避け

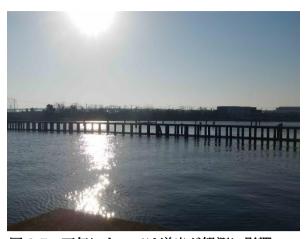


図 3-7 天気によっては逆光が観測に影響

観測できるよう工夫しながら調査を行いますが、全数の完璧な把握は不可能です。また、観測の多くは南側に向かって行いますので、天気が良いと太陽が正面斜め上から照らすこととなり、逆光で観測がしづらいこともあります。(図 3-7)

4. 調査の目的

当会が調べる限りにおいて、継続的に新砂貯木場での水鳥数計測調査が行われたことはない

と思われますので、この場所を利用している鳥類の種類と個体数の概要を知ることを目 的とします。

その結果得られた数字を当会が継続して行っている水鳥調査や、江東区が毎年行っている水鳥生息調査と比較して、江東区内の鳥類生息地における調査地の相対的な位置づけ を知ることは、副次的な目的となります。

5. 調査者

水再生センター内への立入は、2014年度には3名の上限が定められましたが、2年目以降は当会の要請に基づき上限が5名に広げられました。平日の調査となるため、当初は、調査に協力できる会員はほとんどいないのではないかと思われました。結果としては、勤務を調整したり休暇をとったりして参加してくれる会員がいたため、初年度は全 13回の調査のうち5回は $1\sim2$ 人の協力が得られました。残る8回は執筆者1人で行いました。調査者が3人のときには、1人が写真撮影を行い、2人が計数記録を行いました。計数記録者は、個々の経験は均一ではありませんが、いずれも当会やその他の組織において、水鳥等の計数調査の経験がある者です。2年目3年目の調査は、全て執筆者1人で行いました。

6. 調査方法

調査は、2014年度は、2014年 10 月 15 日(第 3 水曜日)を第 1 回とし、2015 年 4 月 15 日(第 3 水曜日)まで計 13 回にわたって行いました。毎月 2 回ずつ原則として第 1・第 3 水曜日に計数調査を行いました。ただし、12 月の第 3 週については、当会で行う恒例の水鳥調査が 12 月 23 日であることから、その調査との関連性を念頭に、第 4 水曜日 (12 月 24 日)に変更していただき、実施しました。

2015年度は2015年9月16日(第3水曜日)を第1回とし、2016年5月25日(第3

水曜日)まで計 18 回、原則として第 1・第 3 水曜日に計数調査を行いました。しかし、 2 月 17 日の第 3 水曜日には、調査者がインフルエンザに罹患した為一週遅らせ第 4 水曜日の 24 日にしていただいたほか、5 月は第一週が連休にかかるため一週間ずつ繰り延べ、第 2・第 4 水曜日に実施しました。

2016 年度は 2016 年 9 月 7 日を第 1 回とし、2017 年 5 月 24 日まで計 19 回にわたり原則として第 1・第 3 水曜日に計数調査を行いました。ただし、4 月以降は 5 月の連休も考え第 2・第 4 水曜日に変更していただき実施いたしました。

なお、毎年 12 月 23 日に当会が行っている水鳥調査と関連させて(23 日は祝日のため水再生センターの敷地には立ち入りができないので)近い日付に調査を行うことに関しては、初年度は上述のように調査日を一週間ずらしていただきましたが、2 年目 3 年目は水再生センターのご厚意により 12 月の調査日を一日追加し、第 $1 \cdot$ 第 3 水曜日以外に2 年目は 12 月 24 日に、3 年目は 12 月 22 日にそれぞれ 3 回ずつ調査を致しました。

調査時間に関しては、初年度は午前 9:00 から 11:00 までで許可されていましたので、毎 回午前 9:00 に開始し、遅くとも午前 11:00 までに終了しました。2 年目以降は午前 9:00

北側構内

北側水路

本中・杭

この線が示す枠、停泊中の船
上および「枠内」、「北側水路

などにある杭の上部、中
部で水面以外

したので、ゆとりをもって調査し、遅くとも12時までに終了いたしました。 基本的な調査形態は、水再生センター 南端護岸である観測場所からの定点 計数調査です。調査のための便宜として、調査地をその環境に応じ、北側構 内、東側林、北側水路、枠内及び枠南、 枠・杭等建造物に分けました。(図 6-1)

から正午までに延ばしていただきま

枠・杭等は、北側水路や枠内にある杭 や船など人工構造物を含みますが、北 側水路北側にある護岸堤防の水路側 に張り出した棚状の場所は北側水路 に含みます。(図 6-6)

図 6-1 調査領域の区分



図 6-2 北側構内



図 6-3 東側林 (宮本)

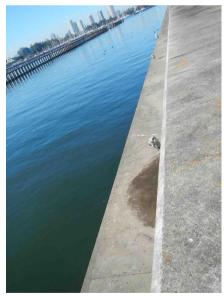
原則としてそれらの区分ごとに一人で、又は、二人で分担して計測し、調査者が複数の

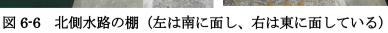


図 6-4 北側水路(手前)、柵の奥が枠内、遠方の枠の奥が枠南 (宮本)



図 6-5 枠、杭 (宮本)





場合にはそれぞれの計測結果を合算して集計しました。

観測は双眼鏡とスコープを併用し、カウンターを使い計測しました。

写真を撮影する協力者がいる場合と、撮影スタッフはいないが、調査者が機材を持参した場合には、撮影された写真を補助的に使用し、計測にもれた種類が無いかどうかを確認しましたが、計数は現場での計測を基本としています。ただし、密集して休んでいるカモなど、スコープを使っても正確に種類と数が判明できない場合で、写真がそれを補完できる場合には、写真計測の数字を採用しました。

北側水路や枠内など、広い水域にいる水鳥で、 分別しやすい群れについては、群れごとに計 測しますが、群れ全体を見渡しにくい場合に は、より見やすい位置に移動してから計測す ることとしました。大きな群れで、計測時に

測するだけでは発見できない場所にいる鳥については、観測場所内を移動し見える状態になったところでその数を計上しました。

枠の上など、計測を終了した場所において、計測後に新たな鳥がとまっていることに気づいた場合には、それまでに計測していないことが明らかなものは加算しましたが、そ

れ以外は無視しました。また、水鳥で調査地内を頻繁に移動しているものは、飛翔中は



図 6-7 枠は一部視界が遮られる (宮本)

原則として無視し、水面採餌中や枠など 建造物や林などで休止中の数を計測し ました。ただ調査地外から来て調査地外 への移動中または調査地外や未計測場 所から既計測場所への飛来など、未計測 の群れや個体に気づいた場合には加算 しました。

陸鳥は、林の木にとまっている鳥や、上空を通過する鳥などで、姿を見たものと声で同定可能な鳥の声を聞いたものについては計測数を記録しましたが、この

たびの調査は水鳥を中心としていますので、計測結果は参考値にとどめました。 なお、飛翔している鳥を計測する場合は、その飛翔している場所が複数の調査領域に含まれる場合には「飛翔中」として計測しましたが、例えば北側の構内や東側の林の上空のみを飛翔している場合には、それぞれ「北側構内」「東側林」として計測しました。

本調査において「水鳥」とは、カモ目(Anseriformes)カモ科(Anatidae)、カイツブリ目 (Podicipediformes)カイツブリ科 (Podicipedidae)、カツオドリ目 (Suliformes)ウ科 (Phalacrocoracidae)、ペリカン目 (Pelecaniformes)サギ科 (Ardeidae)、ツル目 (Gruiformes)クイナ科(Rallidae)、チドリ目(Charadriiformes)シギ科(Scolopacidae)ならびにカモメ科(Laridae)の計6目7科の鳥類とし、残りを「陸鳥」と総称します。全調査期間中、カモメ類に種類を同定できないもの(カモメ sp)がありましたが、これは種類数に加算はせず、個体数はカモメ科として計上しました。

7. 調查結果

7-1 概況

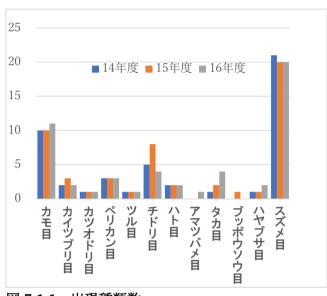


図 7-1-1 出現種類数

の計 33 種は、全体の 55% を占めます。

調査期間を通じて、単年度のみ出現した種は次の通りです。

2014 年度:イソヒヨドリ(Monticola solitarius)、オオジュリン(Embiriza schoeniclus)、2015 年度:キアシシギ(Heteroscelus brevipes)、キョウジョシギ(Arenaria interpres)、コアジサシ(Sterna albifrons)、カワセミ(Alcedo atthis)、

2016 年度:ミコアイサ(Mergellus albellus)、ヒメアマツバメ(Apus nipalensis)、オオタカ(Accipiter gentilis)、ノスリ(Buteo buteo)、ハヤブサ(Falco peregrinus)、セグロセキレイ(Motacilla grandis)。

また、反対に単年度のみ出現しなかった(他の2年度は出現した)種は、次の通りです。 2014年度:カンムリカイツブリ(Podiceps cristatus)、ミサゴ(Pandion haliaetus)、セッカ、

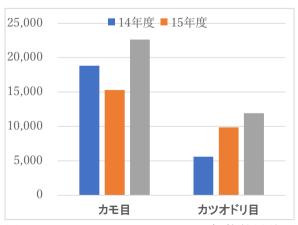


図 7-1-2 カモ目、カツオドリ目個体数累計

2014年度、2015年度、2016年度の調査期間を通じ、計測された鳥類を年度ごとに「目」別に整理し、種類数をグラフにしたものは図 7-1-1 の通りです。ここでは、水鳥に限らず参考値の陸鳥も含めています。

調査期間中に出現した種類数は、ハト目 (Columbiformes) で 外 来 種 の ド バ ト (*Columba livia*)を含み、2014 年度は 47 種類、2015 年度は 52 種類、2016 年度は 51 種類で、3 年間を合計すると 60 種類 の鳥類が出現しました。

中でもスズメ目(Passeriformes)が最多で 15 科計 23 種類です。陸鳥 6 目 21 科

2015年度は該当なし、

2016 年度:カイツブリ(Tachybaptus ruficollis)、オオセグロカモメ(Larus schistisagus)、ホオジロ(Emberiza cioides)。

一方、出現した総個体数を年度ごとに累計すると、カモ目(Anseriformes)とカツオドリ目(Suliformes)の数が突出するため、全ての「目」を同一グラフで比較すると、その他の種類がほとんど見られなくなります。そこで、図7-1-2では、カモ目とカツオドリ目だけを集計

し、図 7-1-3 ではその他の種類を目別に集計し、分割して表示しています。

個体数で見ると、図 7-1-2 のようにカモ目が圧倒的です。カモ目ではカモ科(Anatidae) のみで 3 年間に合計 11 種類出現しています。個体数は 2014 年度には、10 種累計で 18,819 羽出現したものが、2015 年度には 10 種 15,295 羽と若干減少したように見られましたが、2016 年度には 11 種 22,629 羽と数を増やしました。各年度の出現個体数累計を調査年度ごとの調査日数で割り、一調査日当たりの単純平均個体数で見ますと、 2014 年度は 1,448 羽、2015 年度は 850 羽、2016 年度は 1,191 羽となります。

3年間のカモ科の個体数累計を合計すると 56,743 羽ですが、これは、陸鳥を含む全種類の 3年度累計個体数 89,522 羽の 63.4%を占めています。

図 7-1-2 でカモ目に次いでいるのは、カツオドリ目ですが、ウ科(Phalacrocoracidae)の、カワウ(*Phalacrocorax carbo*)が一種類のみ出現しています。年度ごとのカワウの個体数

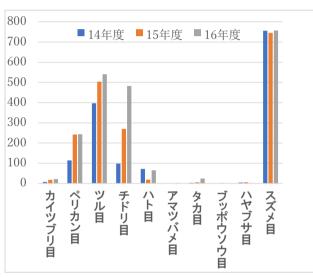


図 7-1-3 「目」別その他 個体数累計

累計を見ますと、2014年度は5,588羽、2015年度は9,886羽、2016年度は11,910羽で、これは、一調査日当たりでは2014年度は430羽、2015年度は549羽、2016年度は627羽出現したことになり、3年間のカワウの総累計数27,384羽は全体の30.6%を占めています。カモ科とウ科の12種類で個体数は全体の94%を占めていることになります。

図 7-1-3 では、水鳥ではツル目 (Gruiformes) が 多く、チドリ目 (Charadriiformes)、ペリカン目

(Pelecaniformes)が続き、わずかにカイツブリ目(Podicipediformes)が見られましたが、 陸鳥ではハト目がわずかとスズメ目程度です。

種類数では上述のように陸鳥が 6 目 21 科合計 33 種と圧倒的でしたが、個体数の累計では、陸鳥は 3 年間の累計で 2,459 羽と全体の わずか 2.8%に過ぎません。 その他,6

図 6-1 の調査領域の区分にしたがって、鳥類の出現個体数の 3 年度累計を見てみますと、陸鳥がいた場所は図 7-1-4 のように、北側構内が圧倒的です。これは、調査のための観測場所が、北側構内の南端に沿っていることと関係があるのではないかと推測されます。観測数の少ない鳥は、当然偏った出現となりますが、それら観察数の少ない鳥を除くと陸鳥の多くは北側構内と東側林のどちらでも観測されています。

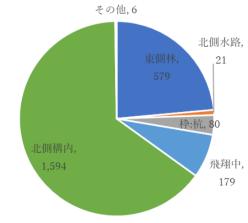
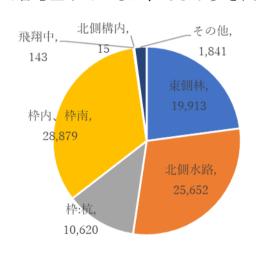


図 7-1-4 陸鳥の分布域概要

北側水路はトビ($Milvus\ migrans$)とチョウゲンボウ($Falco\ tinnunculus$)がそれぞれ 1 度ずつ同水路の上空を飛翔していたところを観測しています。また北側水路北側にある護岸堤防の水路側に張り出した棚状の場所も北側水路としていますが(図 6-6)、その棚状の部分にとまっていた陸鳥もいます。ハクセキレイ($Motacilla\ alba$)が 17 回と圧倒的ですが、カワセミ($Alcedo\ atthis$)、ツグミ($Turdus\ naumanni$)も 1 度ずつ観測されています。

水鳥については後ほど種ごとに詳しくみますが、図 6-1 の調査領域の区分にしたがって、 水鳥の出現数を見てみますと図 7-1-5 の通りです。

カモ科の鳥たちは、調査地では主として休息しているものが多く観測されました。「休息しているもの」には、枠や杭、浮き桟橋などの建造物の上で嘴を羽の中に入れ、睡眠できる体勢でいるもの、首はあげているが、腹を建造物につけているもの、両足で立って首も上げているが、あまり歩き回っていないものも含み、水面に浮かんでいても採餌



行動を行っていないもの、羽繕いをしている ものなども「休息しているもの」に含んでい ます。

採餌行動は、休息している鳥たちの近くで潜水しているものが見られましたが、潜水しないカモ類や、潜水するカモ科の中でも特にホシハジロ(Aythya ferina)、クイナ科のオオバン(Fulica atra) などは、枠や杭などのすぐ下で、そこについた海藻類や貝類などを採餌している様子がより多く観測されました。

図 7-1-5 水鳥の分布域概要

出現場所別に見ますと、東側林で観測された水鳥の99.3%はカワウで、サギ科の鳥たちが

0.7%ではありますが、それに次いでいます。北側水路と枠内、枠南ではカモ科の鳥たちが圧倒的で、北側水路では93.9%、枠内、枠南では97.7%がカモ科の鳥たちです。 枠・杭で観測された水鳥は、カワウが62.3%、カモ科の鳥たちが30.7%、サギ科が3.3%、カモメ科が1.4%と、枠・杭は多くの種類の鳥たちに利用されています。

7-2 種類別狀況

この項で以下に使うグラフの縦軸は個体数を示し、横軸は、2016年度の調査日数を基準に各調査日を示します。

横軸は月を数字で、その月における第一回調査日を①、二回目を②で表示しています。初年度、次年度と調査開始や終了の時点が異なりますので、グラフの表示がないのが、鳥の出現がなかったということもありますが、調査が行われていなかった場合もあります。(12月には③もあります。2014年度においては、12月は2回のみの調査でしたので、①と③に記載しています。)

7-2-1 カモ目カモ科

カモ目カモ科の鳥は 11 種類を観測しています。内訳は、俗に陸ガモまたは淡水ガモと いわれるマガモ属(Anas)7種、海ガモまたは潜水ガモといわれるカモのうち、スズガモ 属(Avtha)3種、同じく潜水ガモのミコアイサ属(Mergellus)1種ですが、調査期間中の個 体数累計を比較すると、マガモ属は9.33%、スズガモ属は90.67%、ミコアイサ属は3 年でただ1羽の出現ですので、比率ではゼロとなっています。個体数を比較すると、ス ズガモ属が圧倒的ですが、個別種ごとに数や出現の仕方などに特徴があります。 以下に個々の種類について、出現した場所と個体数の推移を図で示します。

7-2-1-1 オカヨシガモ(Anas strepera)



図 7-2-1-1 オカヨシガモ



(宮本)

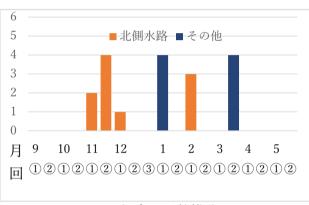


図 7-2-1-1a 2014 年度出現数推移

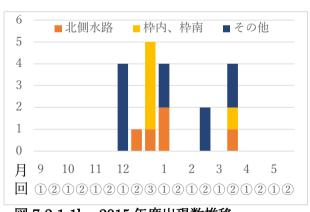


図 7-2-1-1b 2015 年度出現数推移

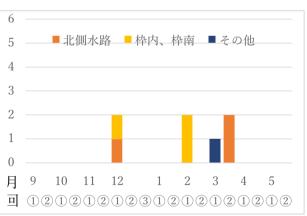


図 7-2-1-1c 2016 年度出現数推移

オカヨシガモは、調査期間中の個体数累計で2014年度に18羽、15年度に20羽、16 年度に7羽出現しています。毎年度の初記録は11月~12月と少し遅めで、4月の最初 の調査日までには旅立ってしまうようです。観測されない日も多くあります。出現した 場所で「その他」とあるのは、オカヨシガモの場合は、運河またはその対岸(夢の島マリ ーナ側)です。出現場所は、年によって若干の違いはありますが、7-2-1-1a~c 各図の通 り、北側水路、枠内、運河と概ね偏りがなく出現しているように思われます。調査時の 印象としては、オカヨシガモの"定位置"は、各場所の西側で観測することが多く、北 側水路や枠内の東側では出現していない印象があります。

7-2-1-2 ヒドリガモ(Anas penelope)

ヒドリガモは、個体数累計で14年度に278羽、15年度は162羽、16年度は174羽出 現しています。14年度が他の年に比べて100羽以上多く観測されました。



図 7-2-1-2 ヒドリガモ



図 7-2-1-2a 2014 年度出現数推移

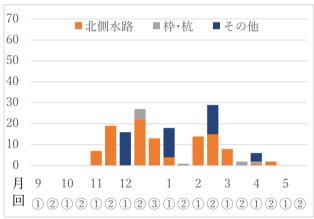


図 7-2-1-2b 2015 年度出現数推移

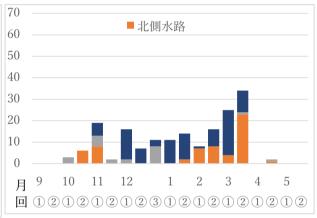


図 7-2-1-2c 2016 年度出現数推移

ヒドリガモは10月~11月に到来し、4月までほぼ毎回観測できました。図で見られる ように、14年度は北側水路と枠内に出現したものが目立ちましたが、15年度は枠上で 休息しているものや運河の奥、水門近くで土が露出している付近にいるものが多くみら れ、16年度は水門の肩にあたるコンクリートでできた建造物上にいるものが目立ちまし た。

どの年も北側水路や枠内にいるものは、どちらかというと、枠に近いところにいる傾向

があり、枠や運河の縁から離れた場所では、 キンクロハジロの群れに混ざって出現して いる光景が多く観測されました。

7-2-1-3 マガモ(Anas platyrhynchos)

マガモは、個体数累計で14年度に269羽、 15年度は224羽、16年度は348羽出現し ています。毎年初めて観測してから最後に 観測するまで毎回の調査で出現しています が、全調査日に出現しているわけではあり



図 7-2-1-3 マガモ

(宮本)

ません。マガモの出現の如何を問わず出現数を全調査回数で平均すると、14年度は毎回 平均20.7羽、15年度は12.4羽、16年度は18.3羽で、3年度の全調査期間の平均は16.8

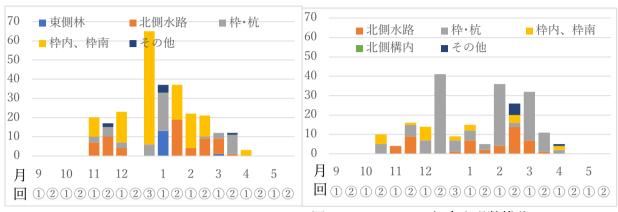


図 7-2-1-3a 2014 年度出現数推移

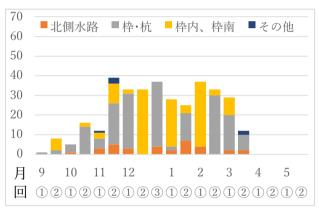


図 7-2-1-3c 2016 年度出現数推移

図 7-2-1-3b 2015 年度出現数推移

羽となっています。

最大数を計測したのは2014年12月24日で、65羽でした。図7-2-1-3a~cを見ますと枠内で出現したものが相当数ありますが、本件調査が行われなかったとしたら、北側水路の棚で休息していたものが、調査者の気配で飛び立ち、枠内に逃げたものが多くいましたので、枠内で計測されたものの中には本来は北側水路となるべきものが多く含まれていると思われます。

7-2-1-4 カルガモ(Anas zonorhyncha)

カルガモは、カモ科の中で、江東区において繁殖が確認されている唯一の種類(日本野鳥の会東京支部、東京都産鳥類目録 2000、自治体編 ver.1)です。全調査日に出現していますが、図 7-2-1-4a \sim c のようにその出現のパターンは必ずしも毎年おなじような変化を見せるものではありません。共通していることは、4 月以降は計測数が大きく減少するということくらいでしょうか。個体数累計で 14 年度に 242 羽、15 年度は 498 羽、16



図 7-2-1-4 カルガモ



図 7-2-1-4a 2014 年度出現数推移

年度は801羽出現しています。このように、2年目に減少せず、しかも3年目に初年度

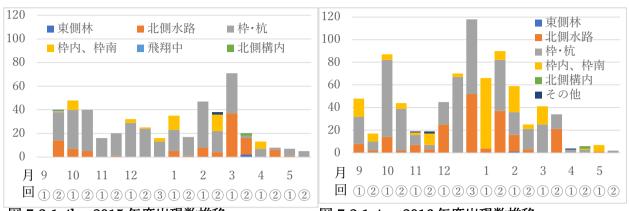


図 7-2-1-4b 2015 年度出現数推移

図 7-2-1-4c 2016 年度出現数推移

よりも数が増えているという傾向を示しているものは、カモ科の中でコガモとカルガモだけです。2年目には初年度の2.1倍に増加し、3年目には初年度の3.3倍となり、本調査においては、3年度とも出現している水鳥中最大の伸び幅を示しています。

出現数を全調査回数で平均すると、14年度は平均18.6羽、15年度は27.7羽、16年度は42.2羽で、3年間の全調査期間の平均は30.8羽となっています。最大数を計測したのは2016年12月22日で、118羽でした。最小数は16年5月24日の2羽でした。北側水路や枠の南側にある護岸や枠の下あたりで採餌している姿が多く見られたものの、枠・杭で休んでいる数の累計は14年度に127羽、15年度は340羽、16年度は432羽で、本種の年度別個体数累計における休んでいるものの比率は、14年度52.5%、15年度68.3%、16年度53.9%と実に毎年半数以上が水から上がって休息している状態でした。

7-2-1-5 ハシビロガモ(Anas clypeata)



図 7-2-1-5 ハシビロガモ

図 7-2-1-5a 2014 年度出現数推移

ハシビロガモは、図 $7-2-1-5a\sim c$ で明らかなように、初年度で 3 回出現しましたが、あとは、15 年度に 1 羽、16 年度にも 2 羽とそれぞれ一度ずつしか出現していません。3 年間で 5 回累計 11 羽の出現ですが、最大は図 7-2-1-5a の 14 年度 1 月 21 日の 5 羽の記録です。全てが北側水路での観測です。本件調査において、カモ科の中ではミコアイサに次いで希少な種類となります。出現した時には、キンクロハジロ等の群れに混ざっ

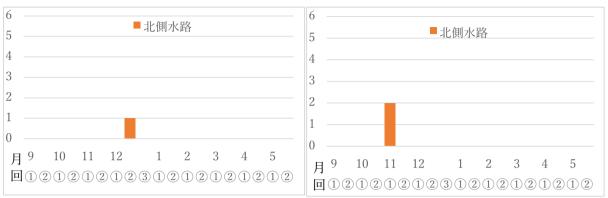


図 7-2-1-5b 2015 年度出現数推移

図 7-2-1-5c 2016 年度出現数推移

ていることが多いように思われました。

7-2-1-6 オナガガモ(*Anas acuta*)

オナガガモは、個体数累計で14年度に96羽、15年度は52羽、16年度は79羽出現し ています。図 7-2-1-6b と c を見ると 15 年度には最小で 2 羽、最大で 12 羽、16 年度は 最小で 3 羽、最大で 18 羽と増減の動きはあるものの緩やかであるのに対し、図 7-2-1-6a(14 年度)では、出現数が 2 回大きく突出しその他は 1~2 羽と極端に数の偏り



図 7-2-1-6 オナガガモ

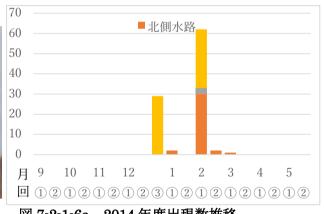


図 7-2-1-6a 2014 年度出現数推移

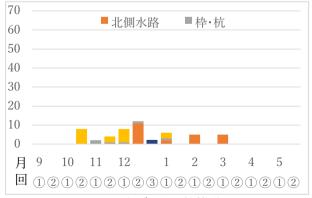


図 7-2-1-6b 2015 年度出現数推移

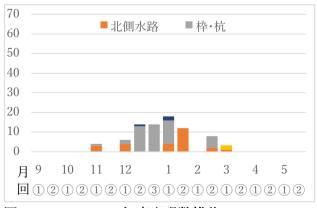


図 7-2-1-6c 2016 年度出現数推移

がありました。突出した記録では12月24日に29羽が枠内で計測され、2月4日には、 枠内に 29 羽、枠に 3 羽、北側水路に 30 羽の計 62 羽が計測されました。この 2 月 4 日 に北側水路にいたものの大部分は堤防下の棚状の場所で、ヒドリガモやハシビロガモと ともに休んでいました。

出現数を全調査回数で平均すると、14 年度は 7.4 羽、15 年度は 2.9 羽、16 年度は 4.2 羽で、3 年度の全調査期間の平均は 4.5 羽となっています。

7-2-1-7 コガモ(Anas crecca)



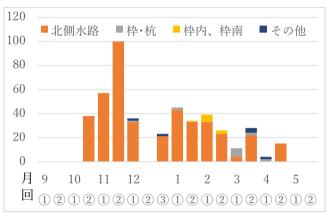
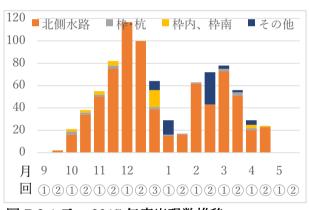


図 7-2-1-7 コガモ

(宮本)

図 7-2-1-7a 2014 年度出現数推移



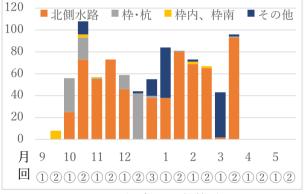


図 7-2-1-7b 2015 年度出現数推移

図 7-2-1-7c 2016 年度出現数推移

コガモは、個体数累計で 14 年度に 456 羽、15 年度は 847 羽、16 年度は 904 羽出現しており、毎年マガモ属の中で最大の個体数を維持しています。また、2 年目、3 年目と年を追って数を増やす傾向を示しているものは、カモ科の中でコガモとカルガモだけです。毎年初めて観測してから最後に観測するまで毎回の調査で連続して出現していますが、全調査日に出現しているわけではありません。

図 7-2-1-7a~c を見ますと、少数が比較的早くから到来し、次第に数を増やしてその年度の最大数を計測すると徐々に減少しますが、年が変わってからまた少し増え、そして最後の観測までに徐々に減少するという 2 度の増減パターンがあるように思われます。ただし、16 年度は 3 月の 2 度目の調査がコガモのその年最後の計測となりましたが、それがその年度で 2 番目に多い数となり、それまでのパターンとは違っています。

コガモの出現数を出現しなかった日も含めて全調査回数で平均すると、14 年度は毎回平均 35.1 羽、15 年度は 47.1 羽、16 年度は 47.6 羽で、3 年度の全調査期間の平均は 44.1 羽となっています。

調査期間を通して北側水路にいるものが圧倒的に多かったのですが、これは北側水路北 側堤防下の棚の最西端で休息しているものがほとんどでした。

7-2-1-8 ホシハジロ(Aythya ferina)



図 7-2-1-8 ホシハジロ

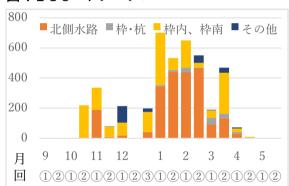


図 7-2-1-8a 2014 年度出現数推移



図 7-2-1-8b 2015 年度出現数推移

ホシハジロは、これまで記述してきたカモ科のマガモ属とは異なり、潜水して採餌するスズガモ属に属しますが、個体数累計で14年度に4,215羽、15年度は3,882羽、16年度は11,598羽出現しており、マガモ

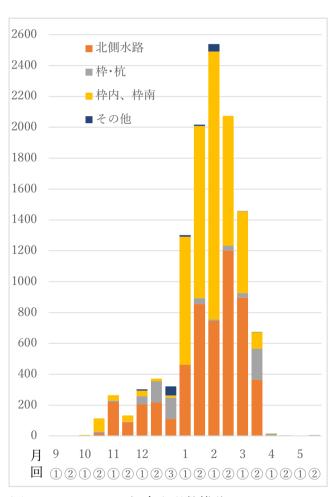


図 7-2-1-8c 2016 年度出現数推移

属各種と比べてケタ外れに多い個体数が計測されています。3 年度の出現個体数累計で 19,695 羽になりますが、カモ科では後述のキンクロハジロに次いで第 2 位であり、水鳥全体の中で最大の出現数を計測したカワウを加えても第 3 位と最も個体数が多く出現した水鳥の一つであると言えます。中でも 16 年度の 2017 年 1 月 18 日、2 月 15 日の連続 3 回の調査日において、それぞれ、2,017 羽、2,539 羽、2,074 羽と 2,000 羽を超える個体数が計測されておりますが、一度の調査において一種類で 2,000 羽を超えたのは、3 年度を通じて全ての水鳥の中でホシハジロのこの 3 回だけです。

図 7-2-1-8c の図の大きさが図 7-2-1-8a、b と異なっていますが、ホシハジロの 3 年度目

の個体数増加の大きさを比較するために、個体数を示す縦軸の補助線の間隔を $a\sim c$ ともに、ほぼ同じにして示したことによるものです。

このように、ホシハジロは 16 年度の数が著しく増加しましたが、3 年間のホシハジロの個体数動向を見てみますと、毎年 10 月第 2 回目の調査日から増え始め、年が変わり 1~2 月になってからは、年末までにいた数より多くなり、その後 3 月 2 回目の調査を最後に移動し 4 月にはほとんど見られなくなるという傾向が見られます。出現場所は、北側水路に出現したものと枠内、枠南に出現したものが多くみられます。スズガモ属の 3種の中では、ホシハジロは枠・杭に上がったり、北側水路のうち、観測場所の下にある棚状の場所に上がるなど、水から上がって休んでいたものが多くみられました。後述のキンクロハジロ、スズガモはホシハジロに比べて枠・杭で休んでいたものはごく少数でした。また、水面で枠の下など建造物についた藻や小動物などを採餌しているとみられるものが多くいたのも、スズガモ属の 3種の中では特徴的と思われました。群れで水面上にいるものは、キンクロハジロの群れに近く、またはその群れに混ざっているものもいましたが枠内では西北寄りの場所に出現する傾向がありました。

7-2-1-9 キンクロハジロ(Aythya fuligula)



図 7-2-1-9 キンクロハジロ (宮本)



図 7-2-1-9b 2015 年度出現数推移

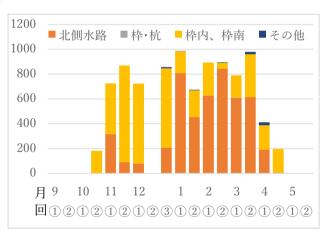


図 7-2-1-9a 2014 年度出現数推移



図 7-2-1-9c 2016 年度出現数推移

キンクロハジロは、個体数累計で14年度に9,197羽、15年度は7,003羽、16年度は6,472羽出現しています。カモ科の中で3年連続して減少しているのは、後述のスズガモと、キンクロハジロの2種だけですが、3年間の出現個体数の総累計で22,672羽であり、ホシハジロの19,695羽を大きく引き離しカモ科の中で最大の累計個体数を計測しています。年度ごとの個体数累計でも3年目はホシハジロに及びませんでしたが、初年度と2

年目はカモ科中でトップでした。

年度ごとの個体数の変化を見ますと、初年度は図 7-2-1-9a のように、個別の変化はあるものの調査期間を通じて圧倒的な個体数を維持していましたが、2年目は図 7-2-1-9b のように、11 月と 3 月に個体数のピークをもち 1 月に大きく減少する形となりました。 3 年目は、1 月の落ち込みはそれほど大きくありませんでしたが、図で見ると 1 月の落ち込みが前後半でピークを分けているように見えます。

キンクロハジロは水から上がって休むものはあまりなく、運河にせり出した部分を含む「北側水路」と、「枠内、枠南」が中心でした。多くは水面で休んでいましたが、泳いでいるものや、たまに潜水して採餌をしていると思われるものもいました。

7-2-1-10 スズガモ(Aythya marila)



図 7-2-1-10 スズガモ



図 7-2-1-10a 2014 年度出現数推移



図 7-2-1-10b 2015 年度出現数推移



図 7-2-1-10c 2016 年度出現数推移

スズガモは、個体数累計で14年度に4,040羽、15年度は2,606羽、16年度は2,243羽 出現しています。カモ科の中で3年連続して減少しているのは、上述のキンクロハジロ とスズガモの2種だけです。

3年間の出現個体数の総累計では 8,889 羽とスズガモ属 3種の中では 2位のホシハジロの半数にも及ばないものの、マガモ属で最多のコガモと比べると約 4倍とかなりの存在感があります。年度ごとの個体数の変化を見ますと、初年度は図 7-2-1-10a のように、調査日ごとにばらつきはあるものの調査期間を通じ徐々に増えて 2月中にピークを打ち、その後徐々に減る傾向が見られましたが、翌年度になりますと、個体数は、11月に 366 羽と前半のピークを付けた後は増えることなく 100 羽を超える程度で推移していました

が、2月の2度目の調査日には全く出現せず、渡り前の3~4月に500前後に数を増やす形に変わりました。3年目はそれがさらに極端になり、11月中に400羽程度でピークを付けた後は減少し、3月の1度目の調査では出現せず、2度目の調査日にもわずか4羽とほぼ一か月ほとんどいない状態となりましたが、4月になると3年間の全調査日を通して最大数である883羽を記録しました。

スズガモは、大部分が枠内におり、北側水路で観測されるものはごくわずかです。枠や杭にいたものはさらに少なく、初年度全調査日合計で1羽、翌年度は2羽、3年目は増えましたが14羽と枠や杭などの人工物の上で休息をとるものはほとんどいませんでした。枠内にいるスズガモの多くは水面で休息している様子で、採餌行動はほとんど見られませんでした。

また、全調査期間を通じて大きな群れの移動はあまり見られませんでしたが、初年度の12月の2度目(初年度は12月に2度しか調査が行われなかったのでグラフでは③)の調査日には約30羽が南東方向から飛来し、2月最初の調査日には、約200羽の群れが2組東方向から飛来し、それぞれ枠内に着水しました。

7-2-1-11 ミコアイサ(Mergellus albellus)



図 7-2-1-11 ミコアイサ(♀)

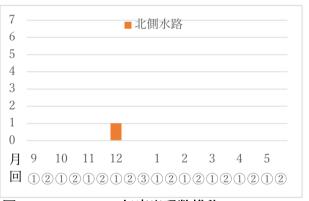


図 7-2-1-11 2016 年度出現数推移

ミコアイサは、潜水して採餌するいわゆる潜水ガモの一種ではありますが、くちばしが 細く先がかぎ状に曲がっているアイサの仲間で、分類上はミコアイサ属という独立した 属に配置されています。わが国ではそれほど珍しい種類ではありませんが、出現場所や 出現個体数は限られています。この調査では、3年の中でただ一度 2016 年 12 月 7 日に オスのエクリプス 1 羽が観測されました。

北側水路のキンクロハジロを中心としたあまり密度が高くない群れの中を、たびたび潜水しながら運河方向に移動していました。その後調査中に所在を確認しても長く同じ場所に滞在していませんでしたので、たまたま貯木場の水路を利用したような印象を持ちました。

7-2-2 カイツブリ目カイツブリ科

カイツブリ目カイツブリ科の鳥は3種類を観測しています。毎回出現するものではありませんが、調査結果としては3種類の合計数は初年度7羽だったものが翌年度は17羽、3年目は21羽と増加をしています。出現した3種はいずれも、出現頻度と個体数から、調査地で生息ないし越冬しているというよりは偶発的に調査地で餌採りを行っていた

ように見受けられました。 以下に個々の種類について、出現した場所と個体数の推移を図で示します。

7-2-2-1 カイツブリ(Tachybaptus ruficollis)



図 7-2-2-1 カイツブリ



図 7-2-2-1b 2015 年度出現数推移

7-2-2-2 カンムリカイツブリ(*Podiceps* cristatus)



図 7-2-2-2 カンムリカイツブリ (宮本)

カンムリカイツブリは、14 年度は一度も観測されませんでしたが、15 年度は5



図 7-2-2-1a 2014 年度出現数推移

カイツブリは 14 年度 1 回、15 年度 4 回観測されましたが、16 年度は観測されませんでした。いずれも出現した時は 1 羽のみで、出現場所は、枠内と北側水路の東側です。頻繁に潜水を繰り返していました。



図 7-2-2-2b 2015 年度出現数推移



図 7-2-2-2c 2016 年度出現数推移

回、個体数累計で8羽、16年度は10回、累計15羽が計測されました。 観測された場所は、北側水路が多く、15年度75%、翌年度は80%と圧倒的でした。北 側水路では東側の広い水域におり、潜水採餌行動をしていました。

7-2-2-3 ハジロカイツブリ(Podiceps nigricollis)



図 7-2-2-2 ハジロカイツブリ (宮本)

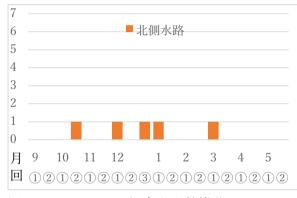


図 7-2-2-3b 2015 年度出現数推移



図 7-2-2-3a 2014 年度出現数推移



図 7-2-2-3c 2016 年度出現数推移

ハジロカイツブリの累計個体数は、14年度6羽、15年度5羽、16年度は6羽と多くはありませんが、安定しているように思われます。その出現時期は、初年度は1、2月のみ、次年度は10月から3月、3年目は12月から2月と若干の違いはあるもののやや遅めに出現して3月上旬までには姿を見せなくなる傾向があるようです。

出現場所はほとんどが北側水路で、それも観測場所のすぐ南を含めた東側にいる傾向が 強く、運河寄りでは観測されませんでした。

いずれも採餌活動をしていると思われ、頻繁に潜水を繰り返していました。

7-2-3 カツオドリ目ウ科

カツオドリ目ウ科の鳥は、カワウ(Phalacrocorax carbo) 1種のみ観測しています。調査地東側の林では、毎年コロニーが形成され、カワウが繁殖をしています。コロニーの存在は、荒川下流の新砂干潟側からも、遠望することができます。本調査においては、繁殖状況の詳細を観察するには、観測場所は遠く、またそれだけの時間的なゆ



図 7-2-3 カワウのコロニー

とりはありませんでしたが、巣作りから抱卵、育趨に至る間の変化を断続的に観測できました。

カワウの個体数は、枠の上や東側林で大部分を計測できます。飛翔中や水面で採餌を行っているものの多くは、東側林などに戻るものが普通なので、頻繁に水中での採餌とコロニーへの飛翔を繰り返しているものの数は、重複計測の可能性が高くなるため原則として計測をしていません。しかし、水面に長くとどまり、潜水採餌行動をしているものはその出現水域において、また、上空を通過するものについては飛翔中として計測しましたが、その数は多いものではありません。なお、各図における「その他」は運河です。

7-2-3-1 カワウ(Phalacrocorax carbo)

カワウは個体数累計で 14 年度に 5,588 羽、15 年度に 9,886 羽、16 年度は 11,910 羽で



図 7-2-3-1 カワウ (宮本)



図 7-2-3-1a 2014 年度出現数推移

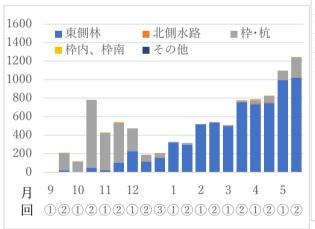


図 7-2-3-1b 2015 年度出現数推移



図 7-2-3-1c 2016 年度出現数推移

毎年増加し続け、3年間の累計では27,384羽と、調査地において観測した中で、どの種類よりも多く出現しました。初年度の個体数累計は、キンクロハジロの9,197羽に次いで2番目でしたが、2年目、3年目はいずれも最も多く出現しています。

毎回の調査においてカワウは必ず出現し、その場所も広範囲に及びます。一般的な状況としては、毎年調査開始当初は多数のカワウが枠の上で群れを作り、休んでいる状態ですが、徐々に東側林にいるものが増えていき、巣材を運んでいる個体を目にすることも増えます。その後、抱卵するようになると、カワウの姿も巣に隠れて見にくくなりますが、雛が孵るころには、親も巣から立ち上がることが多くなり、数も計測できるものが

増えていきます。多くの巣で雛が孵ってくると、成鳥が林と運河、枠内、北側水路などとの間を活発に往復する姿が見られます。(観測場所からは明確ではありませんでしたが、東側林から東の荒川方向に飛んでいる個体も少なくないと推測されます。) 雛が大きくなると、両親が共に巣を離れて採餌活動を行っているようでしたが、距離が遠いためスコープで観測しても、巣内にいる雛の姿を確認できるのはほんのわずかです。しかし、ヒナが大きくなるにつれ数を計測できるようになり、計測個体数も増加していきます。早く孵化したヒナは巣立ちのころには巣を離れ近くの木の枝や、電線にとまるものが増え、さらに大きくなると一部は貯木場の枠や杭に移動するものも目に付くようになります。

図 7-2-3-1a~c を見ますと、毎年概ねこのような増減の傾向が確認できますが、3 年目 すなわち図 7-2-3-1c では、9 月の調査開始時点と 11 月の第一回目の調査が他には見られないほど数が突出しており、特異な印象を受けます。

このうち9月の調査開始時点については、調査をしていない夏の間に個体数がどのよう に変動しているかは不明ではありますが、次のように推測することはできましょう。 カワウは江東区内では留鳥として一年中生息していますので、調査期間を過ぎた後もカ モ類とは異なり通年東側林の周辺にある程度の数が留まっています。このことは、当会 が毎月行っている新砂干潟のモニタリングの際にもカワウが東側林に多数留まってい るのを目撃していますので、正確な数はわからないものの、傾向としては誤ってはいな いものと推測でき、図 7-2-3-1c の第 1 回目の調査は、図 7-2-3-1b の最後の調査に続い ていますので個体数もおおむね継続しているのではないかと推測することができます。 繁殖期に個体数がピークになった後、すなわち 15 年度の最後に計測された数がピーク でその後徐々に巣立つヒナが増え、枠や杭など付近にとどまっているのだと考えると、 これらbとcの図の継続性はつじつまがあうものと思われます。その後、ヒナたちが自 立すると秋から冬にかけて親も一時的に貯木場を離れ各地に移動する個体が多くなる ので貯木場では減少していき、個体数は12月から1月にかけて最低レベルに落ち込む という年間の変動状況が推定できます。図 7-2-3-1c の 9 月の調査開始時点の数字につ いては、この推測の下ではこのような説明ができるのではないでしょうか。(図 7-2-3-1a とbの間については、初年度は4月に調査が終わり、次年度が9月の第2週からの調査 なので、b-c ほど明確に数字の連続性を示せません。また、初年度には 4 月中に早くも 個体数が減少し始めているので、これとの関係もある可能性があります。ヒナたちの巣 立ちと、ヒナが自立して他の場所に飛び立っていくタイミング、また、成鳥の最初のヒ ナを巣立たせた後また繁殖活動を行うかどうかなどの関係を知ることができるともう 少し状況が明らかになるものと考えます。)

奇異に感じるのは図 7-2-3-1c 11 月の数の突出です。

調査日は2016年11月2日で、その日は風が強く9:05に開始時点の気温が13.5 $^{\circ}$ C、11:17の終了時点の気温が11.5 $^{\circ}$ Cと通常は同じか上昇する温度が下がっていますので、かなり寒い日でした。温度の数字だけではさほど低くは見えませんが、その前10月の2回目の気温が22-24 $^{\circ}$ C、前々回の10月1回目の調査では26 $^{\circ}$ Cでしたので、感覚的にはだいぶ寒く、調査時も手袋を必要と感じるほどでした。貯木場では一般に北風が強い時には水鳥たちは風を避けるためか、貯木場の北側(観測場所のすぐ近くの方向)に集まる傾向がありますが、この日も多くのカモが北側寄りに集まっていました。また、カワウが繁殖活動を始める前は、大部分は南側の枠の上にいることが多いのですが、この日は東

側の枠上に多く集結していました。東側林にも多くのカワウがおり、その林に入れなかったものが林に沿う枠の東側部分にいたように見える状況でした。また、この日は東側林の近くにある電線に多くのカワウが止まっていることを観測しています。記録によりますと、上の電線に 52 羽、下の電線に約 32 羽(約とつけたのは林と混然となり電線にとまっているものと、木にとまっているものとの区別がつけにくかったため)合計 100 羽近いカワウが止まっていたことになりますが、若鳥が巣立ち後に電線にとまっていることは、当会の新砂干潟のモニタリングにおいても遠望し承知していましたが、これほどの多数がとまっているところを見たのは、全調査期間を通じてこの時だけです。

いつもは東側の枠の上や電線にはそれほど多くのカワウを見ませんので、この調査日の北風と、肌寒さを感じる気温がある程度影響している可能性が考えられます。

しかし、実際に冬場はこの 11 月の調査日よりも気温が低く寒い日は多く、北風がさらに強く吹く日もありますが、そのような日にカワウが増加することはありませんので、気象条件だけでこの日のカワウの増加を説明することはできません。

前年度のピーク時点(図 7-2-3-1b、5 月第 2 回目)のカワウの数が非常に多かったこと、それにより当歳の幼鳥が貯木場の周辺に多くいた可能性があることなどもある程度影響している可能性がありますし、葛西臨海公園や行徳近郊緑地(かつて野鳥観察舎があったところ)などに生息するカワウ個体数動向との関係も見てみたいものです。

7-2-4 ペリカン目サギ科

ペリカン目サギ科の鳥は3種類を観測しています。

調査地では、運河の南側対岸のごく一部に土が露出した水辺がありますが、そこを除き 岸壁はほぼ全て水中から垂直に立ち上がる壁のようにコンクリート等で固められてい ます。水辺は相当の水深がありますので、サギ類は林や枠など陸上や建造物上でなけれ ば立つことはできません。

このような環境だからだと思われますが、観測されたサギ類はほとんどが休息しているように見えるもので、貯木場上空を通過するために飛んでいるものもわずかに見られました。東側林では、サギもコロニーを作り繁殖することができる環境なのではないかと見受けられますが、実際はカワウの存在が影響しているのか、繁殖期にこの地にとどまっているサギはごく少数で、繁殖の様子は見られませんでした。

以下に個々の種類について、出現した場所と個体数 の推移を図で示します。

7-2-4-1 アオサギ(Ardea cinerea)

アオサギの累計個体数は、14 年度 112 羽、15 年度 214 羽、16 年度は 202 羽出現し、全調査期間の累計で 528 羽と、サギ類の中では最も多く観測されました。毎年ほとんどの調査日に出現しています。秋口から 10~11 月くらいまで少しずつ増え、その後は徐々に減少していくという傾向があるように思われ



図 7-2-4-1 アオサギ (宮本)

ます。

出現場所はほとんどが枠や杭の上ですが、 年が変わるまでは東側林にいるものも少な くありません。1月を過ぎると東側林で観測 されるものが少なくなります。カワウの巣 作りが活発になって増加していくのと反対 にカワウに押されて東側林に寄り付きにく くなるだけではなく、貯木場から離れてい っているかのように見受けられます。

図 7-2-4-1a~c で、北側水路というのは堤防の下、水面側に張り出した棚状の場所です。調査開始時点でその場所に多くのアオ

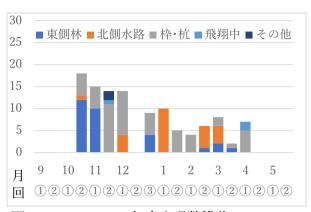


図 7-2-4-1a 2014 年度出現数推移

サギが休んでいますが、残念ながら調査員に驚き地域内のほかの場所に移動する傾向があります。移動したものは移動した先の場所で計測しますが、図 7-2-4-1a の 1 月第 1 週には、堤防下の棚から一斉に飛立った 10 羽のアオサギが全て調査地外に飛散してしまったため、北側水路にいたものとして記録しました。

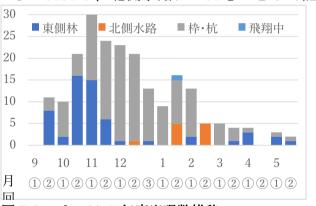


図 7-2-4-1b 2015 年度出現数推移

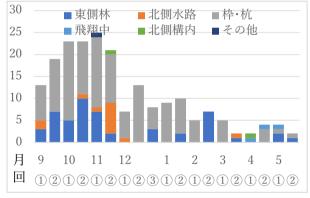


図 7-2-4-1c 2016 年度出現数推移

7-2-4-2 ダイサギ(*Ardea alba*)



図 7-2-4-2 ダイサギ

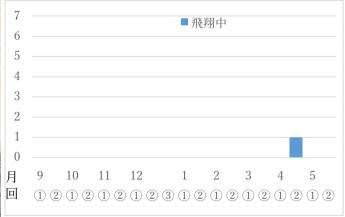
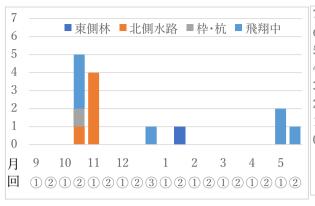


図 7-2-4-2a 2014 年度出現数推移

ダイサギの累計個体数は、14年度1羽、15年度14羽、16年度は21羽出現し、全調査期間の累計で36羽が観測されました。2014年度は4月に一度だけ一羽が上空を通過するところを観測しただけでしたが、翌年度三年目とわずかながら増加しています。



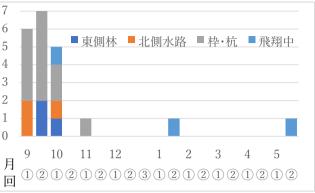


図 7-2-4-2b 2015 年度出現数推移

図 7-2-4-2c 2016 年度出現数推移

初年度を除き、秋には比較的多くの個体を計測していますが、冬から春にかけてはほとんど見られなくなり、たまに上空を通過する個体を観測する程度といった状況です。

7-2-4-3 コサギ(Egretta garzetta)



図 7-2-4-3 コサギ

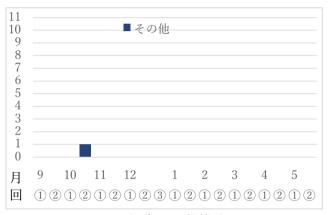


図 7-2-4-3a 2014 年度出現数推移

コサギの累計個体数は、14 年度 1 羽、15 年度 14 羽、16 年度は 20 羽出現し、全調査期間の累計で 35 羽が観測されました。累計個体数の変化は、ダイサギの数字とほとんど同じですが、図 7-2-4-3a~c を見ると、出現の様子はずいぶん違っています。

コサギは 16 年度の 9 月の最初の調査日に一度だけ 11 羽と多数が出現している以外は、通常 1~2 羽が観測され、その場所も広い範囲にわたっています。北側水路は、調査場所の堤防の下、水面側に張り出した棚状の場所で、その他は、運河対岸の土が露出している場所です。



図 7-2-4-3b 2015 年度出現数推移

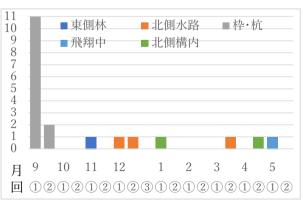


図 7-2-4-3c 2016 年度出現数推移

7-2-5 ツル目クイナ科

クイナ科では、オオバン(Fulica atra)のみが出現しました。北側水路、枠内、枠南ともに多く出現していますが、護岸や枠の下などに近い場所で特に多く、建造物についた小動物や海藻類などを食べているような行動も良く観測されました。枠内の中央部分や運河に近い部分などでもスズガモ属のカモの群れにまじって出現しましたが、観測数は多くありませんでした。

7-2-5-1 オオバン(Fulica atra)



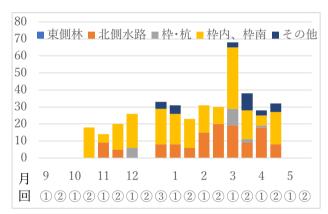


図 7-2-5-1 オオバン

(宮本)

図 7-2-5-1a 2014 年度出現数推移

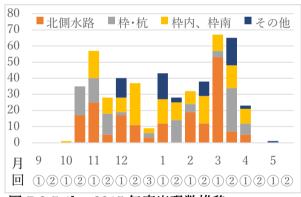
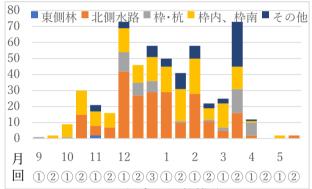


図 7-2-5-1b 2015 年度出現数推移 図 7-2-5-1c 2016 年度出現数推移



オオバンの累計個体数は、14 年度 397 羽、15 年度 504 羽、16 年度は 541 羽出現し、全調査期間の累計で1,442 羽が観測されました。秋から冬にかけての到来直後と帰路につく3 月ころに数を増していますが、冬の間は多少の増減はあるものの、概ね安定して観測されています。年度ごとに各調査日数で割り平均出現個体数を算出すると、14 年度は30.53 羽、15 年度は28.0 羽、16 年度は28.47 羽です。全調査期間の平均では28.84 羽ですので毎年大きな変化がなく観測されているといえるのではないでしょうか。

上述のように護岸や枠の下などに近い場所で特に多く観測されましたが、それは貯木場の各地でみられ、特定の水域で目にするというものではありませんでした。「その他」は運河が多く、運河対岸の土が露出している場所にも見られました。

7-2-6 チドリ目シギ科

チドリ目ではシギ科とカモメ科の2科で8種を観測していますが、その内シギ科は3種です。上述の通り、調査地では、運河の南側対岸のごく一部に土が露出している場所が

あるのを除き岸壁はほぼ垂直の壁のように固められています。水辺は相当の水深がありますので、シギ類はサギ類以上に採餌が困難です。潮の干満の状況によっては枠の一番下の段が水没することもありますが、水没した段の上面に貝や海藻類などが付着するような状況にはなく、一般的にはシギ類の採餌には適さない環境のように思われます。3年の調査期間のうち、旅鳥のキアシシギ、キョウジョシギが出現したのは2016年5月11日のみでしたが、留鳥のイソシギは毎年出現しました。2016年も5月10日に調査を行い、キアシシギとチュウシャクシギのような声が南の方角から聞こえてきましたが、姿の確認ができなかったため、計測数には含めていません。

7-2-6-1 キアシシギ(Heteroscelus brevipes)



図 7-2-6-1 キアシシギ

図 7-2-6-1 2015 年度出現数推移

キアシシギは、3年の調査期間中2015年5月11日に一度だけ、1羽だけ観測されました。出現した北側水路というのは調査のための観測場所となっている堤防の下、水面側に張り出した棚状の場所です。調査者に気付くと南の方角に飛び去りました。

7-2-6-2 イソシギ(Actitis hypoleucos)



図 7-2-6-2 イソシギ

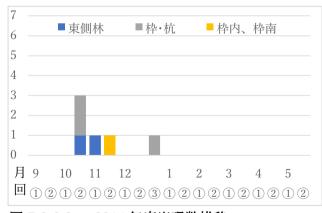


図 7-2-6-2a 2014 年度出現数推移

イソシギの累計個体数は、14年度6羽、15年度18羽、16年度に16羽出現し、全調査期間の累計で40羽が観測されました。秋から冬にかけてやや多く観測されていますが、

多くとも 3~4 羽ですので、他の種類と比べて特に際立っているわけではありません。 出現している場所は、枠の上が最も多く、次いで北側水路の棚、北側構内の護岸、枠南 と東側林の調査地の縁に沿った部分で、対岸奥の土が露出している場所にも見られまし た。一つの場所にじっとしていることはなく、常にせわしく動き回っていますので、休 んでいるというよりは、エサなどを探し回っているのかもしれません。

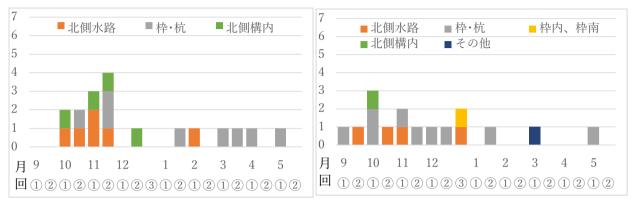


図 7-2-6-2b 2015 年度出現数推移

図 7-2-6-2c 2016 年度出現数推移

7-2-6-3 キョウジョシギ(Arenaria interpres)



図 7-2-6-3 キョウジョシギ

図 7-2-6-3 2015 年度出現数推移

キョウジョシギは、3年の調査期間中2015年5月11日に一度だけ観測されましたが、大きく3つの群れに分かれており、一つは北側水路の棚の部分で13羽、もうひとグループは枠の南側の上部に29羽、三つめは運河の水門の建造物のやや高い部分に50羽がそれぞれ群れでまとまって休息しているようでした。

7-2-7 チドリ目カモメ科

チドリ目ではシギ科とカモメ科の2科で8種出現しましたが、その内カモメ科は5種を 観測しました。

初年度最初の2回の調査日において南端の上空を群れで飛翔するカモメ類で同定ができなかったものがありました。第1回目に17羽、第2回目に4羽、計21羽で、この「カモメ sp」はおそらくセグロカモメではないかと推測されますが、本報告においては、カモメ科の総数には含め、種類数や種類ごとの個体数累計には含めていません。

以下に「カモメ sp」を除く個々の種類について、出現した場所と個体数の推移を図で示します。

7-2-7-1 ユリカモメ(*Larus ridibundus*) 図 7-2-7-1c の図の大きさが図 7-2-7-1a,b と異なっていますが、ユリカモメの 3 年度目の個体数増加の大きさを比較するために、個体数を示す縦軸の補助線の間隔を a~c



図 7-2-7-1 ユリカモメ



図 7-2-7-1a 2014 年度出現数推移

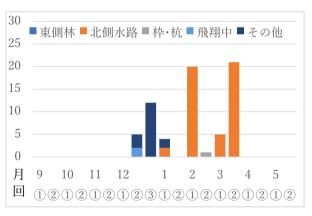


図 7-2-7-1b 2015 年度出現数推移

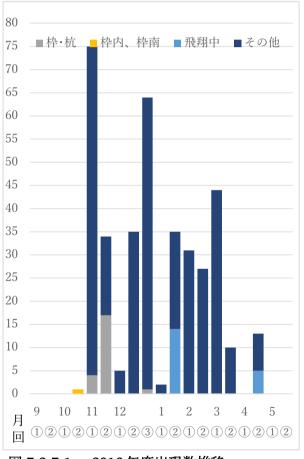


図 7-2-7-1c 2016 年度出現数推移

ともに、ほぼ同じにして示したことによるものです。図 $7-2-7-1a\sim c$ 各図を見ると、ユリカモメの出現数、出現パターン、出現場所が毎回大きく異なっていることがわかります。

累計個体数は、14 年度 25 羽、15 年度 68 羽、16 年度に 376 羽出現し、全調査期間の累計で 469 羽が観測されました。16 年度の計測数が圧倒的で調査期間全体の 80.2%を占めています。

出現パターンとしては、初年度は 11 月と 3 月に 2 回出現しただけですが、15 年度は 12 月から 3 月までに 7 回出現しました。16 年度は 10 月から 4 月までの間に 13 回出現しそ

の出現回数は徐々に増加しています。

出現場所は、図 7-2-7-1a~c の「その他」は運河にあたりますが、毎年運河で観測されています。初年度は 23 羽が運河で観測されました、これはその年全体の 92%にあたりますが、違う場所で観測されたのは北側水路と飛翔中の各 1 羽ずつですので、ほぼすべてが運河で観測されたということができます。翌 15 年度には 17 羽が運河で観測されていますが、これはその年全体の 25.0%のみで、しかも、12 月と 1 月の計三回だけ運河で観測されています。1 月以降は 48 羽が運河に代わって北側水路で観測され、その割合はその年度全体の 70.6%にあたります。

16年度には、334羽が運河で観測され、88.8%と圧倒的な数となりました。

ユリカモメは、飛翔しながら水面に舞い降りまた飛び立つという採餌行動のような動作を繰り返すものが多くおり、水面や枠などでゆっくり休んでいるように見受けられるものは 16 年度に一部で見られたほかは、ほとんどいませんでした。一時的に休んでいるように見えても、すぐにまた飛び立つような行動をとっているものが多くいました。 運河では頻繁とは言えませんが、飲の往来がありますので変た差いて休めません。 反対

運河では頻繁とは言えませんが、船の往来がありますので落ち着いて休めません。反対に船の運航によってユリカモメが餌とするものが水面に巻き上げられるなど、とりやすい状況になっているのかもしれません。ユリカモメが多く集まっているときの水面や水中の様子を観察できるのであれば、ユリカモメが調査地を利用している理由のヒントが得られるかもしれません。

7-2-7-2 ウミネコ(Larus crassirostris)



図 7-2-7-2 ウミネコ

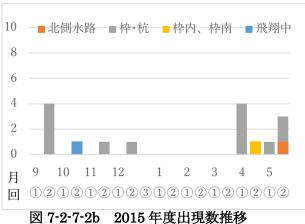


図 7-2-7-2a 2014 年度出現数推移

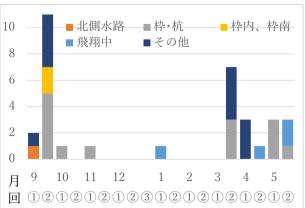


図 7-2-7-2c 2016 年度出現数推移

ウミネコの累計個体数は、14年度16羽、15年度16羽、16年度に33羽出現し、全調査 期間の累計で65羽が観測されました。

図 7-2-7-2a~c を見ると毎年概ね秋と春に多く、真冬の時期はあまり多くないという出 現傾向があるようです。観測されたものの多くは枠・杭などで休んでいるものが目立ち 14年度はその年の56.25%、15年度は81.25%、16年度42.42%が枠・杭で計測されまし た。図 7-2-7-2c における 「その他」は運河で、16 年度に運河で観測されたウミネコは 36.36%となりました。

16 年度に運河で観測されたカモメ類ではその出現頻度と数においてユリカモメが圧倒 的でしたが、図 7-2-7-1c と図 7-2-7-2c を見比べてみると、不思議なことに両種が運河 で共に観測されたのは3月の第2回目の調査日だけでした。

ウミネコは近年、江東区内の建造物の屋上などで継続的に繁殖していることが確認され ています。本調査においては幼鳥の数が特に際立っている印象はなく、区内の繁殖行動 との関連性は推測できませんでした。

7-2-7-3 セグロカモメ(Larus argentatus)

セグロカモメの累計個体数は、14年度25羽、15年度73羽、16年度に57羽出現し、全 調査期間の累計で155羽が観測されました。

図 7-2-7-3a~c を見ると、年によっては秋と春に多くなったり、真冬に多くなったりす る年があるものの毎年ほぼ毎回出現している傾向があるようです。

観測されたものは、枠・杭などで休んでいるものが目立ち 14 年度はその年の 60.00%、



■枠・杭 ■北側水路 ■枠内、枠南 12 ■飛翔中 ■その他 10 8 6 2 10 11 12 1

図 7-2-7-3 セグロカモメ

14 ■北側水路 ■飛翔中 ■枠•杭 12 10 9 10 11 12 1 2 3 4

図 7-2-7-3a 2014 年度出現数推移

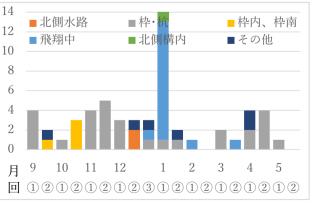


図 7-2-7-3b 2015 年度出現数推移

図 7-2-7-3c 2016 年度出現数推移

15 年度は 67.12%、16 年度 50.87%とだいたい半数以上が枠・杭で計測されました。図 7-2-7-3a~c における出現場所の「その他」は運河ですが、運河で観測されたセグロカモメは多くはありませんでした。

7-2-7-4 オオセグロカモメ(Larus schistisagus)



図 7-2-7-4 オオセグロカモメ 図 7-2-7-4a 2014 年度出現数推移

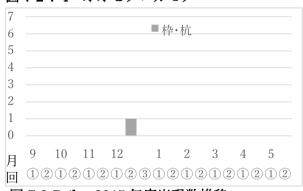


図 7-2-7-4b 2015 年度出現数推移

7-2-7-5 コアジサシ(Sterna albifrons)

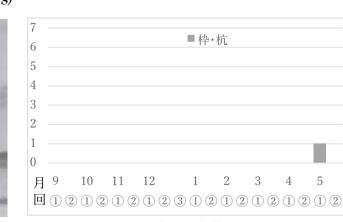


図 7-2-7-5 2015 年度出現数推移

されませんでした。



図 7-2-7-5 コアジサシ

コアジサシは、調査期間中 15 年度の 5 月に一度、1 羽だけ出現しました。コアジサシは荒川下流域の沿岸では決して稀な夏鳥ではありませんが、調査期間中は残念ながら出現は限定されていました。

オオセグロカモメの累計個体数は、14年度5

羽、15年度1羽出現しましたが、16年度は 出現せず、全調査期間の累計で6羽しか観測

14 年度に一度だけ飛翔中を観測しましたが、それ以外は全て枠の上で休息していました。

- 37 -

8. 調査地と周辺地域との対比

8-1 調査地周辺の調査区分

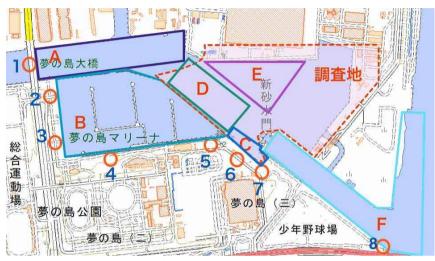


図 8-1-1 調査地周辺地域区分図

おける調査日と同一ではありません。

調査地の水鳥の状況を、 隣接する地域と対比し てみるために、2014年 度に調査地の周辺地域 で水鳥の計数調査を計 5回行いました。

調査日と時間は2014年 11月18日、2015年1 月16日、2月11日、2 月25日、3月27日のそれぞれ概ね午前9:20~ 11:40の間です。これらの調査日は、本報告書の 調査地(新砂貯木場)に

図 8-1-1 調査地周辺地域区分図は本報告における調査地と周辺地域の調査区分を示したものです。

本報告の調査地と調査領域は図 3-1 と図 6-1 で示しましたが、図 8-1-1 では、調査領域の「その他」(運河など)の部分を含めた大まかな範囲を点線で囲んで表示しています。図に赤丸で示してあるところは、周辺地域で観測を行った地点を示し、その地点に 1~8までの番号を付しています。記号と地点番号は便宜的なもので、観測の優劣や順序を示すものではありません。

周辺地域区分の概要は次の通りです。

- A 砂町運河で夢の島大橋から水再生センターに至る部分(1の地点より観測)
- B 夢の島マリーナ全域 (2~5の地点より観測)
- C 新砂水門脇の部分で潮の干満により地面が露出する部分(7の地点より観測)
- D 新砂貯木場西南の運河部分(7の地点より観測)
- E 新砂貯木場内水域(本報告調査地)の一部分(6~7の地点より観測)
- F 荒川下流新砂干潟と、砂町運河の新砂水門に至る部分(8の地点より観測)

このように区分した周辺地域は、1. 調査地に隣接する水域($A \sim B$)と、2. 調査地と重なる水域($C \sim E$)、それに3. 調査地とは水門と地面により隔てられた地域(F)に分けられます。

8-2 調査地における 2014 年の計測状況

各周辺地域との比較を始める前に、2014年度の調査地における、水鳥の計測状況を整理しておきます。図 8-2-1 は 2014年度に調査地で観測された水鳥の出現数を調査日ごとに種類別(科ごと)に積み重ねたグラフです。図 8-2-2 は、周辺地域との比較のために図 8-2-1 のうち、環境的に異なる「北側構内」「東側林」などを外し、「北側水路」、「枠・杭」および「枠内・枠南」で観測された水鳥のみを科ごとに積み重ねたグラフです。いずれも、カモが圧倒的多数いるので、カモ科やウ科以外の鳥はグラフ上では見づらくな

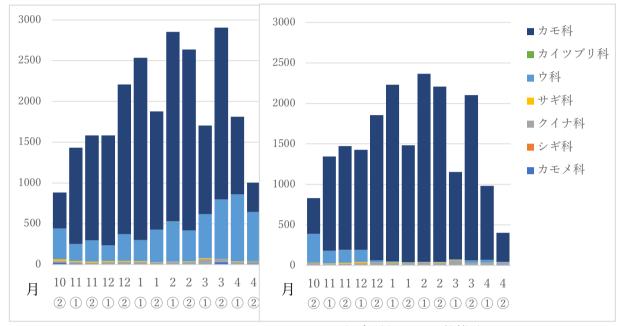


図 8-2-1 14 年度種類別出現数推移

図 8-2-2 14 年度種類別出現数推移 (除:東側林、北側構内等)

っています。そこで、周辺地域との比較のために作成した図 8-2-2 をベースにして、カモ科のみ、ウ科のみ、その他の水鳥と 3 つに分け、それぞれ図 8-2-3、図 8-2-4、図 8-2-5 としました。

図 8-2-3 では、カモ科の中で俗に陸ガモまたは淡水ガモといわれるマガモ属(Anas)と、

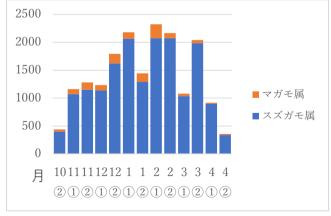


図 8-2-3 14 年度 カモ科の鳥出現数推移

海ガモまたは潜水ガモといわれるカモのうち出現したスズガモ属(Aytha)に分けて表示しました。2014年度の調査ではカモ科はこの二つの属のカモ以外は出現していません。

上記 7-2-1 でカモの種類別状況を見ましたが、カモの種類によって出現する場所が異なる傾向があったため、調査地と周辺地域の環境の違いが、マガモ属とスズガモ属の分布の違いとして現れるかどうかを見るために、二つの属に分けて表示するものです。

図 8-2-4 はウ科、すなわちカワウの出現数を示しています。繁殖のためのコロニーとして使われている東側林で出現した個体数を除外していますので、このグラフでは、営巣

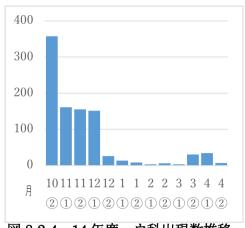


図 8-2-4 14 年度 ウ科出現数推移

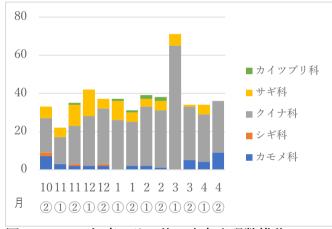


図 8-2-5 14 年度 その他の水鳥出現数推移

活動に入る前の時期、すなわち12月前半位までに、 主として枠や杭の上で休んでいる大量のカワウが 示されていますが、それ以外の時期では限られた 数が水面等で採餌、休息しているものが主となり ます。カワウの生態は、東側林のコロニーを中心 としていますので、この周辺地域との比較におい ては、カワウは比較対象とはしておりません。 図 8-2-5 は、カモとカワウを除いた水鳥です。 これらの調査地における計測数の動向と、周辺地 における計測数動向を以下で比較しますが、具体

的に比較するにあたって、調査地の計測数を周辺 地域の調査日に対応させて、さらに加工したもの

> を作成しています。調査地の計測数か ら、調査日と同じ月の分だけを取り出 し、周辺地域の調査回数が一回の 11 月、1月、3月については、調査地の 月 2 回の計測数を月ごとに種類別に 平均しています。2月については周辺 地域も2度に分け調査しているので、 調査地データをそのまま使用しまし た。なお、図8-2-2と同じ考え方に基 づき調査地のデータのうち北側水路、 枠・杭、枠内、枠南のデータのみを使 い東側林や北側構内、その他のデータ

は除外しています。8-3、8-4、8-5 の各周辺地域と調査地との比較は、原則として、す べてこの調整後の数字を使用します。(ただし、8-4 においては、調査地の「その他」 に出現したものを別途作図して比較します。)

調査地に隣接する水域(A~B)との比較 8-3

(概要)

図 8-1-1 で見ると調査地は、砂町運河を挟んで夢の島マリーナの水域と接していますが、 砂町運河の北西部分(A)と夢の島マリーナ(B)との共通した水域を合わせて比較し てみます。図 8-1-1 を見るかぎりでは、このAとBの二つの水域を合わせた面積は、調 査地の水面の広さとほぼ同等か、あるいは A、B の方が広いようにも見えます。

A水域は運河です。夢の島大橋から水再生センターを望む1の地点で計測しました。北 側は、垂直の護岸で、潮の干満によって、護岸の下に僅かな石積みや土の部分が露出す ることがあります。夢の島大橋から水再生センターまでの途中にさらに北に延びる運河 の入口を挟んでいます。南側は、夢の島マリーナと運河を隔てる柵がありますが、調査 地における枠のような形状で、上や中の段で休んでいる鳥もおり、柵の下を通って運河 とマリーナを行き来している鳥もいます。南側の柵の一部にはマリーナへの船の出入り口が開いています。

B水域は夢の島マリーナで、2~5の地点で計測しました。水域としては周辺地期の中で最も広い場所ですが、船が係留されている面積が大部分なので、鳥は係留されている船の間の域内航路や、桟橋上などで少数が出現しています。Bで最も多く出現した区域はマリーナの西のはずれで、図8-1-1で示す2、3地点の東側です。

A、B 両水域で計測された水鳥は、A、B の合算で種類数が 12 種類と、調査地の水鳥 20 種に比べて少なめで、個体数累計は、総じて桁違いに大きな差がついていますが、個別には必ずしも調査地の方が多いとは限らない結果もあります。以下でカモ科の鳥とその他の鳥に分けて比較していきます。

(カモ科の鳥の比較)

具体的にカモ科から比較してみます。図 8-3-1 に示した A、B 水域のカモ科の鳥の出現

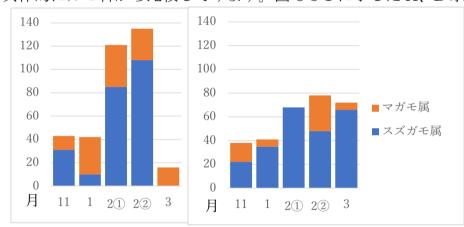


図 8-3-1 14 年度 A水域(左)、B水域(右)のカモ科出現数推移

状況に対応する調査 地の出現状況する調査 8-3-2の通りで見まして 出現個体数で見まけにおいた 調査地においた期間 り,087 羽であるおける 対し A、B におる 対し A、B におる 対し A、B におる 対しないます。 種類 ほど違います。 種類

数も調査地の抽出が、マガモ属 7 種、スズガモ属 3 種に対し、A、B 合計でマガモ属 3 種、スズガモ属 2 種と約半数になっています。

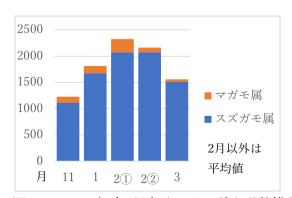


図 8-3-2 14年度 調査地のカモ科出現数推移

しかし、スズガモ属に対するマガモ属の割合は、図を見ると明らかなように、調査地よりも A、B 水域の方がマガモ属の割合が大きいようです。具体的には A、B 水域では、マガモ属 3 種 210 羽(30.7%)に対してスズガモ属 2 種 473 羽(69.3%)であるのに対し、調査地ではマガモ属 7 種 640 羽(7.0%)、スズガモ属 3 種 8,447 羽(93.0%)となっています。これは、調査地のマガモ属は A、B 水域の 3 倍程度であるのに対し、スズガモ属は A、B 水域の約 18 倍もいるこ

とになります。

スズガモ属の出現種類別の構成を見ますと、スズガモ属の個体数累計は8,447羽ですが、そのうちホシハジロは2,282羽(27.0%)、キンクロハジロは4,283羽(50.7%)、スズガモは1,882羽(22.3%) で大まかに見ますと、スズガモ属の半数がキンクロハジロで残る

半数をホシハジロとスズガモがほぼ等分していると言えましょう。

A、B水域ではスズガモはおらず、ホシハジロとキンクロハジロだけで占めていましたので、調査地で出現したホシハジロとキンクロハジロだけでその比率を見ますとホシハジロが 34.8%でキンクロハジロが 65.2%という構成になります。A、Bの水域で見ますと、ホシハジロが 45.9%(217 羽)、キンクロハジロが 54.1%(256 羽)と、ホシハジロの割合が大きくなっています。中でもAではホシハジロ 118 羽に対しキンクロハジロ 116 羽とほぼ同数なのに対し、Bでは、ホシハジロは 99 羽(41.4%)に対しキンクロハジロが 140 羽(58.6%)と大きな差が見られました。

調査地との関連性では、Bにいたキンクロハジロの群れが複数、船舶の出入りに際して飛立ち、何回か類似したルートで調査地方向へ向かったのを観察しました。これらのカモは両水域を共に利用している可能性を示唆していると考えられます。

一方マガモ属の出現状況は上で見たように A、B 水域では 3 種 210 羽のところ調査地では 7 種 640 羽出現しており、調査地が種類数で 2 倍、個体数累計で 3 倍となっています。 具体的には A、B 水域ではマガモ、カルガモ、オナガガモの 3 種が出現していますが、 A、B 両水域合計でマガモ 9 羽、カルガモ 182 羽、オナガガモ 19 羽、合計 210 羽です。 これら 3 種の調査地における出現状況は、マガモ 105 羽、カルガモ 123.5 羽、オナガガモ 65.5 羽となっています。 調査地のマガモは A、B 水域のマガモの 11.7 倍、オナガガモは 3.44 倍多いのですが、カルガモは反対に A、B 水域のカルガモの方が調査地のカルガモよりも 1.47 倍多いという結果となっています。これは、A、B 水域のマガモ属の 86.7%になります。 調査地において、本件比較のために抽出した期間累計で、種類別出現個体数累計が 100 羽を超えているのは、コガモ 200.5 羽、ヒドリガモ 135 羽、カルガモ 123.5 羽、マガモ 105 羽で、それに次いでオナガガモ 65.5 羽、オカヨシガモ 6 羽、ハシビロガモ 4.5 羽となっています。

カルガモが出現した水域の内訳は A 水域で 144 羽、B 水域では 38 羽です。A 水域という限られた場所だけで、同期間に調査地で出現した数を上回っていることになります。

(その他の鳥の比較)

続いてカモ科以外のその他の鳥について比較してみます。図 8-3-3 に示した A、B 水域のその他の鳥の出現状況に対応する調査地の出現状況は図 8-3-4 の通りです。

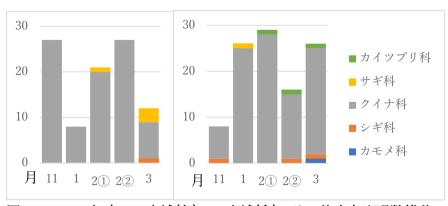


図 8-3-3 14 年度 A水域(左)、B水域(右)のその他水鳥出現数推移

A、B両水域で観測され たカモ科、ウ科以外の 鳥は、5回の調査をフリイン 科2種4羽、サギ科1種187羽、シギ科1種4羽、シギ科1種4羽 カモメ科1種1羽で 本比較のために調査地の ま計割別で をあげますと、カイツブ

リ科 2 種 4 羽、サギ科 1 種 31 羽、クイナ科 1 種 171.5 羽、シギ科 1 種 0.5 羽カモメ科 4 種 9.5 羽です。

カイツブリ科は種類数と個体数累計が調査地と同数。クイナ科とシギ科はA、B 水域合計が調査地の同時期の累計と比較して、調査地を上回る結果となっています。

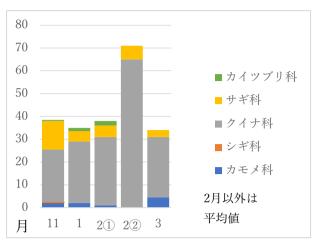


図 8-3-4 14 年度 調査地のその他水鳥出現数推移

カモ科の鳥の個体数累計が、A、B 水域の合計と調査地とを比較すると調査地の方が 13 倍以上多くいたのに対し、カモ科とウ科を除くその他の鳥では調査地が1割程度多い水準となっており、カモ科ほど大きな差がついていないことがわかります。

個別にみると図を見て明らかなように、その他の鳥では、クイナ科の鳥がそれぞれの地域で目立って出現しています。クイナ科の鳥はオオバンのみでしたが、オオバンの個体数累計では、A水域に90羽、B水域に97羽、合計187羽いたの

に対し、調査地では 171.5 羽でした。シギ科ではイソシギのみでしたが、個体数累計で A、B 水域で 4 羽いたのに対し、調査地では 0.5 羽でした。確かに A、B 水域の個体数 累計が大きいですが、計測数自体が小さいのでこの数字をもって何らかの評価をすることは困難だと思われます。

8-4 調査地に重なる水域 (C~E) との比較

(概要)

周辺地域とはいっても、図 8-1-1 で見るとわかるように $C\sim E$ の水域は調査地に収まっています。この水域と比較する意味は、調査地にいる水鳥を調査地外から観測した場合に、計測数がどのように変わるのかを知ることでしょう。もし、水再生センターの協力が頂けず、外部から調査をする場合には、この水域の観測結果に依存することとなります。

C水域は周辺地域として調査した中では最も狭い区域ですが、潮の干満により露出する 土の部分があり、水門と南西側護岸があるので船舶等の影響を最も受けにくい区域です。 7の地点で観測しました。調査地の観測場所からは、最も遠くにありスコープを使って も観測しづらい場所になります。

D 水域は運河です。C と同様 7 の地点で観測しました。運河は新砂水門から、D、A を通って西方向へ向かいますが、運河を通る船の中で A を通り抜けてさらに西へ行くものは多くありません。図 8-1-1 では A の中央部分あたりで北上する運河(砂町北運河)がありますが、水門を通りこの北方向の運河を行き来する船は多くあります。一方、D では、東西いずれの方向でも船舶の航行が頻繁にあります。前項で見た A の鳥の出現数と、本項で後に見る D の鳥の出現数が全く違うのは、この場所を通過する船の航行頻度の影響を受けているものと考えられます。

E水域は、調査地を外部から見たときに把握できる最大限の水域と言えましょう。6と7の地点から観測しましたが、この水域を観測するときには、手前に船の修理工場があり、修理中の船舶等が視界を遮り、運河を通行する船舶が視界を遮り、調査地内の枠も

水鳥の正確な計測には大きな障害となります。

C、D 両水域は、調査地での計測にあたり、「その他」として分けて集計している区域となりますので、以下の比較においてもC、D 水域とE 水域を分けてみていきます。C、D 両水域で計測された水鳥は、調査地計測数のうち「その他」と大差ないのかどうか、E 水域は、調査地データのどの程度の割合をカバーしていることになるのかがこの比較のポイントとなりましょう。

以下でカモ科の鳥とその他の鳥に分けて比較していきます。

(カモ科の鳥の比較)

図 8-4-1 に示した C、D 水域のカモ科の鳥の出現状況に対応する調査地の出現状況は図 8-4-2 の通りです。

出現個体数で見ますと、調査地「その他」における本件比較のために抽出した期間累計が 114.5 羽であるのに対し C、 D における調査期間累計は 515 羽と調査地外から観測した係数累計の方が 5 倍近く多い結果となりました。図 8-4-1 で見るとこの大きな差は C 水域の計測数が大きいことが理由であるとわかります。

C水域は、調査地から見て水門入口の右側構造部分の裏のあたりに鳥がいると、調査地からは全く見えず、鳥たちも航行する船などの影響を受けません。また、土が露出している部分もあるので採餌や休息などでここを利用する鳥が多いのかもしれません。数字

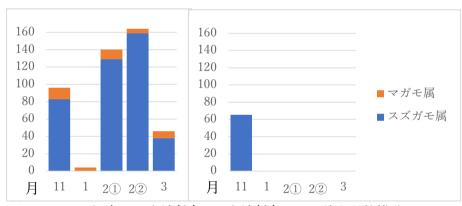


図8-4-1 14年度 C水域(左)、D水域(右)のカモ科出現数推移

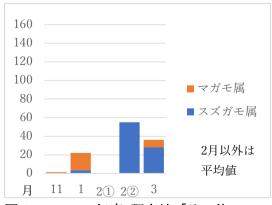


図 8-4-2 14 年度 調査地「その他」の カモ科出現数推移

の差が大きいのは この場所の存在で はないかと推測さ れます。

スズガモ属とマガモ属の割合は、図で明らかなように、調査地の方が C、D水域よりもマガモ属の割合が大きいようです。

具体的にはC、D水

域では、マガモ属 6 種 41 羽(8.8%)に対してスズガモ属 3 種 424 羽(91.2%)であるのに対し、調査地ではマガモ属 5 種 27.5 羽(24.0%)、同スズガモ属 2 種 87 羽(76.0%)となっています。調査地の「その他」の地域に出現するマガモ属は C、D 水域ともに西南の護岸に沿って観測されることが多いのですが、西南側の護岸の水際は図 8-1-1 で 6 と 7 の観測地点がある場所であり、7 であればすぐ近くの足元は見えるもののその先(西北方向)は見づらく、6 の地点は修理工場の先に護岸があ

るため、観測地点からは水際は観測できません。調査地から見たほうがマガモ属は見や すくなっており、計測数が多く出ているのではないかと推測されます。 スズガモ属の出現種類別の構成を見ますと、調査地「その他」では、スズガモ属の個体数累計は87羽ですが、そのうちホシハジロは69羽(79.3%)、キンクロハジロは18羽(20.7%)です。(C, D) 水域では、ホシハジロは325羽(68.6%)、キンクロハジロは148羽

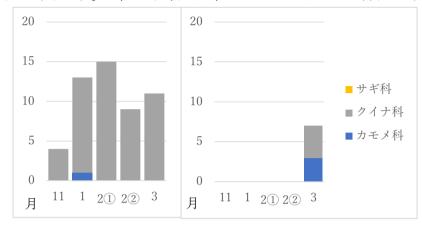


図 8-4-3 14 年度 C 水域(左)、D 水域(右)のその他水鳥 出現数推移

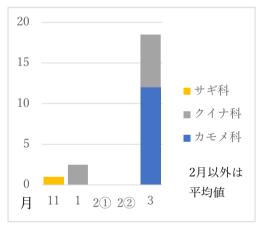


図 8-4-4 14 年度 調査地「その他」の 出現数推移

(31.2%)で、スズガモは 1 羽(0.2%)いました。ホシハジロとキンクロハジロが調査地で約 8:2 であるのに対し、C、D 水域では約 7:3 ですが、個体数は変動しますので、概ね似通った出現状況であると言えましょう。

(その他の鳥の比較) 続いてカモ科以外のその他 の鳥について比較してみま す。図 8-4-3 に示した C、 D水域のその他の鳥の出現

状況に対応する調査地「その他」での出現状況は 図 8-4-4 の通りです。

C、D 両水域で観測されたカモ科、ウ科以外の水 鳥は、5 回の調査を合算した累計で、サギ科 1 種 1 羽、クイナ科 1 種 55 羽、カモメ科 1 種 4 羽で す。本比較のために調整した調査地「その他」の 累計計測数をあげますと、サギ科 1 種 1 羽、クイ ナ科 1 種 9 羽、カモメ科 2 種 12 羽です。

カモ科の鳥と同様、カモ科とウ科を除くその他の鳥の個体数累計を、C、D水域の合計と調査地「その他」とを比較するとどちらも C、D水域の方が調査地よりも多い結果となっており、いずれも C水域の水門に隠れた場所の存在が大きな影響を与えているものと思われます。

調査地からの計測は、D 水域に出現する鳥の傾向と近く、C 水域とは異なるように思われます。

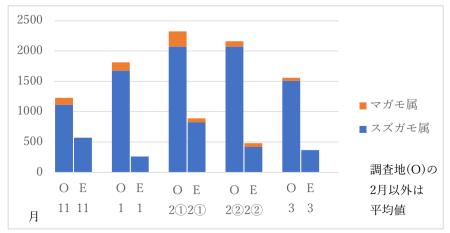


図 8-4-5 14 年度 調査地(O)とE水域のカモ科出現数推移比較

(E 水域におけるカモ科の鳥の比較)

図 8-4-5 は、調査地と E 水域のカモ科の鳥の出現推移を比較するものです。

この図では調査地を E 水域と区別するために 「O」と表記しています が、その内容は図 8-3-2 と同一です。E 水域のカモ科の鳥の出現数の累計は、マガモ属 5 種 132 羽(5.1%)に対してスズガモ属 3 種 2,434 羽(94.9%)と、特にスズガモ属ではこれまでに見た $A\sim D$ のどの水域よりも多く出現していますが、調査地ではマガモ属 7 種 640 羽(7.0%)、スズガモ属 3 種 8,447 羽(93.0%)となっており、出現個体数累計では圧倒的な違いがあります。

E 水域は調査地の主要な一部分を外部から見た水域ですが、出現数からみると調査地のごく小さな割合しか計測していないように見えます。データ数が少ないので断定はできませんが、調査地を対岸から見た場合には、調査地の全体像からはかけ離れている可能性が大きいということになりましょう。

(E 水域におけるその他の水鳥の比較)

図 8-4-6 は、調査地と E 水域のカモ科とウ科を除くその他の鳥の出現推移を比較するも

のです。

■カイツブリ科 70 60 サギ科 50 ■クイナ科 40 ■シギ科 30 ■カモメ科 20 10 調査地(O)の () O E O E O E O E O E 2月以外は 月 11 11 1 1 2(1)2(1) 2(2) 2(2) 3 3 平均值

図 8-4-6 14 年度 調査地(0)とE水域のその他水鳥出現数推移

この図でも調査地を E 水域と区別するために「O」と表記していますが、その内容は図 8-3-4 と同一です。

E 水域で観測されたカモ科、ウ科以外の水鳥は、5回の調査を合算した累計で、カイツブリ科1種1羽、サギ科1種5羽、クイナ科1種2羽です。調モメ科1種2羽です。調

査地の累計計測数はカイツブリ科 2 種 4 羽、サギ科 1 種 31 羽、クイナ科 1 種 171.5 羽、シギ科 1 種 0.5 羽カモメ科 4 種 9.5 羽ですので、カモ科同様、その他の鳥においても E 水域はごく小さな割合しか出現していないことになります。

 $C\sim E$ 水域は、そのほぼ全体が調査地に含まれますが、各水域の鳥類の出現状況については、水域ごとの特徴があります。外部から鳥類を観測する観点では、C、D 水域については、調査地よりも個体数が多く出現する傾向があるものの、E 水域については調査地よりはるかに少ない数しか観測できない傾向があることがわかりました。

8-5 調査地とは水門と地面により隔てられた地域(F)との比較

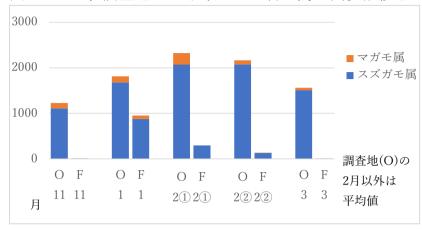
(概要)

図 8-1-1 における F 水域は、調査地および上述した周辺水域 C とは新砂水門または地面を介して隣接しています。

F 水域は、荒川から水門に至る運河の部分と、上流から東京湾に流れる荒川で新砂干潟から運河の入口までの間の岸よりの部分からなります。8 の地点で計測しました。

(カモ科の鳥の比較)

図 8-5-1 は、調査地と F 水域のカモ科の鳥の出現推移を比較するものです。



この図でも調査地を F 水域 と区別するために「O」と表 記していますが、その内容は 前項同様、図 8-3-2 と同一で す。

F 水域のカモ科の鳥の出現数の累計は、マガモ属 4 種86羽(6.2%)に対してスズガモ属3種1,309羽(93.8%)と、調査地と比べると大きく差があります。

図 8-5-1 14年度 調査地(O)と F 水域のカモ科出現数推移

(参考:調査地ではマガモ属7種640羽(7.0%)、スズガモ属3種8,447羽(93.0%))

しかし、1 月にスズガモ属が合計 875 羽という大きな出現数となっており、これはほかの周辺地域と比較しても特異な大きさです。1 月の調査地におけるスズガモ属の平均値は 1,677.5 羽ですので、調査地の約 52% にあたるスズガモ属のカモが隣接地にいたことになります。

調査地のスズガモ属の種類構成は 8-3 で触れましたようにキンクロハジロが最多で 50.7%、ホシハジロが 27.0%、スズガモが 22.3%ですが、F 水域の累計ではスズガモが 73.0%と最多で、次いでホシハジロが 15.6%、キンクロハジロが 11.4%となっており、調査地とは正反対の構成となっています。

(F 水域におけるその他の水鳥の比較)

図 8-5-2 は、調査地と F 水域のカモ科とウ科を除くその他の鳥の出現推移を比較するものです。

この図でも調査地を F 水域と区別するために「O」と表記していますが、その内容は図 $8 \cdot 3 \cdot 4$ と同一です。

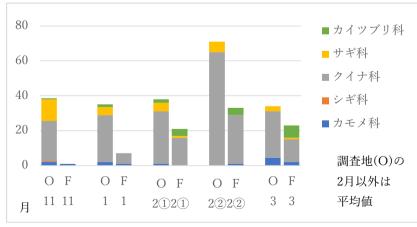


図 8-5-2 14 年度 調査地(O)と F 水域のその他水鳥出現数推移

F水域で観測されたカモ科、ウ科以外の水鳥は、5回の調査を合算した累計で、カイツブリ科2種15羽、サギ科1種2羽、クイナ科1種63羽、カモメ科1種5羽です。調査地の累計計測数は上述のようにカイツブリ科2種4羽、サギ科1種31羽、シギ科1種171.5羽、シギ科1種0.5羽カモメ科4種9.5羽ですので、カモ科とは

異なり個体数累計ではそれほど大きな差がついていません。クイナ科(オオバン)が調査 地の方が倍ほどいる点を除けばデータ数が小さいこともあり、あまり大きくは違わない とみることもできます。しかし、中でカイツブリ科の鳥には注目する価値があるかもし れません。カイツブリ科の鳥は、2014年に本件比較のために調整した数字で調査地ではカイツブリが 0.5 羽、ハジロカイツブリが 3.5 羽計測されています。一方 F 水域では、カンムリカイツブリ 2 羽とハジロカイツブリ 13 羽です。この違いは、貯木場という閉鎖的な環境と東京湾に注ぎこむ荒川という開放的な環境の違いが関係しているのかもしれません。

9. 江東区におけるその他の水鳥調査との対比

既述のように、当会は年に1度毎年12月23日に(令和元年以降は調査日を変更)区内の6地点において水鳥の生息数調査を行っています。また、江東区では環境基本計画に基づき、水鳥の生息数調査を年に5回、区内5地点において実施しており、最新の情報は、江東区のホームページにおいて公表されています。これら区内各地の水鳥の調査結果と調査地の調査結果とを対比してみたいと思います。



図 9 江東区内水鳥生息調査地図

9-1 当会の水鳥調査結果との比較

(概要)

図 9 は江東区の水鳥の調査地点を書き 込んだものです。当会の定例調査は図 9 の青線で示した 6 か所をラインセンサ スの方法で調査しています。

調査地点は次の通りです。

- ① 横十間川コース 亀島小学校付近から猿江恩賜公園を経てクローバー橋付近まで
- ② 旧中川コース 亀戸中央公園から 旧中川沿いに荒川ロックゲート付近まで
- ③ 荒川コース 新砂干潟から荒川沿いに荒川ロックゲート付近まで
- ④ 仙台堀川公園コース やすらぎの 滝付近から明治通り付近までと野鳥の 島からクローバー橋の付近まで
- ⑤ 大横川コース 黒船橋から牡丹三 丁目付近までと越中島付近まで
- ⑥ 辰巳コース 連橋から東京辰巳国 際水泳場付近まで

2014 年~16 年の調査期間においても、 当会は例年通り毎年 12 月 23 日に調査

を行いました。調査地においては、当会水鳥調査との関連性を見ることを念頭に 2014 年度は第3週の調査日を第4週に変更して翌日24日に行い、2015年度以降は追加調査

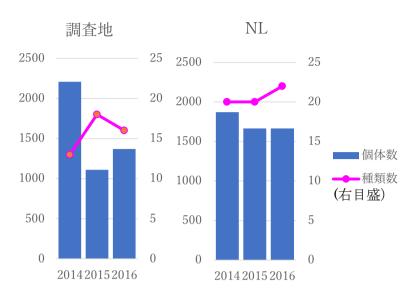


図 9-1-1 江東区内水鳥生息調査結果比較

16 年度は前日の 22 日に追 加して調査しました。 その結果、この3年間の12 月23日に区内6地点で出現 した水鳥の数とその前後に 調査地で計測した水鳥の総

として、15年度は翌24日に、

数は図 9-1-1 の通りです。図 で「NL」とある方が当会の 調査、「調査地」は本報告に おける調査地の計測数です。 2014 年度は調査地の 13 種 2.208 羽に対して、NL の 6 地点合計は20種で1,871羽 でした。2015 年度は調査地 の 18 種 1,112 羽に対し NL

は 20 種 1,663 羽、2016 年度は調査地が 16 種 1,369 羽に対し、NL では、22 種 1,665 羽という結果となりました。

これら二つの調査では、1地点で行っている調査地の方が、種類数、個体数とも6地点

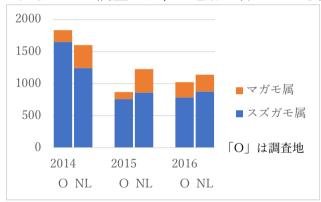


図 9-1-2 カモ科の鳥出現個体数比較

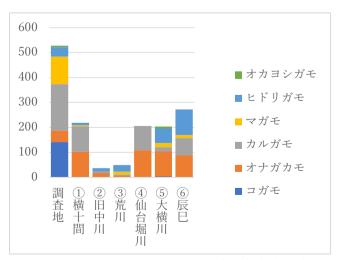


図 9-1-3 マガモ属の出現場所別合計個体数比較

の合計である NL より各年の変動幅が大 きいことがこの図でわかります。

調査時点が調査地と NL の間で 1 日しか ずれていませんので、その当時の江東区 全体の水鳥の概数としては、少なくとも これら二つの調査の個体数を合計したも の程度は区内に存在していたという見方 もできましょう。

(カモ科の鳥の比較)

これら二つの調査の内容を比較するため に出現した水鳥のうちカモ科の鳥をマガ モ属とスズガモ属に分けて示したものが 図 9-1-2 です。図で「NL」とある方が当 会の定期調査、「O」は本報告における調 査地の計測数です。それぞれ各年の調査 日当日におけるカモ科の鳥の出現総数で す。

各年により総数や各属間の比率の推移に ついては、当然ばらつきはあるものの、 概ね大差ない比率で出現推移しているよ うにみえます。

この内容を、まずマガモ属から出現場所 別に3年間の個体数合計を表示したもの が図 9-1-3 です。図 9-1-2 で見ると調査 地のマガモ属の割合は小さいので、その数も小さいものと錯覚しがちですが、出現している場所別に分けてみると、調査地の種類や数の多さは江東区内において際立っているといえましょう。数字は3年分の合計ですので、各地とも実際に各調査日に計測された数より大きく膨らんでいますが、それぞれの場所の出現種の特徴を示しています。この

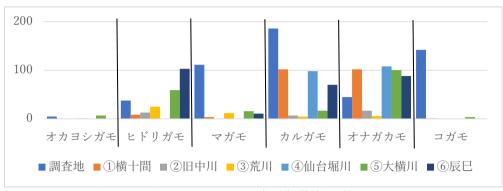


図 9-1-4 マガモ属の種類別出現場所別合計個体数比較

おいて圧倒的な数が計測されていますが、ヒドリガモは辰巳が非常に多く、また、オナガガモは6箇所の調査コースのうち4コースにおいて調査地をはるかにしのぐ個体数が計測されていることは興味深いものです。

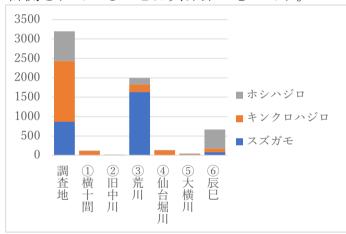


図 9-1-5 スズガモ属の出現場所別合計個体数比較

次にスズガモ属の鳥について出現場所別に3年間の個体数合計を表示したものが図9-1-5です。マガモ属の鳥に比べると、スズガモ属が多く出現する場所が限定的です。スズガモ属は一般に海がモとか潜水ガモとよばれているだけあり、海に開かれている、または、広い水域の出現数が多くなっており、内陸の運河のような水域では少ない傾向があるようです。

種類別に並べ替えたものが図 9-1-6 で、 こちらも 3年間の合計個体数です。

調査地は、スズガモ属の鳥3種全てに

おいて相当数を擁していることがわかりますが、それ以外で目立つのは荒川のスズガモ

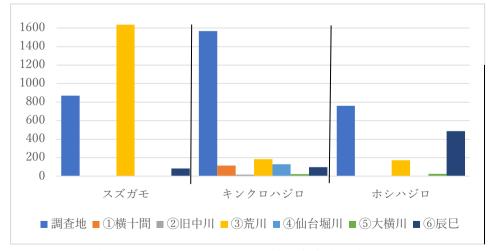


図 9-1-6 スズガモ属の種類別出現場所別合計個体数比較

 はスズガモだけのようで、まさにこの表現にあたる 3 地点のみで出現しているようです。 実際にはスズガモは 3 年間の合計で調査地、荒川、辰巳以外に横十間川でも 2 羽出現していますが、グラフには横十間川は表れていません。ホシハジロも、図で見る限りはスズガモ同様開けた場所に出現することが多いように見えます。実際には大横川で 26 羽、図に現れていないその他の場所全てにおいて 3 年間で $1\sim2$ 羽は出現しているようです。一方、キンクロハジロについては、調査地の数が抜き出ていますが、全ての場所で記録されています。 3 年間の合計数ですが、横十間川で 115 羽、一番少ない旧中川でも 16

350 300 250 200 150 100 50 0 2014 2015 2016 O NL O NL O NL

図 9-1-7 ウ科の出現個体数比較

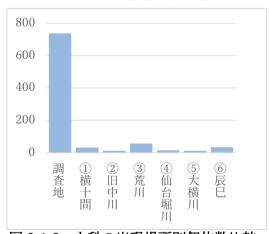


図 9-1-8 ウ科の出現場所別個体数比較

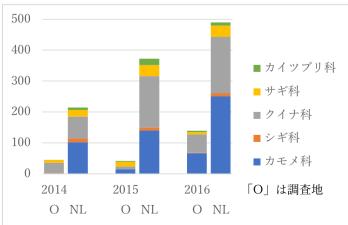


図 9-1-9 その他の鳥出現個体数比較

羽、荒川で 185 羽、仙台堀川で 129 羽、大横川で 24 羽、辰巳で 97 羽です。調査地の 1,566 羽に対して NL6 コース計 566 羽となっており、区内のどこでも見られるスズガモ属の鳥がキンクロハジロであるといえるのではないでしょうか。

(その他の鳥の比較)

続いてカモ科以外のその他の鳥について比較しますが、調査地では既に触れたようにカワウのコロニーがあり、12月はその巣作りなどの繁殖行動が始まる直前の時期です。区内のほかの地域と比べると、調査地では他を圧倒するカワウの個体数が観測されますので、その他の鳥の数が目立たなくなってしまいます。そこで、まず、その他の鳥のちウ科の鳥、すなわちカワウのみ別にみてみたいと思います。

カワウの出現個体数の年ごとの推移を調査地 (O) と、当会調査 (NL) で比較したものが図 9-1-7 です。調査地では $200\sim300$ 羽規模で存在するのに対し、区内 6 コースの合計でも大体 $40\sim60$ 羽程度となっており、その差は $3\sim6$ 倍と小さくありません。

カワウの出現場所別に出現数を見たものが図 9-1-8です。3年間の合計数を比較しますと、調査 地では738羽ですが、次に多いのは荒川で56羽、

続いて辰巳33羽、横十間川31羽、仙台堀川15羽と続き、一番少なかったのが旧中川と大横川の12羽です。調査日にカワウが1羽しか記録されなかったのは、2015年の旧中川と2016年の横十間川だけで、その他の年、場所ではいずれも各場所少なくとも3羽は出現しています。この状況を見ますと、江東区内の水域ではカワウはどこにでもいるポピュラーな存在であるといえるようです。

カワウ以外の鳥につきましては、図

9-1-9 の通りです。カモ科、ウ科の鳥は一般に合計数では調査地(O)が多く、当会の定期 調査(NL)では小さいパターンでしたが、図 9-1-9 では形勢が大きく変わり NL の調 査が調査地を圧倒するほどの数の違いとなっています。

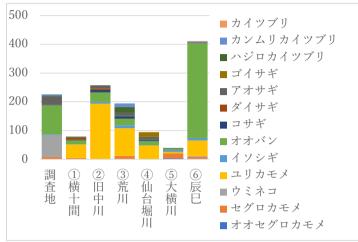


図 9-1-10 その他の鳥出現場所別合計個体数比較

いずれの調査においても、この図で 見る限りにおいては、その他の鳥各 種の中でクイナ科とカモメ科の鳥 の数がほかの数を圧倒しているよ うに見えます。

3年間の合計数を出現場所別に比較したものが、図 9-1-10 ですが、この図においても調査地における出現個体数はさほど大きくはなく、辰巳、旧中川に次いでいます。

その他の鳥では種類数が多いため 出現状況等の特徴が分かりにくく なっていますので、主な科ごとに分

けてみていきます。

図9-1-11はカイツブリ科の鳥の3年間の計測数を合計して出現場所別に比較したもので

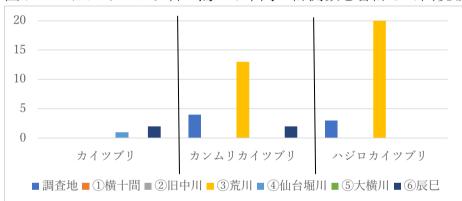


図 9-1-11 カイツブリ科の種類別出現場所別合計個体数比較

年と 15 年に辰巳で各 1 羽出現しただけで、出現率がかなり低い鳥です。辰巳ではほかにカンムリカイツブリが 2014 年と 15 年に各 1 羽出現しただけで、ハジロカイツブリは出現していません。

調査地においては 2014 年には、カイツブリ科のどの種も出現せず、2015 年と 16 年にカンムリカイツブリとハジロカイツブリがそれぞれ 1~2 羽ずつ出現しました。このような状況の中、荒川においてはカンムリカイツブリもハジロカイツブリも 3 年間毎年出現しています。荒川の川幅の広さと、当会の調査の 6 コースの中では距離が最も長いこともこれらのカイツブリの仲間が多数計測された所以なのかもしれません。

図 9-1-12 はサギ科の鳥の 3 年間の出現個体数合計を種類ごとに比較したものです。図ではアオサギが調査地と NL のすべてのコースで計測されていますので、江東区内に生息するサギ科の中では最も親しみ深い種類であるといえます。アオサギは調査地で圧倒的な数が出現しており、旧中川、仙台堀川、荒川がその次に位置しています。横十間川、大横川のような運河や辰巳のような旧貯木場と比べてサギが立てるような浅い水辺があること、林や河原など採餌や休息に適した場所があることなど水辺とその周辺の環境がサギ類にとっては出現しやすいのではないかと思われます。調査地は辰巳同様、水深

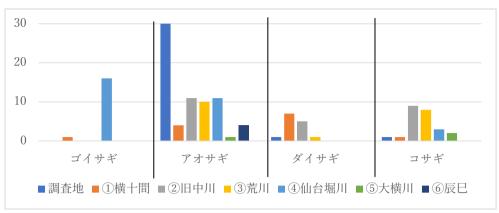


図 9-1-12 サギ科の種類別出現場所別合計個体数比較

のすコよ用あ特おさもサで深がロラしりにいれしギリカーサオオよいまのでである利が、に用かのきさいのある利が、に用かのはは

ゴイサギでしょう。ゴイサギは 2014 年に 1 羽横十間川で出現した以外は、仙台堀川だけで出現し、NL の定期調査では毎年、3 羽、10 羽、3 羽と継続して出現しています。 12 月はゴイサギの繁殖には少し早い時期ですが、ゴイサギが毎年のように仙台堀川で少数が繁殖していることと関係があるかもしれません。

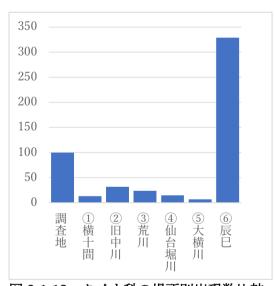


図 9-1-13 クイナ科の場所別出現数比較

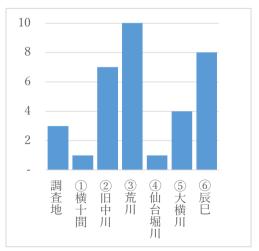


図 9-1-14 シギ科の場所別出現数比較

図 9-1-13 は、クイナ科のオオバンについて、3 年間の出現個体数合計を出現場所別に比較する ものです。オオバンは、カモ科、ウ科を除くその 他の鳥の中で調査地を大きく凌駕する個体数が 当会の定期調査で観測されています。図を見ます とオオバンは区内全域にわたって出現していま すが、中でも辰巳において群を抜く数が記録され ています。当会調査6コースのうち辰巳を除く5 コースの3年間分を合わせた合計数は91羽です ので、調査地の出現数合計 100 羽の 9 割程度で すが、辰巳はその調査地の3倍を超える329羽 が出現していますので、まさに他を圧倒していま す。 辰巳では、 2014 年には 54 羽と比較的に少な い数でしたが、2015、16年にはそれぞれ124羽、 151羽と調査地の3年合計数を単年度で大きく超 える数が記録されています。

図 9-1-14 は、シギ科のイソシギについて、3 年間の出現個体数合計を出現場所別に比較するものです。

調査地の3年間合計の出現数は3羽で、荒川、辰巳、旧中川、大横川に次いだ位置となっています。横十間川と仙台堀川はそれぞれ2014年と15年に1羽ずつ出現しただけですが、荒川、辰巳、旧中川の3コースでは毎年イソシギが出現しています。図では区内で一般的に出現していることになっておりますが数は多くはありません。

図 9-1-15 はカモメ科の鳥の 3 年間の出現個体数合計を種類ごとに比較したものです。3 年間でユ

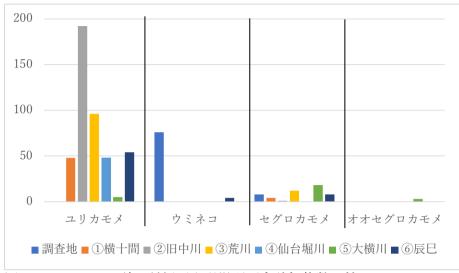


図 9-1-15 カモメ科の種類別出現場所別合計個体数比較

リカモメ、ウミネコ、 セグロカモメ、オ種類が グロカモメの4種類が 出現していますが、これら4種類はそれぞれ その出現場所や出現数 に大きな特徴があるよ うに思われます。

図を概観すると区内各地でより広い範囲で目にされる種類はユリカモメとセグロカモメのようです。しかし、ユリカモメの合計出現数が最大の旧中川では毎

年60~70 羽程度が観測されているのに対し、大横川では 2014~15 年は出現せず、2016年に 5 羽出現しているだけ。また、調査地ではユリカモメは出現していないなどばらつきも大きいです。セグロカモメは出現数は全体に少なめですが、ユリカモメと対比しているような出現状況になっています。ユリカモメの出現数が最大だった旧中川では、セグロカモメは 2016年に 1 羽だけ出現とほとんど出現していなかったのに対し、ユリカモメの出現数が少なかった大横川は、セグロカモメは毎年出現し合計数では最大数となっていること。また、ユリカモメの出現がなかった調査地でもセグロカモメは毎年出現しる番目の出現数となっているのに対し、仙台堀川ではユリカモメは毎年出現していたが、セグロカモメは全く出現しないなどです。ウミネコは、辰巳で 2016年に 4 羽だけ出現しています。調査地では 2014年はゼロでしたが、2015年に 12 羽、16年には 64 羽と数多く出現し調査地と辰巳だけで観測されました。オオセグロカモメは大横川で2016年に 4 羽確認されていますが、オオセグロカモメが江東区で確認されるのはそれほど多くなく、偶発的なものと思われますが、セグロカモメが最も多く観測されている大横川で出現しているのは、何か因縁があるのかもしれません。

9-2 江東区の水鳥生息調査結果との比較

江東区は区内の水鳥生息状況を把握するためとして、毎年 6 月、9 月、12 月、1 月、2 月に下記地点で調査をしており、その結果はホームページに公開されていますが、そのデータの内容はその時によって異なり時の経過とともに公開データは少なくなる傾向にある印象を受けます。江東区の水鳥の調査地点は、上記図 9 に赤い星印と赤数字で示しています。この結果は江東区の環境白書など一部の出版物にも記載されていますが、こちらも昔に比べるとデータの開示規模は徐々にではありますが縮小しており、近年では、調査地点の説明、地図と鳥の写真を除く調査そのものの結果は毎年 5~6 行程度の記載で、種類数と総数、主な種類だけが記載されているという状況になっています。

江東区の水鳥調査地点と調査方法:

(図9ではこの数字を赤字で星印とともに記しています。)

- ① 旧中川(都立亀戸中央公園) ラインセンサス法
- ② 都立猿江恩賜公園 ラインセンサス法
- ③ 仙台堀川公園・横十間川親水公園 ラインセンサス法
- ④ 荒川(都立新木場緑道公園周辺) 定点センサス法
- ⑤ 豊洲運河 定点センサス法



図 9-2-1 区の水鳥生息調査の結果

図 9-2-1 は、本報告の調査期間に該当する区の平成 26 年度から 28 年度における調査データをグラフにしたものですが、それぞれの年度の江東区の環境白書実績報告から種類数と年間総個体数を抽出したものです。水鳥の個体数については、これ以上のデータは公開されているものではないので、若干のデータがホームページ等から入手できた平成 26 年 6 月~平成 27 年 2 月 (2014 年~15 年)の期間における江東区の水鳥生息調査結果と調査地の状況を比較してみたいと思います。江東区の調査は、6 月、9 月、12 月、1 月、2 月に実施されており、2014年に出現した水鳥は 23 種で 3,117 羽とのことですが、調査地における調査では 6、9 月は含まれておらず、また、公表されている区の数字は調査月ごと又は地域ごとに合算されていますので、調査地の調査データとは単純に比較はできません。

調査地の該当月の2回の調査結果を平均し、区の月別調査結果のうち12月以降の3か月分の記録と比較してみますと、図9-2-2のようになります。

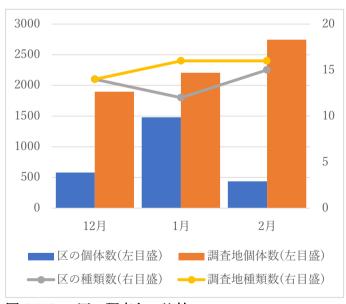


図 9-2-2 区の調査との比較

区の水鳥調査は月ごとの種類数、個体 数とも5地点の合計数ですが、調査地 の当月平均値と比較すると、いずれも 調査地の数字が大きくなっています。 区の月別調査結果のうち興味深い点は、 12月のヒドリガモの個体数です。区の 報告では 12 月に主に豊洲運河を中心 に合計 109 羽出現していますが、2014 年 12 月に行われた当会の水鳥調査で は6地点合計で40羽、その翌日の調 査地において 14 羽ですから両日の個 体数を合計しても 54 羽にしかなりま せん。図 7-2-1-2a~c で見たように調 査地において、ヒドリガモが3年間の 調査期間中出現した最大数は 2014 年 の 65 羽です。図 9-1-4 で種類別出現場

所別に見たマガモ属の出現状況を見ても最多の辰巳で2014年から16年まで3年間の出現数を合計して103羽です。

区の調査では豊洲運河や他の地点において、12月にどれだけの数が出現したかなどの個別情報は公表されていませんので不明ですが、ヒドリガモの分布状況や生態を知る上においては重要な情報となりえましょう。

また、1月の区の月別調査結果は12種類で1,479羽ですが、そのうち979羽はキンクロハジロで、主に荒川で出現しています。2月には15種434羽のうち、キンクロハジロは168羽に減少していますが、主な出現場所は豊洲運河です。調査地においては、キンクロハジロは1月の第1週に985羽、第3週に674羽出現しています。また、2月も第1週に893羽、第3週に896羽と1月の平均値よりもやや多目に出現しています。

9-3 その他水域の参考調査

図 9 で、青色で囲まれた(G)、(H)、(I)の地域について 2014 年 1 月 24 日と 2015 年 1 月



16 日に水鳥の状況を調査した記録がありますので、参考数値としてあげておきます。これらは、本報告冒頭「1.本報告の位置づけについて」で述べましたように、「当会の水鳥調査を補完する目的で区内の既存調査区域以外での鳥類が生息している場所を探していたとき」に得た記録の一部です。図 9・3・1 は図 9 の (G) (H) (I) 3 地域の部分を拡大したものです。それぞれの場所は次のとおりです。

図 9-3-1 その他の水域拡大図

(G) 14 号地第 1 貯木場: 主に北西と南東にある橋の上から観測

(H) 14 号地第 2 貯木場: 主に北東と南西にある橋の上から観測

(I) 12 号地貯木場の南の一部分: 主に東端にある橋の上から観測

これらのうち、Iの12号地貯木場全体については、東京都環境局が東京湾のその他の水域と合わせて長期間にわたり鳥類の調査を行ったデータが残されていますが、近年はこの場所は継続調査の対象から外れているようです。環境局の調査は船舶から行ったものですが、当会の調査は橋の上から行っているため、12号地貯木場の中でも南の一区画だけを調査しています。

G、Hは、共に水域としては広大ですが、私有地に囲まれているので観測できる場所が 非常に限定されており、全域をくまなく網羅することは不可能です。しかし、一般に鳥 影は少なく、大部分を計測できているのではないかと思われます。

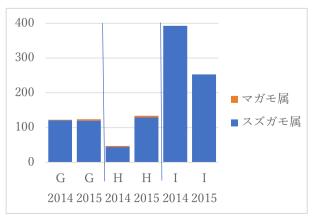


図 9-3-2 カモ科の出現個体数比較

(カモ科の鳥の比較)

これら3地域を比較するために、出現した水鳥のうちカモ科の鳥をマガモ属とスズガモ属に分けて示したものが図9-3-2です。G、H、I それぞれの地域別に、2014年、15年の2年分ずつ表示しています。それぞれ各年の調査日当日におけるカモ科の鳥の出現総数です。

図を見るとどの地域も、カモかスズガモ属が 圧倒的です。マガモ属については G では少 なく、14年にはオナガガモのみ1種しかも1羽のみ、15年でもカルガモ3羽、ヒドリ ガモ1羽で、合計2種4羽のみでした。Hにおいては、カモ科マガモ属が14年にカル ガモ1羽、オナガガモ2羽の2種3羽、15年にカルガモのみの1種5羽でした。Iにお いては、カモ科マガモ属は両年とも出現しませんでした。

カモ科スズガモ属は、G ではホシハジロは 14 年に 27 羽、15 年に 35 羽、スズガモは 14年に94羽、15年に78羽とどちらも各年の出現数は同じような傾向でしたが、キン クロハジロは 15年のみで 7羽しか出現しませんでした。H においては、14年にホシハ ジロ22羽、キンクロハジロ4羽、スズガモ18羽で合計44羽出現しましたが、15年に はスズガモのみ 129 羽出現しました。I においては、14 年にホシハジロ 3 羽、スズガモ 389 羽で、計 392 羽、15 年にはスズガモのみで 253 羽出現しました。

(その他の鳥の比較)

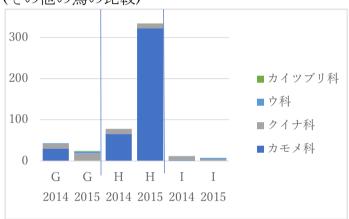


図 9-3-3 その他の鳥の出現個体数比較

図 9-3-3 はカモ科以外のその他の鳥 の出現数を地域別に 2014 年と 15 年 の2年分ずつ表示したものです。図を 概観すると、GとIは数が少なく、15 年は14年よりも数が少なくなってい る傾向なのに、H は全体に数が多く、 しかも2015年の全体の出現数が圧倒 的に大きくなっている違いがわかり ます。大きな数字はほとんどがカモメ 科の鳥で、クイナ科がわずかではあり ますがそれに次いでいるようです。

具体的に見てみますと、Gでは、カイ

ツブリ科は14年にハジロカイツブリ1羽、15年にカイツブリとハジロカイツブリの2 種計3羽、カワウが14年に2羽、15年に5羽、クイナ科オオバンが14年に11羽、15 年に18羽と両年ともに同じような傾向でしたが、カモメ科は14年にウミネコとカモメ の2種で合計30羽出現したものが、15年には全く出現しませんでした。

Hでは14年にはクイナ科とカモメ科のみが出現しました。内訳はオオバンが13羽で、 カモメ科は2種でセグロカモメが64羽、オオセグロカモメが1羽でした。15年の調査 では、カイツブリ科でカイツブリが1羽出現したほかは、やはりクイナ科とカモメ科だ けで、オオバンが 11 羽とセグロカモメが 322 羽です。カモメ科の個体数が特に多かっ たために個体数の差が顕著になっていますが、種類は単調でした。I では 14 年にカンム リカイツブリ1羽、カワウ1羽、オオバン9羽、カモメ科ではカモメのみ2羽、15年 にはハジロカイツブリが1羽、カワウが3羽、オオバンが4羽でカモメは出現しません でした。Iでは、カモ科のスズガモが圧倒的に多くいましたが、その他の鳥では種類数 も個体数も非常に限定的です。

10. 調査地における水鳥調査結果のまとめ

(調査してわかったこと)

調査地を利用する鳥類の種類と個体数の概要を知る目的で開始した調査ですが、3 年間 の調査の結果判明したことは、調査地は多くの水鳥に継続的に利用されていること、特 にカモ科スズガモ属の鳥たちにとっては重要な越冬場所、または、渡りの中継地になっているのではないかということです。中でも 2014 年度と 15 年度のキンクロハジロ、ならびに、2016 年度のホシハジロの個体数が区内では比べ物にならないほど多いことが特筆されます。また、調査地はカワウの重要な繁殖場所であることもあげられます。区内の各地域における記録と比較した場合に、調査地におけるカワウの個体数規模の大きさは群を抜いています。

カモ科マガモ属は、スズガモ属と比較すると個体数としてはスズガモ属には及びませんが、7種類が出現しています。これだけ多くの種類が一か所でみられる場所は区内では多くありません。また、その内コガモ、ヒドリガモ、マガモについては、調査地ほど個体数が多く見られる場所は区内ではほとんどありません。

貯木場という特徴から、サギ類やシギ類は生息しづらい環境と思われますが、彼らもま た休息などに利用していることが判明しました。

調査地を利用する水鳥は、それぞれの種類ごとに特徴のある現れ方をしていること、また、常に同じパターンで出現するのではなく、年によっては同じ種類でも大きく異なる形で出現していることもわかりました。

(調査地に集結する原因の推測)

なぜ調査地に多様な水鳥が集まるのか、特にカモ科スズガモ属の鳥たちがなぜ数多く集るのか、結論を出すには至りませんが、調査者がその場に臨んだ感覚から推測できることとしては、その理由の一つは水域の安定性と安全性にあるのではないかと考えられます。貯木目的で整備された水域は、一定の深さがあります。また、木材の流出を防ぐ柵や、その周囲を取り囲む護岸は波を抑える効果があり、護岸や林の高さからある程度の防風効果もありますので、スズガモ属の鳥たちが休息しやすい環境を作り出しているものと推測されます。さらに、人や車、船などによる脅威が少ないことがそのほかの種類にとってもメリットがあるのではないかという点があげられます。このような安全な環境が、長年継続していることも大事な要素かもしれません。

貯木場として、より広い水域を持つ 14 号地第 1 および第 2 貯木場は深さや護岸、船舶の影響、貯木場として実質的に使われなくなってからの時間などは調査地とほぼ同条件ですが、9·3 で見ましたように、鳥類の出現は同時期の調査地と比較すると、種類、個体数共にはるかに少ない状況です。14 号地の各貯木場と調査地との相違点は、14 号地の貯木場がいずれも周囲を工場や事務所などの建物、駐車場、作業場などで囲まれているのに対し、調査地は一方向が運河で、船舶の通行があるものの、その他の三方向が、東側の林など自然環境が残され、人的脅威にさらされにくくなっていることがあげられます。この点が水鳥たちにとって調査地のほうを選択させる要因となっているのではないかと推測されます。

マガモ属のカモ類も本来でしたら身を隠す、または、採餌に好都合な植生がある環境を好むものと思われますが、内陸の公園などと比し、人の脅威を感じにくい水面があること、また、人工物など陸地に代わる休養するのにふさわしい場所が存在することが、特に渡りの途中に立ち寄る場所として調査地が好まれる傾向にあるのではないかと推測されます。

カワウの場合も、調査地東側の林は、その裏(東)側、荒川までの間の土地は、東京都下

水道局並びに国土交通省により、立入が制限されており、西側に広がる調査地の水域は 直接的な人的脅威から一定の距離をおくことができ、しかも荒川、調査地、東京湾など 採餌場所から至近であることが、コロニーを形成する条件の主要なものを満たしている ことになるのではないかと思われます。

(継続的水鳥生息調査と、その結果を開示する必要性)

調査地と区内各地の調査結果との比較を行ったことにより、本件調査の副次的な成果としてわかったこともあります。区内には、水鳥が集まりやすい場所が点在し、それぞれの場所にはそれぞれの特徴があり、所によっては特定の種類の鳥たちにとっては非常に重要な場所になっている可能性があるということです。

これらの場所は、江東区内で貴重な自然環境が残されている場所である可能性がありますが、水がきれいで植生が豊かであるなど優れた自然がある環境ばかりではありません。そのような場所がなぜ特定の種類の鳥たちから好まれているのかなど、不明なことは多くあります。調査地で休んでいる数多くの夜行性のカモたちがどこで採餌しているのかもわかっていません。

具体的にそれらのデータを集めたくても、区内で生物データの継続的収集、供給を行っている組織はほとんどありません。

本件調査で明らかとなった調査地の鳥類については、今後も安定的に維持できるかどうかというと、必ずしもそうとは言い切れません。

カワウのコロニーについては、下水道局の施設の拡張や各種工事だけでなく、カワウ自らの糞の影響などにより健全な林の形状や規模の維持が困難となる恐れも懸念されます。この点に注目するのであれば、カワウについてのより深い調査が必要となります。また、それほど遠くない将来には、カワウコロニーのある林の東側、荒川との間に補助第144号計画道路が走ることになるでしょう。おそらく一番影響を受けるのはカワウの生息場所でしょうが、貯木場で休息している水鳥たちにどのような影響が及ぶのか、及ばないのか、その辺の状況予測もさらなる調査の深掘りがなければなかなか良い回答は見つからないのではないかと思います。

調査地は、長期の越冬地としてだけでなく、東京 23 区内における渡り鳥の中継地として地方の池、湖が果たしているような役割の一部を担っているのではないかと思われる面があります。実態を調査し、正しく理解することによって、必要な対策も具体的な提案として提示できる可能性があります。

江東区は、環境基本計画に基づく調査を長年継続していますが、その内容の公開状況は 当初と比べると明らかに限定的なものへと変化しており、区民が環境変化の指標として 区から具体的に示される水鳥の生息情報の質が低下し、情報量が非常に少なくなってき ています。

当会は、20年以上にわたり区内の水鳥調査を継続していますが、その結果はまだまとめられておらず、個別データも正式には開示していません。調査地における本件調査により、区内で水鳥が数多く集まる非常に重要な場所があることが判明したのですから、当会のできる範囲で今後も可能な限り調査地を含めた区内各地の調査を継続していく努力が求められるとともに区内の自然環境を知るデータとして調査結果を広く開示していくことへの期待も高まるものと思われます。

当会では、鳥類調査を担える人材は多くはありませんが、20年にわたる調査で着実にそのすそ野を広げて来ている一方、高齢化で一線を退く人材も増加しています。

そのような厳しい環境ではありますが、今後は、江東区が行う調査が継続できる間は連携を取りつつ、不足する部分は自然環境関連組織等の協力をえながら江東区内における生物調査の充実を図ることに当会が主導的にかかわっていくことが期待されているのではないでしょうか。

この報告が調査の取りまとめとして終わるのではなく、これからの新たなスタートを切る契機となることを願っております。

以上

調査担当者(五十音順): 荒川洋一、稲垣章子、大原庄史、佐々嘉子、宮本喜一朗調査報告執筆、編集担当 荒川洋一 2019年12月5日

資料編

新砂貯木場の鳥類調査報告 資料編目次

1.	本報告調査記録	
	総合集計表 2014 - 2015	- 1
	総合集計表 2015 - 2016	- 2
	総合集計表 2016 - 2017	- 4
	出現場所別集計表 合計表 2014 - 2017 · · · · · · · · ·	- 6
	出現場所別集計表 2014 - 2015	- 7
	出現場所別集計表 2015 - 2016	- 8
	出現場所別集計表 2016 - 2017	- 9
	調査日別記録 2014‐2015 水鳥	10
	調査日別記録 2015 - 2016 水鳥	17
	調査日別記録 2016 - 2017 水鳥	26
	調査日別記録 2014 - 2015 陸鳥	36
	調査日別記録 2015 - 2016 陸鳥	43
	調査日別記録 2016 - 2017 陸鳥	52
 3. 	「8. 調査地と周辺地域との対比」関連データ 調査地周辺地域水鳥数調査記録	62
	○9-1 当会の水鳥調査結果との比較	
	NPO 法人ネイチャーリーダー江東水鳥調査記録 ・・・・・・	- 65
	○9-2 江東区の水鳥生息調査結果との比較	0.0
	江東区ホームページ「水鳥生息調査」2015年5月	66
	江東区「水鳥生息調査」出現数経年変化」	69
	江東区の環境白書、環境基本計画実績報告書より	5 0
	水鳥生息数調査平成 26 年度概要	70
	水鳥生息数調査平成 27 年度概要	71
	水鳥生息数調査平成 28 年度概要	72
	○9-3 その他水域の参考調査	
	その他周辺地域水鳥数調査記録 2014‐2015	73

新砂貯木場鳥類数調査総合集計表(2014-2015)

月日	10/15	11/5	11/19	12/3	12/24	1/7	1/21	2/4	2/18	3/4	3/18	4/1	4/15	
開始	9:00	9:05	9:08	9:15	9:18	9:06	9:05	9:00	9:00	9:10	9:00	9:00	9:00	
終了	10:40	10:45	10:50	10:40	10:50	10:58	10:35	11:00	11:00	10:35	11:00	10:40	10:30	合計
種名↓・種数→	27	26	27	23	26	26	23	23	23	17	27	20	20	47
オカヨシガモ	-	2	4	1	- 44	50	-	3	- 10	-	4	- 10	_	18
<u>ヒドリガモ</u> マガモ	-	20	4 17	31 23	14 65	50 37	65 37	63 22	19 21	12	20 12	12 3	-	278 269
カルガモ	3	15	5	7	52	27	15	60	21	19	9	6	3	242
ハシビロガモ	-	-	1		- 52	-	5	2	-	- 10	-			8
オナガガモ	_	_	-	_	29	2	-	62	2	1	_	_	_	96
コガモ	38	57	100	36	23	45	34	39	26	11	28	4	15	456
ホシハジロ	218	336	77	214	198	701	533	649	550	188	469	72	10	4,215
キンクロハジロ	181	742	870	723	856	985	674	893	896	791	979	411	196	9,197
スズガモ	-	10	207	313	598	382	87	531	683	63	587	445	134	4,040
ミコアイサ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カイツブリ	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
カンムリカイツブリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハジロカイツブリ	- 077	-	-	405	-	1	1	2	2		700	- 004	-	6
カワウ アオサギ	377 18	208 15	260	195	328 9	258	397	490 4	380	542	728 2	821	604	5,588 112
ダイサギ	18	15	14	14	9	10	5	-	6	8		7	1	112
コサギ	1	-			-	-	-	-	-	-	-	-		1
オオバン	18	19	20	26	33	31	23	31	30	68	38	28	32	397
キアシシギ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イソシギ	3	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	6
キョウジョシギ	-	-	-	-	_	_	_	-		_	_		_	
ユリカモメ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	24	-	-	25
ウミネコ	5	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	4	5	16
セグロカモメ	1	3	2	2	2	-	2	2	1	1	5	-	4	25
オオセグロカモメ	3	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	5
コアジサシ	- 47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	- 04
カモメSP	17	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
ヒメアマツバメ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	- 10
キジバト ドバト	1	1 2	-	-	3 50	5	4	3	-	-	1	1	-	19 52
ミサゴ	-		_	-	- 50	_		_	_	-	-		_	52
トビ	1	_	_	1	_	1	_	_	_	_	_	_	_	3
オオタカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ノスリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カワセミ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
チョウゲンボウ	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
ハヤブサ	-	•	1	-	•	•	-	-	-	-	-	-	-	-
モズ	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
オナガ	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-		3	5
ハシボソガラス	1	1	1	6	- 11	2	1	-	1	2	6	-	6	27
ハシブトガラス シジュウカラ	3	8	2	8	11	4	-	5	6	1	2	5 -	1	54 5
ンンュリカラ ヒバリ	1	2	-		-	1		2	1	1	3	2	1	14
ツバメ	-			_	-		-	-			1		2	3
ヒヨドリ	28	13	5	10	25	8	2	_	2	-	2	1	2	98
ウグイス	-	-	-	-	1	-	2	-	-	_	-	-	-	3
メジロ	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	1	-	-	9
セッカ	-	-	-		-	-		-	-					-
ムクドリ	2	50	-	1	17	-	1	20	10	2	-	42	5	150
ツグミ	-	-	-	3	3	3	2	-	-	-	1	2	-	14
ジョウビタキ	-	1	1	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	5
イソヒヨドリ	1	-	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	1
スズメ	10	120	50	2	30	30	-	10	5	-	-	25	10	292
ハクセキレイ	2	4	3	3	2	4	5	1	3	2	1	2	2	34
セグロセキレイ タヒバリ	-	-	1	-	<u>-</u> 1	-	1	2	2	-	-	-	-	7
カワラヒワ	2	3	2	1	-	8	-	-	4	-	3	-	-	23
ホオジロ		<u> </u>			-	- 0	1		-	 		-		1
アオジ	-			-	1	2	1	_	_	-	1	2		7
オオジュリン	-	-	1	-	-	-	-	_	_	_	-	-	-	1
合計	938	1,639	1,652	1,623	2,354	2,609	1,898	2,897	2,672	1,713	2,930	1,895	1,037	25,857
		,	,		,	,	,	,	,	. ,	,	. ,	,	-,

新砂貯木場鳥類数調査総合集計表(2015-2016)

月日	9/16	10/7	10/21	11/4	11/18	12/2	12/16	12/24	1/6	1/20	2/3	2/24
開始	9:05	9:00	9:10	9:05	9:05	9:00	9:00	9:05	9:05	9:05	9:03	9:00
終了	10:05	10:30	11:05	11:25	11:05	10:55	11:15	11:10	10:50	11:00	11:03	10:57
種名↓・種数→	18	18	26	27	26	24	27	31	34	22	29	23
オカヨシガモ	-	-	-	-	-	4	1	5	4	-	-	2
ヒドリガモ	-	-	-	7	19	16	27	13	18	1	14	29
マガモ	-	-	10	4	16	14	41	9	15	5	36	26
カルガモ	40	48	40	16	20	32	25	16	35	17	47	38
ハシビロガモ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
オナガガモ	-	- 04	8	2	4	8	12	2	6	- 47	5	- 70
コガモ ホシハジロ	2 6	21 29	38	55 296	82 147	117 365	100 354	64 242	29 261	17 219	63 573	72 381
キンクロハジロ	3	28	167 469	775	677	484	380	383	263	103	537	594
スズガモ	2	20	19	148	366	156	101	134	138	17	117	394
ミコアイサ		_	13	140	300	130	101	134	130	17	117	_
カイツブリ	1	_	_	_	1	_	,	_	_	_	1	_
カンムリカイツブリ	-	_	_	_	-	1	_	2	_	_	-	1
ハジロカイツブリ	_	_	1	-	_	1	_	1	1	_	-	-
カワウ	209	117	782	427	541	472	188	202	330	315	520	540
アオサギ	11	10	21	30	24	23	21	13	9	16	13	5
ダイサギ	-	-	5	4	-	-	-	1	-	1	-	-
コサギ	2	2	2	2	-	1	-	1	1	-	-	-
オオバン	-	1	35	57	28	40	37	9	43	28	32	38
キアシシギ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イソシギ	-	2	2	3	4	-	1	-	-	1	1	-
キョウジョシギ	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-	-
ユリカモメ	-	-	-	-	-	-	5	12	4	-	20	1
ウミネコ	4	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-
セグロカモメ	2	11	11	5	4	4	2	3	3	2	1	3
オオセグロカモメ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
コアジサシ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カモメSP												
ヒメアマツバメ		4	4		4				4	4		
キジバト	-	1	1	-	1	-	2	-	1	1	1	-
ドバト	1	-	-	-	-	-	-	- 1	3 1	-	-	-
ミサゴ トビ	-	-	1	1	-	-	-	1	- 1	1	-	-
オオタカ	_	-	- 1	- '	-	-		-		- 1	-	
ノスリ												
カワセミ	_	_	_	_	_	_	,	_	_	-	_	1
チョウゲンボウ	-	-	1	-	1	1	_	1	1	_	-	-
ハヤブサ					-	-						
モズ	-	-	2	2	-	-	-	1	1	-	-	1
オナガ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
ハシボソガラス	-	3	5	2	4	5	3	2	1	3	1	2
ハシブトガラス	5	2	1	4	3	2	4	2	1	-	6	3
シジュウカラ	3	-	-	-	-	-	-	3	2	1	2	-
ヒバリ	1	1	3	1	2	1	1	5	6	-	2	1
ツバメ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒヨドリ	3	5	10	31	8	5	13	6	6	5	4	2
ウグイス	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-
メジロ	-	-	-	-	-	-	3	3	2	-	6	2
セッカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	70	- 40	-
ムクドリ	-	-	-	-	-	-	-	3	- 1	70	40	-
ツグミ ジョウビタキ	-	-	-	2	-	-	-	1	1	7	1	2
イソヒヨドリ	<u> </u>	-	-		-		-	_	-	_	-	-
スズメ	30	8	65	10	10	_	_	_	30	3	30	
ハクセキレイ	5	3	- 05	5	4	2	5	4	30	3	2	2
セグロセキレイ	<u> </u>	3	-	J	4		J	4	J	3		
タヒバリ	_	_	_	_	1	3	1	2	1	-	1	1
カワラヒワ	-	2	2	2	1	-	1	-	2	_	1	-
ホオジロ	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
アオジ	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
オオジュリン												
合計	330	294	1,702	1,893	1,970	1,758	1,331	1,146	1,224	836	2,078	1,747
					, -							

月日	3/2	3/16	4/6	4/20	5/11	5/25	
開始	9:00	9:00	9:05	9:03	9:00	9:00	
終了	11:05	11:25	10:45	10:28	10:30	10:20	合計
種名↓・種数→	27	27	22	20	23	20	52
オカヨシガモ	-	4	-	-	-	-	20
ヒドリガモ	8	2	6	2	-	-	162
マガモ	32	11	5	-	-	_	224
カルガモ	71	20	13	8	7	5	498
ハシビロガモ	-	-	-	-	-	-	1
オナガガモ	5	-	-	-	-	-	52
コガモ	78	56	29	24	-	-	847
ホシハジロ	440	387	11	2	1	1	3,882
キンクロハジロ	842	912	410	139	1	3	7,003
スズガモ	80	519	491	318	-	-	2,606
ミコアイサ							,-,
カイツブリ	_	1	_	_	_	_	4
カンムリカイツブリ	2	2	-	-	-	_	8
ハジロカイツブリ	1		-	-	-	_	5
カワウ	509	779	785	829	1,097	1,244	
アオサギ	5	4	4	- 023	3	2	214
ダイサギ		-	-		2	1	14
コサギ	_	-	-	-	2	1	14
オオバン	67	65	23	_	1	<u> </u>	504
キアシシギ	- 01	- 03	- 23		1		1
イソシギ	1	1	1	_	1		18
キョウジョシギ	-	-	-	_	92		92
ユリカモメ	5	21	_	_	92	-	68
ウミネコ	ວ	۷۱	4	1	1	3	16
セグロカモメ	1	5	3	1	12		73
オオセグロカモメ	-	-	-	-	- 12		1
コアジサシ	-				1		1
カモメSP	-				- 1		<u> </u>
ヒメアマツバメ							
	0			-			45
キジバト	2	-	1	2	1	1	15
ドバト	-	-	-	-	-	-	4
ミサゴ	-	-	-	-	-	-	2
トビ	-	-	-	-	-	-	3
オオタカ							
ノスリ							
カワセミ	-	-	-	-	-	-	1
チョウゲンボウ	-	-	-	-	-	-	5
ハヤブサ							
モズ	-	-	-	-	-		7
オナガ	-	-	-	-	-	1	2
ハシボソガラス	3	2	2	1	1	2	42
ハシブトガラス	6	7	6	2	1	4	59
シジュウカラ	1	1	-	-	1	1	15
ヒバリ	1	1	2	1	2	1	32
ツバメ	-	-	-	-	-	1	1
ヒヨドリ	1	2	3	8	-	4	116
ウグイス	1	1	1	-	-	-	6
メジロ	-	4	1	1	-	-	22
セッカ	-	-	-	-	1	1	2
ムクドリ	6	4	-	2	2	8	135
ツグミ	2	5	-	1	-	-	20
ジョウビタキ	-	-	-	-	-	-	2
イソヒヨドリ							
スズメ	-	-	2	10	4	1	203
ハクセキレイ	5	3	3	3	-	1	53
セグロセキレイ							
タヒバリ	-	-	-	-	-	-	10
カワラヒワ	1	1	-	2	1	-	16
ホオジロ		-	-	-	-	-	2
アオジ		-	-	-	-	-	1
オオジュリン							
合計	2,176	2,820	1,806	1,357	1,236	1,286	26,990
						_	

新砂貯木場鳥類数調査総合集計表(2016-2017)

月	日 9/7	9/21	10/5	10/19	11/2	11/16	12/7	12/21	12/22	1/4	1/18
	始 9:00	9:00	9:00	9:00	9:05	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00
	子 9:56	10:15	10:25	11:10	11:17	11:00	11:17	12:00	11:15	11;40	11:15
種名	16	24	26	25	25	26	32	33	28	30	24
オカヨシガモ	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
ヒドリガモ	0	0	3	6	19	2	16	7	11	11	14
マガモ	1	8	5	16	12	39	33	33	37	28	25
カルガモ	48	17	87	44	19	19	45	70	118	66	90
ハシビロガモ	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
オナガガモ	-	-	-	-	4	-	6	14	14	18	12
コガモ	-	8	56	108	57	73	59	44	55	84	81
ホシハジロ	-	2	6	114	264	133	302	371	321	1,301	2,017
キンクロハジロ	-	5	21	572	450	563	409	493	329	261	600
スズガモ	-	-	8	33	21	402	183	157	137	12	22
ミコアイサ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
カイツブリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カンムリカイツブリ	-	-	-	-	-	1	1	2	2	1	1
ハジロカイツブリ	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-
カワウ	1,036	265	704	556	1,684	205	166	146	208	381	480
アオサギ	13	19	23	23	25	21	7	13	8	9	10
ダイサギ	6	7	5	-	1	-	-	-	-	-	1
コサギ	11	2	-	-	1	-	1	1	-	1	-
オオバン	1	2	9	30	21	16	73	46	58	50	41
キアシシギ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イソシギ	1	1	3	1	2	1	1	1	2	-	1
キョウジョシギ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ユリカモメ	-	-	-	1	75	34	5	35	64	2	35
ウミネコ	2	11	1	-	1	-	-	-	-	1	-
セグロカモメ	4	2	1	3	4	5	3	3	3	14	2
オオセグロカモメ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コアジサシ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カモメSP	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒメアマツバメ	_	_	-	-	_	_	-	_	_	_	-
キジバト	3	_	2	1	_	1	8	2	5	8	_
ドバト	-	5	-	3	_	20	-	-	-	-	_
ミサゴ	_	-	-	-	_	-	_	-	-	_	_
トビ	2	1	1	1	1	2	1	_	_	4	_
オオタカ	-	2						1	1		_
ノスリ	_	_	_	_	_	-	_	-	-	1	_
カワセミ	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_
チョウゲンボウ	_	-	-	-	-	-	-	_	-	-	_
ハヤブサ	-	_	_	_	_	_	_	_	_	1	_
モズ	_	_	4	1	1	2	1	2	1	-	_
オナガ	-	4	4	5	-	2	3	1	-	-	1
ハシボソガラス	9	1	5	-	1	1	2	2	-	-	
ハシブトガラス	15	5	1	12	3	5	2	4	2	6	13
シジュウカラ	1	2	3	-	-	-	1	-	-	-	-
ヒバリ	-	-	2	2	_	-	-	2	-	2	1
ツバメ	-	4	-		-	-	-		-	-	-
ヒヨドリ	-	2	5	181	9	6	5	13	13	18	3
ウグイス	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
メジロ	-	_	1	1	_	-	4	4	1	1	5
セッカ	-	-	-	-	-	-	_		-	-	
ムクドリ	-	4	-	6	-	2	9	5	1	_	_
ツグミ	-	-	-	-	-	2	2	3	-	1	2
ジョウビタキ	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
イソヒヨドリ	-	-	-	_	-	-	_	-	-	-	-
スズメ	-	-	14	_	3	3	_	-	-	3	_
ハクセキレイ	3	6	6	6	4	3	4	4	8	3	3
セグロセキレイ	-	-	-	-		-			1	-	-
タヒバリ	_	_	_	_	_	_	_	_	-	1	_
カワラヒワ	_	_	_	2	_	_	2	1	1	1	1
ホオジロ	<u> </u>	_	_	-	_	_	_		-	-	_
アオジ	_	_	_	_	_	_	1	1	1	1	_
オオジュリン	-	_	_	_	_	_	-		-	_	_
合計	1,156	385	980	1,728	2,684	1,563	1,358	1,484	1,405	2,291	3,461
HPI	1,100	505	900	1,720	۷,004	1,505	1,000	1,704	1,700	ا 32,2	J, T U I

	月日	2/1	2/15	3/8	3/22	4/12	4/26	5/10	5/24	
	開始	9:00	9:00	9:05	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	
	終了	11:26	11:47	11:10	10:55	10:25	10:10	10:27	10:35	合計
種名		26	21	28	26	20	23	20	21	51
オカヨシガモ		2	0	1	2	0	0	0	0	7
ヒドリガモ		8	16	25	34	0	2	0	0	174
マガモ		37	33	29	12	0	0	0	0	348
カルガモ		59	25	41	34	4	6	7	2	801
ハシビロガモ		-	-	-	-	-	-	-	-	2
オナガガモ		-	8	3	-	-	-	-		79
コガモ		73	67	43	96	-	-	-		904
ホシハジロ		2,539	2,074	1,457	673	17	3	-	4	11,598
キンクロハジロ		465	677	684	679	225	26	7	6	6,472
スズガモ		13	39	-	4	883	313	12	4	2,243
ミコアイサ		-	-	-	-	-	-	-	-	1
カイツブリ		-	-	-	-	-	-	-	-	-
カンムリカイツブリ	l	3	-	-	1	1	2	-	-	15
ハジロカイツブリ		2	1	-	-	-	-	-	-	6
カワウ		476	564	526	540	891	909	1,100	1,073	11,910
アオサギ		5	7	5	2	2	4	4	2	202
ダイサギ		-	-	-	-	-	-	-	1	21
コサギ		-	-	-	1	-	1	1	-	20
オオバン		58	22	25	73	12	-	2	2	541
キアシシギ		-	-	-	-	-	-	-	-	-
イソシギ		-	-	1	-	-	-	1	-	16
キョウジョシギ		-	-	-	-	-	-	-	-	-
ユリカモメ		31	27	44	10	-	13	-		376
ウミネコ		-	-	-	7	3	1	3	3	33
セグロカモメ		1	-	2	1	4	4	1	-	57
オオセグロカモメ		-	-	-	-	-	-	-		-
コアジサシ		-	-	-	-	-	-	-		-
カモメSP		-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒメアマツバメ		_	_	_	_	_	_	_	1	1
キジバト		2	_	1	2	_	-	-	-	35
ドバト		-	_	-	-	_	_	2	_	30
ミサゴ		1	_	2	_	_	_	-	_	3
トビ		1	_	-	_	_	_	_	_	14
オオタカ			1	1	_	_	_	_	_	6
ノスリ		_			_	_	_	_		1
カワセミ		_	_	_	_	_	_	_		-
チョウゲンボウ		_	_	_	_	1	_	_		1
ハヤブサ		_	_	_	_		_	_	_	1
モズ		_	_	_	_	_	_	_	_	12
オナガ		_	4	_	_	_	_	_	_	24
ハシボソガラス		1	1	3	1	2	8	2	1	40
ハシブトガラス		5	2	6	8	9	6	-	4	108
シジュウカラ		-	-			2	2	2	3	16
ヒバリ			_	1	1	-	1	2	2	16
ツバメ		-		-	-	5	3	2	1	15
ヒヨドリ		3	3	1	3	7	5	-	4	281
ウグイス		-	<u> </u>	2	1	-	-		-	5
メジロ		1		2					-	20
セッカ		-	_	-	_	_	1	2	1	4
ムクドリ		-	-	4	6	3	2	3	1	46
ツグミ		2	2	2	2	<u>ა</u>		<u>ა</u>	-	18
ジョウビタキ			-	1					-	2
イソヒヨドリ			_	-	_	_	_	-	-	
スズメ			-	2	3	5	3	8	3	47
ハクセキレイ		2	3	3	5	5	3	3	2	76
セグロセキレイ			<u>ა</u>	-	5	5	<u> </u>	-		
タヒバリ		-	1	-	-	-	-	-	-	1 2
								2		
カワラヒワ		1	-	-	-	-	3		3	17
ホオジロ		-	-	-	-	-	-	-	-	-
アオジ オオジュリン		2	-	-	-	1	-	-	-	7
					2 204			1 166	1 100	26 67E
合計		3,793	3,577	2,917	2,201	2,082	1,321	1,166	1,123	36,675

新砂貯木場鳥類数調査出現場所別集計の合計表(2014-2017)

種名↓・場所→	東側林	北側水路	枠:杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	その他	合計
オカヨシガモ	-	18	-	8	-	-	19	45
ヒドリガモ	-	329	44	58	-	-	183	614
マガモ	1	153	359	308		-	20	841
カルガモ	1	325	911	285	6	2	11	1,541
ハシビロガモ	-	11	-	-	-	-	-	11
オナガガモ	-	84	57	81	-	-	5	227
コガモ		1,815	147	56			189	2,207
ホシハジロ	-	9,396	1,663	8,114	-	-	522	
						-		19,695 22,672
キンクロハジロ スズガモ	-	11,637	59	10,750	17		209	
	-	310	17	8,562	-	-	-	8,889
ミコアイサ	-	1	-	-	-	-	-	1
カイツブリ	-	2	-	3	-	-	-	5
カンムリカイツブリ	-	17	1	3	-	-	2	23
ハジロカイツブリ	-	14	1	2	-	-	-	17
カワウ	19,764	856	6,621	68	5	2	68	27,384
アオサギ	138	48	327	3	7	2	3	528
ダイサギ	4	8	13	-	11	-	-	36
コサギ	2	5	18	2	2	3	3	35
オオバン	2	540	183	549	5	-	163	1,442
キアシシギ		1	-	-		-	-	1
イソシギ	1	11	18	4	•	5	1	40
キョウジョシギ	•	13	29	-	•	-	50	92
ユリカモメ	-	49	23	1	22	-	374	469
ウミネコ	-	2	32	12	7	-	12	65
セグロカモメ	-	7	91	10	39	1	7	155
オオセグロカモメ	-	-	5	-	1	-	-	6
コアジサシ	•	-	1	-	•	-	-	1
カモメSP	-	-	-	-	21	-	-	21
ヒメアマツバメ	-	_	-	_	-	1	-	1
キジバト	43	_		_	3	23	-	69
ドバト	-	-	-	-	73	13	-	86
ミサゴ	_	_	1	_	4	-	_	5
トビ	5	1	1	_	3	10	_	20
オオタカ	1	-	3	-	1	-	1	6
ノスリ	-	-		_	-	1	-	1
カワセミ		1				-	-	1
チョウゲンボウ		1		-	-	9		
ハヤブサ	-	-	-	-	-	1	-	10 1
モズ		-			-	9	-	22
	13	-		-				
オナガ	20	-	- 10	-	-	11	-	31
ハシボソガラス	43	-	19		1	46	-	109
ハシブトガラス	62	-	-	-	5	154	-	221
シジュウカラ	8	-	-	-	3	25	-	36
ヒバリ	13	-	-		2	47	-	62
ツバメ	- 470	-	-	-	1	16	2	19
ヒヨドリ	178	-	-	-	69	248	-	495
ウグイス	2	-	-	-	-	12	-	14
メジロ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2	-	-	-	-	49	-	51
セッカ	5	-	-	-	-	1	-	6
ムクドリ	89	-	8	-	3	229	2	331
ツグミ	13	1	-	-	1	37	-	52
ジョウビタキ	3	-	-	-	-	6	-	9
イソヒヨドリ	•	-	1	-	•	-	-	1
スズメ	59	-	-	-	•	483	-	542
ハクセキレイ	10	17	47	-	2	86	1	163
セグロセキレイ		-	-	-		1	-	1
タヒバリ	•	-	-	-	•	19	-	19
カワラヒワ	9	-	-	-	7	40	-	56
ホオジロ		-	-	-		3	-	3
アオジ	1	-	-	-	-	14	-	15
オオジュリン	-	-	-	_	1	-	_	1
								89,522
								,

新砂貯木場鳥類数調査出現場所別集計表(2014-2015)

種名↓・場所→	東側林	北側水路	枠:杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	その他	合計
オカヨシガモ	-	10	-	-	-	-	8	18
ヒドリガモ	_	165	13	58	-	-	42	278
マガモ	1	75	31	155	-	-	7	269
カルガモ	-	40	127	67	5	-	3	242
ハシビロガモ	-	8	-	-	-	-	-	8
オナガガモ		35	3	58	-	-	-	96
コガモ	-	422	14	10	-	-	10	456
ホシハジロ		2,195	140	1,649	-	-	231	4,215
キンクロハジロ	-	4,846	1	4,270	17	-	63	9,197
スズガモ	-	22	1	4,017	-	-	-	4,040
ミコアイサ	•	-	-	-	-	-	-	-
カイツブリ	-	-	-	1	-	-	-	1
カンムリカイツブリ	1	-	-	-	-	-	-	-
ハジロカイツブリ	•	4	-	2	-	-	-	6
カワウ	4,616	29	912	13	5	-	13	5,588
アオサギ	30	24	53	-	3	-	2	112
ダイサギ		-	-	-	1	-	-	1
コサギ	•	-	-	-	-	-	1	1
オオバン	•	125	19	218	5	-	30	397
キアシシギ								
イソシギ	1	1	1	3	-	-	-	6
キョウジョシギ	•	-	-	-	-	-	-	-
ユリカモメ		1	-	-	1	-	23	25
ウミネコ	-	-	9	5	2	-	-	16
セグロカモメ	-	1	15	4	4	-	1	25
オオセグロカモメ	-	-	4	-	1	-	-	5
コアジサシ	-	-	-	-	-	-	-	-
カモメSP	-	-	-	-	21	-	-	21
ヒメアマツバメ								
キジバト	13	-	-	-	2	4	-	19
ドバト	-	-	-	-	50	2	-	52
ミサゴ	-	-	-	-	-	-	-	-
トビ	2	-	-	-	1	-	-	3
オオタカ	-	-	-	-	-	-	-	-
ノスリ	-	-	-	-	-	-	-	-
カワセミ	-	-	-	-	-	-	-	-
チョウゲンボウ	-	-	-	-	-	4	-	4
ハヤブサ	-	-	-	-	-	-	-	-
モズ	3	-	-	-	-	-	-	3
オナガ	5	-	-	-	-	-	-	5
ハシボソガラス	11	-	4	-	1	11	-	27
ハシブトガラス	27	-	-	-	4	23	-	54
シジュウカラ	-	-	-	-	3	2	-	5
ヒバリ	3	-	-	-	2	9	-	14
ツバメ	-	-	-	-	- 40	3	-	3
ヒヨドリ	32	-	-	-	42	24	-	98
ウグイス	2	-	-	-	-	1	-	3
メジロ	1	-	-	-	-	8	-	9
セッカ	- 10	-	-	-	-	120	-	
ムクドリ ツグミ	12	- 1	6	-	3	129	-	150
	5	1	-		1	7		14
ジョウビタキ	2	-	- 1	-	-	3	-	5
イソヒヨドリ	- 50	-	<u>1</u>	-	<u>-</u>	- 242	-	1
スズメ	50	-		-		242	-	292
ハクセキレイ	-	2	8	-	2	21	1	34
セグロセキレイ						-		7
タヒバリ	-	-	-	-	- -	7	-	7
カワラヒワ	2	-	-	-	5	16	-	23
ホオジロ	-	-	-	-	-	1	-	1
アオジ	1	-	-	-	- 1	6	-	7
オオジュリン	-	-	-	-	1	-	-	
								25,857

新砂貯木場鳥類数調査出現場所別集計表 (2015-2016)

### 1957年	種名↓・場所→	東側林	北側水路		枠内枠南	飛翔中	北側構内	その他	合計
下リガモ				1+·17/l			ル則伸り		
対元日				- 0			-		
カルガモ - 91 382 50 1 - 4 498 ハシピロガモ - 1 1 1 オナガガモ - 23 6 21 2 52 52 コガモ - 736 22 30 59 847 ボシハジロ - 1,806 851 1,071 154 3,882 キンクロハジロ - 3,500 38 3,399 66 7,003 ズズガモ - 50 2 2,554 66 7,003 スズガモ - 50 2 2,554 66 7,003 スズガモ - 50 2 2,554 66 7,003 スズガモ - 50 1 2 2,554 66 7,003 カイツブリ - 2 - 2 - 2 4 カンムリカイツブリ - 5 1 1 1 1 8 ハジロカイツブリ - 4 1 1 1 8 ハジロカイツブリ - 4 1 1 1 8 ハジロカイツブリ - 4 1 1 1 1 8 ハジロカイツブリ - 4 1 1 1 1 8 ハジロカイツブリ - 5 1 1 1 1 1 8 ハジロカイツブリ - 1 5 1 1 - 7 1 1 1 2 1 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1									
からいけ									
### 17									
五方モ									
ボシハジロ - 1,806 851 1,071 - 164 3,882		-				-	-		
キンクロハジロ 3,500 38 3,399 - 66 7,003 スズガモ - 50 2 2,554 2,606 2,606 ミコアイサ 2 - 2 4 4 4 4 1 4 4 1 4 4 1 4 4 1 5 5 5 1 1		-	736	22		-	-	59	847
スズガモ		-	1,806	851	1,071	-	-	154	3,882
コアイサ	キンクロハジロ	-	3,500	38	3,399		-	66	7,003
コアイサ	スズガモ	-	50	2	2,554	-	-	-	2,606
カイツブリ - 2 - 2 4		-	-	-		-	-	-	
カンムリカイツブリ - 5 1 1 1 - 1 1 8 Nジロカイツブリ - 4 1 1 1 1 8 5 Nジロカイツブリ - 4 1 1 3 9,886 アオサギ 58 11 141 3 1 214 タイサギ 1 5 1 1 - 7 14 2サギ 1 2 5 2 1 1 1 2 14 オオバン - 186 108 150 60 504 チャンシギ - 1 1		_	2		2	_	_	_	4
小ジロカイツブリ									
カワウ 7,105 802 1,947 29 3 9,886 アオサギ 58 11 141 3 1 - 214 コサギ 1 5 1 - 7 14 コサギ 1 2 5 1 - 7 14 コサギ 1 2 5 2 1 1 2 1 1 2 1 1 4 1 3 1 1 - 7 1 - 14 コサギ 1 2 5 2 1 1 1 2 1 1 1 1 2 1 1 4 1 1 1 1 1 1 1									
アオサギ 58 11 141 3 1 - 214 ダイサギ 1 5 1 - 7 - - 14 ダイサギ 1 2 5 2 1 1 2 14 オオバン - 60 504 50 - - 60 504 50 - - 60 504 - - 60 504 - - 60 504 - - 60 504 - - 60 504 - - 60 504 - - 60 504 - - 1 - - - 1 - - - 1 - - - 50 99 - - 50 99 - - 1 - - - 1 - - - 1 - - - 1 - - - 1 -									
ダイサギ 1 5 1 - 7 - 144 コサギ 1 2 5 2 1 1 1 2 14 オオバン - 186 108 150 60 504 キアシシギ - 1 1 1 1 1 8 オカバン - 186 108 150 60 504 キアシシギ - 1 1 1 1 1 8 オラジョシギ - 13 29 55 92 ユリカモメ - 48 1 - 2 - 17 68 サラネコ - 1 1 9 5 1 - 16 セグロカモメ - 4 4 47 2 20 - 73 オオセグロカモメ - 1 1 9 5 1 - 16 セグロカモメ - 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1									
当									
オポシンギ									
キアシシギ - 1 - - 4 - 1 </td <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>14</td>		1				1	1	2	14
イソシギ - 6 8 4 18 キョウジョンギ 13 29 50 92 20 17 68 ウミネコ		-		108	150		-	60	504
キョウジョシギ - 13 29 - - 50 92 コリカモメ - 48 1 - 2 - 17 68 サミネコ - 1 9 5 1 - - 18 セグロカモメ - - 1 - - - 17 - - 17 - - 17 - - - 17 -		-			-	-	-	-	1
キョウジョシギ - 13 29 - - 50 92 コリカモメ - 48 1 - 2 - 17 68 サミネコ - 1 9 5 1 - - 18 セグロカモメ - - 1 - - - 17 - - 17 - - 17 - - - 17 -		-	6	8	-	-	4	-	18
□リカモメ - 48 1 - 2 - 17 68		-			-	-	-	50	92
ウミネコ - 1 9 5 1 - - 16 セグロカモメ - - 73 - - 73 - - 73 -							_		
セグロカモメ - 4 47 2 20 - 73 オオセグロカモメ - - 1 - - - 1 カアジサシ - - - - - - 1 カアメマツバメ -		_			5		_		
オオセグロカモメ									
コアジサシ 1 1 カモメSP									
カモメSP									
とグアマツバメ 7 - - - 8 - 15 ドバト - - - - 3 1 - 4 トピ 1 1 1 - - - - 3 オオタカ - <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>									
キジバト 7 - - - 8 - 15 ドバト - - - 3 1 - 4 まサゴ - - - - 2 - - 2 トピ 1 1 1 - - - - 3 オオタカ -		-	-	-	-	-	-	-	-
ドバト 3 1 - 4 2 サゴ 2 2 2 トピ 1 1 1 1 1 3 3 1 - 4 4 オオタカ 2 2 2 トピ 1 1 1 1 1 1									
まサゴ 2 - 2 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 2 - 3 3 オオタカ		7	-	-	-	-	8	-	15
トピ 1 1 1 1 3 3 オオタカ 3 3 オオタカ	ドバト	-	-	-	-	3	1	-	4
オオタカ	ミサゴ	-	-	-	-	2	-		2
オオタカ	トビ	1	1	1	-	-	-	-	3
カワセミ		-	_	-	_	-	_	-	
カワセミ - 1 - - - - 1 - <td></td> <td></td> <td>_</td> <td></td> <td>_</td> <td></td> <td>_</td> <td>_</td> <td></td>			_		_		_	_	
チョウゲンボウ - 1 - - 4 - 5 ハヤブサ -									
ハヤブサ									
モズ 3 4 - 7 オナガ 2 - 2 - 2 ハシボソガラス 14 - 10 18 - 42 ハシブトガラス 20 1 38 - 59 シジュウカラ 2 13 - 15 ヒバリ 4 28 - 32 ツバメ 28 - 32 ツバメ 11 - 1 ヒヨドリ 29 1 - 1 レヨドリ 29 27 60 - 116 ググイス 6 - 6 - 6 - 6 メジロ 22 - 22 22 セッカ 1 1 - 2 22 インドリグラマンション・カーン									
オナガ									
ハシボソガラス 14 - 10 - - 18 - 42 ハシブトガラス 20 - - - 1 38 - 59 シジュウカラ 2 - - - - 13 - 15 ヒバリ 4 - - - - 28 - 32 ツバメ - - - - - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - - - 1 - - - 6 - - - - -									
ハシブトガラス 20 1 388 - 59 シジュウカラ 2 13 - 15 ヒバリ 4 288 - 32 ツバメ 1 - 1 - 1 ヒヨドリ 29 27 60 - 116 ウグイス 6 - 6 メジロ 6 - 6 メジロ 1 - 22 - 22 セッカ 1 1 - 22 ムクドリ 73 - 1 61 - 135 ツグミ 4 16 - 20 ジョウビタキ 1 16 - 20 ジョウビタキ 1 10 - 23 ハクセキレイ 5 4 19 25 - 53 セグロセキレイ 5 4 19 25 - 53 セグロセキレイ 10 - 10 タヒバリ 12 - 16 ホオジロ 12 - 16 ホオジロ 12 - 15 オオジュリン 1 - 1 - 1 オオジュリン									
シジュウカラ 2 - - - 13 - 15 ヒバリ 4 - - - - 28 - 32 ツバメ - - - - - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - - - 6 - - 1 - - 1 - - 1 - - - 1 - - - - - - - - - - -									
ヒバリ 4 - - - - 32 ツバメ - - - - 1 - 1 ヒョドリ 29 - - - 27 60 - 116 ウグイス - - - - - 6 - 6 メジロ - - - - - 1 - 22 - 22 セッカ 1 - - - - 1 - 22 - 22 セッカ 1 - - - - 1 - 22 - 22 - 22 - 22 - 22 - 22 - 22 - 22 - 22 - 22 - 22 -			-	-	-			-	
ツバメ 1 - 1 - 1 ヒョドリ 29 27 60 - 116 ウグイス 6 - 6 メジロ 22 - 22 セッカ 1 1 - 2 ムクドリ 73 - 1 61 - 135 ツグミ 4 16 - 20 ジョウビタキ 1 1 - 1 - 2 イソヒョドリ 1 - 1 - 2 スズメ 2 201 - 203 ハクセキレイ 5 4 19 - 25 - 53 セグロセキレイ 10 - 10 カワラヒワ 4 12 - 16 ホオジロ 1 - 1 - 1 オオジュリン		2	-		-	-		-	15
ヒヨドリ 29 27 60 - 116 ウグイス 6 - 6 メジロ 22 - 22 セッカ 1 1 - 2 - 22 ムクドリ 73 - 1 1 - 1 - 2 ムクドリ 73 - 1 61 - 135 ツグミ 4 16 - 20 ジョウビタキ 1 16 - 20 イソヒヨドリ 10 - 203 ハクセキレイ 201 - 203 ハクセキレイ 25 - 53 セグロセキレイ 10 - 10 カワラヒワ 4 12 - 16 ホオジロ 2 - 2 - 2 アオジ 1 - 1 - 1 オオジュリン		4	-	-	-	-	28	-	32
ヒヨドリ 29 27 60 - 116 ウグイス 6 - 6 メジロ 22 - 22 セッカ 1 1 - 2 - 22 ムクドリ 73 - 1 1 - 1 - 2 ムクドリ 73 - 1 61 - 135 ツグミ 4 16 - 20 ジョウビタキ 1 16 - 20 イソヒヨドリ 10 - 203 ハクセキレイ 201 - 203 ハクセキレイ 25 - 53 セグロセキレイ 10 - 10 カワラヒワ 4 12 - 16 ホオジロ 2 - 2 - 2 アオジ 1 - 1 - 1 オオジュリン	ツバメ	-	-		-	-	1	_	1
ウグイス 6 - 6 メジロ 22 - 22 セッカ 1 1 - 1 - 2 ムクドリ 73 - 1 61 - 135 ツグミ 4 16 - 20 ジョウビタキ 1 1 - 1 - 2 イソヒヨドリ 1 - 201 - 203 ハクセキレイ 5 4 19 25 - 53 セグロセキレイ 10 - 10 カワラヒワ 4 12 - 16 ホオジロ 1 - 1 - 1 オオジュリン	ヒヨドリ	29	-	-	-	27	60	-	116
メジロ 22 - 22 セッカ 1 1 - 2 - 2 ムクドリ 73 - 1 61 - 135 ッグミ 4 16 - 20 ジョウビタキ 1 1 - 1 - 2 イソヒヨドリ 1 - 201 - 203 ハクセキレイ 5 4 19 25 - 53 セグロセキレイ 10 - 10 カワラヒワ 4 12 - 12 - 16 ホオジロ 1 - 1 - 1 オオジュリン			-	-	-			_	6
セッカ 1 - - - 1 - 2 ムクドリ 73 - 1 - - 61 - 135 ッグミ 4 - - - - 16 - 20 ジョウビタキ 1 - - - - 1 - 2 イソヒヨドリ -									
ムクドリ 73 - 1 - - 61 - 135 ツグミ 4 - - - - 16 - 20 ジョウビタキ 1 - - - - 1 - 2 イソヒヨドリ -									
ツグミ 4 - - - 16 - 20 ジョウビタキ 1 - - - 1 - 2 イソヒョドリ - </td <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>									
ジョウビタキ 1 - - - 1 - 2 イソヒョドリ -									
イソヒヨドリ -<									
スズメ 2 - - - 201 - 203 ハクセキレイ 5 4 19 - - 25 - 53 セグロセキレイ - - - - - 10 - 10 カワラヒワ 4 - - - - 12 - 16 ホオジロ - - - - - 2 - 2 アオジ - - - - - - - - - - オオジュリン - - - - - - - - - - -									
ハクセキレイ 5 4 19 - - 25 - 53 セグロセキレイ タヒバリ - - - - 10 - 10 カワラヒワ 4 - - - - 12 - 16 ホオジロ - - - - - 2 - 2 アオジ - - - - - - 1 - 1 オオジュリン - - - - - - - - -									
セグロセキレイ タヒバリ 10 - 10 カワラヒワ 4 12 - 16 ホオジロ 2 - 2 アオジ 1 - 1 オオジュリン					-				
タヒバリ - - - - 10 - 10 カワラヒワ 4 - - - - 12 - 16 ホオジロ - - - - - 2 - 2 アオジ - - - - - 1 - 1 オオジュリン - - - - - - - - -		5	4	19	-	-	25	-	53
カワラヒワ 4 - - - 12 - 16 ホオジロ - - - - 2 - 2 アオジ - - - - 1 - 1 オオジュリン - - - - - - -	セグロセキレイ								
カワラヒワ 4 - - - 12 - 16 ホオジロ - - - - 2 - 2 アオジ - - - - 1 - 1 オオジュリン - - - - - - -	タヒバリ	-	-	-	-	-	10	-	10
ホオジロ 2 - 2 アオジ 1 - 1 オオジュリン		4	-	-	_	-		-	16
アオジ - - - - 1 - 1 オオジュリン - - - - - - -			_		_	-		-	
オオジュリン									
	3 4 7 4 7 7	-				-	-	-	26 000

資-8

新砂貯木場鳥類数調査出現場所別集計表 (2016-2017)

種名↓・場所→	東側林	北側水路		枠内枠南	丞	北側構内	その他	合計
·			ተቸ - ተን፣			北則ભ		
オカヨシガモ	-	3	-	3	-	-	1	7
ヒドリガモ	-	59	22	-	-	-	93	174
マガモ	-	33	180	129	-	-	6	348
カルガモ	1	194	432	168	-	2	4	801
ハシビロガモ	-	2	-	-	-	-	-	2
オナガガモ		26	48	2	-	-	3	79
コガモ		657	111	16		-	120	904
ホシハジロ	-	5,395	672	5,394	_	_	137	11,598
キンクロハジロ	-	3,291	20	3,081	-	-	80	6,472
スズガモ	-	238	14			_	-	2,243
	-			1,991				
ミコアイサ		1	-	-	-	-	-	1
カイツブリ	-	-	-	-	-	-	-	-
カンムリカイツブリ	-	12	-	2	-	-	1	15
ハジロカイツブリ	-	6	-	-	-	-	-	6
カワウ	8,043	25	3,762	26	-	2	52	11,910
アオサギ	50	13	133	-	3	2	1	202
ダイサギ	3	3	12	_	3	_	-	21
コサギ	1	3	13	_	1	2	-	20
オオバン	2	229	56	181	<u> </u>	-	73	541
		223	- 30				-	J 4 1
キアシシギ		-		-		-		- 10
イソシギ	-	4	9	1	-	1	1	16
キョウジョシギ	-	-	-	-	-	-	-	-
ユリカモメ	-	-	22	1	19	-	334	376
ウミネコ	-	1	14	2	4	-	12	33
セグロカモメ	-	2	29	4	15	1	6	57
オオセグロカモメ	_	_	_	_	_	_	_	
コアジサシ	_	_	_	_		_	_	
カモメSP	-	_	_	_	_	_	_	
ヒメアマツバメ		-	-	-	-	1	-	1
キジバト	23	-	-	-	1	11	-	35
ドバト	-	-	-	-	20	10	-	30
ミサゴ	-	-	1	-	2	-	-	3
トビ	2	-	-	-	2	10	-	14
オオタカ	1	-	3	-	1	-	1	6
ノスリ	-	_	-	_		1	-	1
カワセミ	_	_	_	_	_	-	_	-
チョウゲンボウ	_	_	_	_		1	_	1
ハヤブサ								
	-	-	-	-	-	1	-	1
モズ	7	-	-	-	-	5	-	12
オナガ	15	-	-	-	-	9	-	24
ハシボソガラス	18	-	5	-	-	17		40
ハシブトガラス	15	-	-	-	-	93	-	108
シジュウカラ	6	-	-	-	-	10	-	16
ヒバリ	6	-	-	-	-	10	-	16
ツバメ	-	-	-	_	1	12	2	15
ヒヨドリ	117	_		_	<u> </u>	164	-	281
ウグイス	-					5	-	5
メジロ	1	-	-	-	-	19	-	20
セッカ	4	-	-	-	-	-	-	4
ムクドリ	4	-	1	-	-	39	2	46
ツグミ	4	-	-	-	-	14	-	18
ジョウビタキ	-	-	-	-	-	2	-	2
イソヒヨドリ		-	-	-	-	-	-	-
スズメ	7	-	-	_	-	40	-	47
ハクセキレイ	5	11	20	_		40	_	76
セグロセキレイ	-	-	- 20			1	-	1
	-					2	-	2
タヒバリ		-	-	-				
カワラヒワ	3	-	-	-	2	12	-	17
ホオジロ	-	-	-	-	-	-	-	-
アオジ	-	-	-	-	-	7	-	7
オオジュリン	-	-	-	-	-	-	-	
				<u> </u>		<u> </u>		36,675
								,

資-9

新砂貯木場鳥類数調査<u>水鳥</u>所在別集計表(2014-2015)

BA	2014/	/10/15							2014/	11/5						
	小雨、								量、 非							
気温		-10724							五、 1	7.234						
調査時間		00	~	10	:40				9:	05	~	10:	:45			
係留船舶			4内9							<u>*</u> 0、柞						
移動船舶		100	1170						0	100 1	11110					
調査者	荒川								相坦、	宮本	、荒川					
種名	東側林	北側水路	枠 · 杭	枠 内 枠 南	飛翔中	北側構内	その他	合計	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠 内 枠 南	飛翔中	北側構内	その他	合計
オカヨシガモ								0		2						2
ヒドリガモ								0								0
マガモ								0		7	3					20
カルガモ		3						3		2	9	2	2			15
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ								0								0
コガモ		38						38		57						57
ホシハジロ				218				218		188		148				336
キンクロハジロ				181				181		317		408	17			742
スズガモ								0				10				10
ミコアイサ								0								0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ								0								0
ハジロカイツブリ								0								0
カワウ	20	1	356					377	47		161					208
アオサギ	12	1	5					18	10		5					15
ダイサギ								0								0
コサギ							1	1								0
オオバン				18				18		9		5	5			19
キアシシギ								0								0
イソシギ		1		2				3	1							1
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ								0					1			1
ウミネコ			4		1			5					1			1
セグロカモメ					1			1			3					3
オオセグロカモメ			3					3								0
カモメSP					17			17					4			4
コアジサシ								0								0
注記事項	ジロに・カモ	よ識別	容易 よ恐ら	くセグ			羊れ水			JSPI: 方向に			ロカモ	きメの利	详れ、	運河

Вн	2014/	11/10							2014/	12/3						
		北風	強し、							北風	治し、					
気温		4L/3%	」玉 U ·						IV#1	46 /AK	」宝 U ·					
調査時間		08	~	10:	50				Q.	15	~	10	:40			
係留船舶				10.	.50					<u>10</u> 10、粒			.+0			
移動船舶				その行	4.很开	!			0	10. 1-	+ 1 1 1 0	1				
					及区口											
調査者	稲垣、	宮本	、荒川						大原、	荒川			1		T	
種名	東側林	北側水	枠 • 杭	枠 内 枠	飛翔中	北側構	そ の 他	合 計	東側林	北側水	枠 • 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構	その他	合 計
		路	170	南	'	内				路	170	南		内		
オカヨシガモ		4						4		1						1
ヒドリガモ		4						4		31						31
マガモ		10	5				2	17		4	3					23
カルガモ		2	2	1				5		2	4	1				7
ハシビロガモ		1						1								0
オナガガモ								0								0
コガモ		100						100		33	1				2	36
ホシハジロ		7		69			1	77		19		84			111	214
キンクロハジロ		92		778				870		78		645				723
スズガモ				207				207				313				313
ミコアイサ								0								0
カイツブリ				1				1								0
カンムリカイツブリ								0								0
ハジロカイツブリ								0								0
カワウ	105	1	150	4				260	44	2	147	2				195
アオサギ			11		1		2	14		4	10					14
ダイサギ								0								0
コサギ								0								0
オオバン		5		15				20			6	20				26
キアシシギ								0								0
イソシギ				1				1								0
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ								0								0
ウミネコ								0								0
セグロカモメ			2					2			2					2
オオセグロカモメ								0								0
カモメSP								0								0
コアジサシ								0								0
									・その	他の:	コガモ	は、運	河	1		Ť
注記事項									• ~ ()	·他の	トンハ	(V)	4.連ぶ	可の対	干 〜	2
L							11									

月日	2014/	12/24							2015/	1/7						
	晴、		IJ							寺晴、	北風强	能い				
気温																
調査時間			~	10:	50				9:	06	~	10:	:58			
係留船舶		卟0、 柞	华内10						枠北タ	外0、 核	华内8					
移動船舶	1								0							
調査者	佐々、	荒川							荒川							
	_	北		枠		北	_			北		枠	_	北	_	
種名	東側林	側水路	枠 ・ 杭	:内枠南	飛 翔 中	側構内	その他	合計	東側林	側水路	枠 • 杭	:内枠南	飛翔 中	側構内	その他	合計
オカヨシガモ								0							4	4
ヒドリガモ				6			8	14		5		18			27	50
マガモ			6	59				65		13		20			4	37
カルガモ		6	43	3				52		6	16	3			2	27
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ				29				29		2						2
コガモ		21		40.4			2	23		43	2					45
ホシハジロ		40		134			24	198		345	8				_	701
キンクロハジロ		208		639			9	856		808		175			2	985
スズガモ				598				598				382				382
ミコアイサ カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ								0								0
ハジロカイツブリ								0		1						1
カワウ	302	1	25					328	240	4	9		5			258
アオサギ	302	J	<u>5</u>					9	240	10	9		5			10
ダイサギ	-							0		10						0
コサギ								0								0
オオバン		8		21			4	33		8		18			5	31
キアシシギ		Ť					·	0							Ŭ	0
イソシギ			1					1								0
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ								0								0
ウミネコ								0								0
セグロカモメ		1	1					2								0
オオセグロカモメ								0					1			1
カモメSP								0								0
コアジサシ								0								0
注記事項	∙調査		時にス	\ズガ `	モが30		西臨海こ含む		枠にアが、そオ東カるかけでオ州のオかりとか	のもたけび他セラウまが2位が方、できないがった。	は、よち軍コ向風い所で、金地のでは、各河で、の地のでは、大きののでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、	のコー て他)メ飛強、れこカー 北に対はんい営んとも (假散岸成でた巣らま)	の制つ。鳥いの状人が、場で、鳥いの態見が、 はてい はんがい はんがい はんがい ほんかい しょう かいじん	ど 下ま 化。林まるが、水 一説	誤れるととたたたたたたたたたたたたたたたたとたととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととととと </td <td>よう た 空を うに</td>	よう た 空を うに

	2015/	1/21							2015/	2/4						
	みぞれ		北風	あり						<u>-/-</u> 比風あ	IJ					
気温		· = ·	70/20	<i>u,</i> ,					rH (7	ری پیدر ت						
調査時間		05	~	10:	35				9.	00	~	11	:00			
係留船舶			₽内6							<u>*</u> 0、柞	4内6					
移動船舶		100 1	1170						0	100 1	1110					
調査者	大原、	荒川				ı			荒川					1	1	
種名	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠 内 枠 南	飛 翔 中	北側構内	その他	合計	東 側 林	北側水路	枠 · 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	その他	合計
オカヨシガモ								0		3						3
ヒドリガモ		54		11				65		41		22				63
マガモ		19		18				37		4		18				22
カルガモ		7		8				15		2	25	33				60
ハシビロガモ		5						5		2						2
オナガガモ								0		30	3	29				62
コガモ		33		1				34		33		6				39
ホシハジロ		439	13	81				533		439	30	180				649
キンクロハジロ		453		216			5			626		267				893
スズガモ				87				87		7		524				531
ミコアイサ								0								0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ								0								0
ハジロカイツブリ				1				1		2						2
カワウ	389	5	3					397	487		2	1				490
アオサギ			5					5			4					4
ダイサギ								0								0
コサギ								0								0
オオバン		6		17				23		15		16				31
キアシシギ								0								0
イソシギ								0								0
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ								0								0
ウミネコ								0								0
セグロカモメ				2				2				2				2
オオセグロカモメ								0								0
カモメSP								0								0
コアジサシ								0								0
注記事項	· その	他は	軍河の)対岸	(南側				続 ・ 運 ・ だ 、 他 の に の に の に の に の に の に の の に る に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 に 。 に る 。 に 。 る 。 に 。 。 に 。 。 に 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	て二つ 削(西(しはキ: 他の がモに 群れに 別の防:	東側は対したのでは、東側がは、カットのでは、東がは、カットのでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京の東京のでは、東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東	かられたジェストルの別ではいい。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	来しまるかけたいまる体		着水におりで ていた でいが。 かんた	した 沙町 : 主流 . 一部

月日	2015/	/2/18							2015/	3/4						
·		北風	強い								かで気	温暖	か、			
気温																
調査時間	9:	00	~	11	:00				9:	10	~	10:	:35			
係留船舶	枠北タ	外0、 科	华内5						枠北タ	小0、 柞	华内6-	→7				
移動船舶	0								1							
調査者	# III								十百	荒川						
	ボハ					ı			八尔、					I	ı	1
	東	北 側	枠	枠 内	飛	北側	そ	合	東	北 側	枠	枠 内	飛	北側	そ	合
種名	側	水	•	枠	翔	構	の	計	側	水		枠	翔	構	の	計
	林	路	杭	南	中	内	他		林	路	杭	南	中	内	他	
オカヨシガモ								0								0
ヒドリガモ		19						19								0
マガモ		9	1	11				21	1	8	3					12
カルガモ		4	4	13				21		2	13				1	
ハシビロガモ								0				Ŭ				0
オナガガモ		2						2		1						1
コガモ		23		3		H		26		4	7					11
ホシハジロ		465	3				50	550		90	45	50			3	
キンクロハジロ		845		46			5	896		608	1	182			Ŭ	791
スズガモ		5-75	1					683		9		54				63
ミコアイサ				002				000				57				0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ						\vdash		0							\vdash	0
ハジロカイツブリ		1		1				2								0
カワウ	374	3	1	2				380	539	1	2					542
アオサギ	1	5	- 1					6	2	4	2					8
ダイサギ	'	5						0		4						0
コサギ								0								0
オオバン		20		10				30		19	10	36			3	
キアシシギ		20		10				0		19	10	30			3	00
イソシギ								0								0
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ								0								0
ウミネコ			1					1								0
セグロカモメ			- 1		1			<u> </u> 1					1			1
オオセグロカモメ					ı			0					- 1			0
カモメSP																0
** =: =:								0								
コアジサシ	- 7-0	M 1+ 1	ور السائر والالسائر	関する	声出/	左日:□ □□ ↓	旦託の	 0		カル・	<u></u>	とオオ	- , ," >	(十)軍::	<u> </u>	0 ≝./±
	・その 岸)	プロスイ	沙미克	≧刈(/)	判[年(缸 川	易所の	Χ·J	近に			<i>C</i> √7	ハン	は建り	うなびを	年1寸
		゚ロカ∓	ニメリナド	中木堰	上空	を旋に	回する。	トラニ				頁、す ⁻	でにい	くつも	ነውለ	.難の
		でいた		11 11-19	, <u>.</u>	ᆣᄱᄄᅜ	- 7 WC	, JIC	-			点、y 羽して(\ J /.	, 02,1,	THT U
	[/-										切れ		が見	えるよ	うに
												形び立				
									•通常	3多く0	カモ	が休ん	っでい	る北側	側の堤	防海
												サギレ				
											-	の部分				
注記市语												態では				
注記事項	/	- ₹ 188	L, > ~	# ±\								東側に				
		の欄/			-JV 日日 い	4 □ +	う向)の	ᅡᅄ				と運河				
							可のた。					ク チ 頂 浮いで				
							、フルー。 客ち着		_			い印象				
		大況下						_ 0,	-			に船か				
							るが、	暖か	-			が飛び			<u>★左</u>	
	くなり	つつま	5る気	候の剝	影響や		一の		に続く							
	も関係	系ある	のかと	ごうか。	o											

月日	2015/	/3/18							2015/	4/1						
天気	晴、往	微風あ	り、暖	量か					曇、							
気温																
調査時間	9:	00	~	11:	:00				9:	00	~	10:	:40			
係留船舶	枠北久	外0、 柞	华内1						枠北タ	小0、 柞	华内2					
移動船舶	1								0							
調査者	芸川								荒川							
	וילטונ			14					וילטונ			14		l	l	
種名	東側林	北側水路	枠 · 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	その他	合計	東 側 林	北側水路	枠 · 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	そ の 他	合計
オカヨシガモ							4	4								0
ヒドリガモ		11	3				6	20			10	1			1	12
マガモ		1	10				1	12				3				3
カルガモ		1	8					9		3			3			6
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ								0								0
コガモ		22	2				4	28			2				2	4
ホシハジロ		132	29	274			34	469		28	11	25			8	72
キンクロハジロ		614		346			19	979		190		198			23	411
スズガモ		6		581				587				445				445
ミコアイサ								0								0
カイツブリ	1							0								0
カンムリカイツブリ	1							0								0
ハジロカイツブリ								0								0
カワウ	695	8	20	2			3	728	786	1	31	2			1	821
アオサギ	1		1					2			5		2			7
ダイサギ								0								0
コサギ								0								0
オオバン		9	2	17			10	38		18	1	6			3	28
キアシシギ		Ť						0			-					0
イソシギ								0								0
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ		1					23	24								0
ウミネコ								0			4					
セグロカモメ			3		1		1	5								4 0
オオセグロカモメ			1					1								0
カモメSP								0								0
コアジサシ								0								0
	•カワ	ウは-	一部離	が孵っ	ってい	る様∃	子。林,)	・その	他は	カワウ	が運	可にい	たが	マカ.	
注記事項	河な。 ・その モメ类	ど水は、適のでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	が 、カモ 河に。	复飛翔 類、才	など! オバン	動きが ノは運	活発。河対原	。 岸、力	はカザ・にえ・印・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	て類にのなくなったのである。カーとのできます。	Jの対別 明ら 類 サッシャ カッシャ カップ カップ かっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっ	3岸に	則)よなででである。 まない さんしょう かいこう かいこう かいこう	リにい くなっ ていた でかない スよりが あっ 西方	たもの た印拿 :2月~ いよう! かなり	。 えを ・3月 こ思 多い

80	2015/	1/15						
	快晴、							
気温 気温	IV #1 V	1年 0 -	十] /二(
調査時間	9:0	20	~	10:	30			
係留船舶			5内1		.00			
移動船舶		100						
調査者	荒川							
種名	東 側 林	北側水路	枠 • 杭	枠 内 枠 南	飛翔中	北側構内	そ の 他	合 計
オカヨシガモ								0
ヒドリガモ								0
マガモ								0
カルガモ			3					3
ハシビロガモ								0
オナガガモ								0
コガモ		15						15
ホシハジロ		3	1	6				10
キンクロハジロ		7		189				196
スズガモ				134				134
ミコアイサ								0
カイツブリ								0
カンムリカイツブリ								0
ハジロカイツブリ								0
カワウ	588	2	5				9	604
アオサギ	300						9	004
ダイサギ					1			1
					- 1			
コサギ				40				0
オオバン		8		19			5	32
キアシシギ								0
イソシギ								0
キョウジョシギ								0
ユリカモメ								0
ウミネコ				5				5
セグロカモメ			4					4
オオセグロカモメ								0
カモメSP								0
コアジサシ								0
注記事項	バ飛んでいたがないがないが	は運河のいったいけんいと推	「の対 ダイサ た。 可 島 き も も も れ	岸(南(・ギはī り数か ・餌をん いる。(着	則)より 南側 ・減りに 観察	川にいたいらればしていた。 となれがいた。 とこれがいた。	、そものたいるためにいるたりであった。それのからないというできます。	。 いって ヒナ では

新砂貯木場鳥類数調査**水鳥**所在別集計表(2015-2016)

Вн	2015/	0/16							2015/	/10/7						
	曇北徘										の影響	『で北』	国路口	<u> </u>		
気温	芸化儿	以瓜							気温2		リノボノ言	T C 167	弘 J虫 U			
調査時間	0.	05	~	10:	·05					.00支 00	~	10	:30			
係留船舶				10	.03								.50			
移動船舶		ru, 1	+130							<u>外0、</u>	作的	<u>, </u>				
									0							
調査者	荒川								荒川							
		北	14	枠	_	北	_			北	14	枠	-	北	_	
種名	東側林	側水路	枠 • 杭	: 内 枠 南	飛翔中	側 構内	そ の 他	合 計	東側林	側水路	枠 • 杭	: 内 枠 南	飛翔中	側構内	その他	合 計
オカヨシガモ								0								0
ヒドリガモ								0								0
マガモ								0								0
カルガモ		14	24	1	1			40		7	33	8				48
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ								0								0
コガモ		2						2		16	3	2				21
ホシハジロ			4	2				6				29				29
キンクロハジロ				3				3		4		24				28
スズガモ				2				2								0
ミコアイサ								0								0
カイツブリ				1				1								0
カンムリカイツブリ								0								0
ハジロカイツブリ								0								0
カワウ	10		188	2							116	1				117
	19							209	_		116	ı				
アオサギ	8		3					11	2		8					10
ダイサギ								0								0
コサギ			2					2			2					2
オオバン								0				1				1
キアシシギ								0								0
イソシギ								0		1				1		2
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ								0								0
ウミネコ			4					4								0
セグロカモメ			2					2			11					11
オオセグロカモメ								0								0
コアジサシ								0								0
カモメSP								0								0
	•カ エ	はカリ	レガモ	を除き	オスロ	はエク	リプス	·	- 観泪	∥場所	の草に	上川 に	れてし	いた。な	ブラン	
	・イソ・してし	シギは いた	は北側	水路を	東か	ら西フ	から 棚上に	飛翔	南下1	に当た の作 下の概	:る部: 業員 <i>t</i>	分を草 が堤防	IJし で休	ていた。 ないた 憩して ガモが	。 いたた	-め、
注記事項		場所	は、草	が深く	〈茂っ ⁻	ていた	:		・カワ が強: ・カモ	ウは かった	:のと えてき:	目係が	あるか	まって かどうだ 、スズ	か不り	月。
江山 事快																

月日	2015/	10/21							2015/	11/4						
	曇、耳		の国品	à L. Y						<u>- 177</u> 西よ	りの国	まあり				
	2 0°		U / JEN 15	<u> </u>					1 8°		-) U) /S	W (V) -7				
調査時間		10	~	11:	.05					05	~	11	:25			
係留船舶					.00					<u></u> 外0、			.20			
移動船舶		<u> </u>	TT M	<u>, </u>					ひ 1年れ	<u> </u>	TT PY	<u>, </u>				
調査者	荒川								荒川							
	_	北	+ ±.	枠	-TK	北	7.		+	北	枠	枠	₹K	北	7.	
種名	東 側 林	側 水 路	枠 • 杭	内 枠 南	飛翔中	側 構 内	その他	合計	東側林	側 水 路	杭	内 枠 南	飛翔中	側 構 内	その他	合 計
オカヨシガモ								0								0
ヒドリガモ								0		7						7
マガモ			5	5				10			4					4
カルガモ		5	35					40			16					16
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ				8				8			2					2
コガモ		34	2	2				38		50	2	3				55
ホシハジロ		34		164			1	167		51	95			1		296
キンクロハジロ		21		448				469		205	1					775
スズガモ		<u> </u>		19				19		200	ı	148				148
ミコアイサ				19				0				140				0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ								0								0
ハジロカイツブリ		1						1								0
カワウ	46	736						782	24	4	398	1				427
アオサギ	16		5					21	15		15					30
ダイサギ		1	1		3			5		4						4
コサギ			2					2		1				1		2
オオバン		17	18					35		25	15	17				57
キアシシギ								0								0
イソシギ		1	1					2		2				1		3
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ								0								0
ウミネコ					1			1								0
セグロカモメ			11					11			5					5
オオセグロカモメ								0								0
コアジサシ								0								0
カモメSP								0								0
注記事項	カた東側に北北・北川の北北・北川の北川の北川の北川の北川の北川の北川の北川の北川の北川の北川の北川の北川の北	頁がい :りの月 にいた はい風	た。- 風が強 :群れ: を避け のカル	・部は くなっ が、枠 いがも いがモ	運河に てくる 内ので かの行	こ張り と、北 南東部 「動と!	 ルー: 出 側水に 別分に れに 3羽に	プい あの ある。						L より5r が浮い		北東

月日	2015/	/11/18							2015/	12/2						
	晴、徘									<u>·, -</u> 比風有						
	20.5°								11.5°							
調査時間		05	~	11:	:05					00	~	10	:55			
係留船舶			枠内(枠内(
移動船舶	0	7100	111.3						0	7100	111.1					
										<u></u>						
調査者	氘川						T	Т	荒川河	+-			1	1	T	
	東	北 側	枠	枠 内	飛翔	北側	そ	合	東	北 側	枠	枠 内	飛	北側	そ	合
種名	側	水		枠		構	の	計	側	水		枠	翔	構	の	計
	林	路	杭	南	中	内	他		林	路	杭	南	中	内	他	
オカヨシガモ								0							4	4
ヒドリガモ		19						19							16	16
マガモ		9	6	1				16			7	7				14
カルガモ		1	19					20			29	3				32
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ			1	3				4			1	7				8
コガモ		75	3					82		117						117
ホシハジロ		19	85					147		171	15	148			31	365
キンクロハジロ		61		616				677		171	1				3	484
スズガモ				366				366		1		155				156
ミコアイサ								0								0
カイツブリ				1				1								0
カンムリカイツブリ								0			1					1
ハジロカイツブリ								0			1					1
カワウ	101		434	6				541	228		244					472
アオサギ	6		18					24	1		22					23
ダイサギ								0								0
コサギ								0	1							1
オオバン		5	13	10				28		17	2	9			12	40
キアシシギ								0								0
イソシギ		1	2			1		4								0
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ								0								0
ウミネコ			1					1								0
セグロカモメ			4					4			4					4
オオセグロカモメ								0								0
コアジサシ								0								0
カモメSP								0								0
	·北俱	構内	東部ス	くラッシ	ブプラ:	ント寄	りで、	幾動						枠内で	は北	、ま
	草刈					分に力			たは:	北東に	ニ群れ	が偏り	J			
	い)													くら		
														まっ		-
									• 6	の他に	、連	河でス	K广门名	り南	則	
注記事項																

月日	2015/	12/16							2015/	12/24						
	晴、徘		暖か							故風→	やや硝	i b				
	14°C-									C-13°C		-				
調査時間		00	~	11:	:15						~	11:	:10			
係留船舶		外0.	枠内()					枠北	外0、	枠内()				
移動船舶		,,,,	111.3						0	,,-,	111.3					
調査者	流川 こうしょう					1			荒川					ı	ı	1
種名	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠 内 枠 南	飛翔中	北側構内	その他	合計	東 側 林	北側水路	枠 • 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	そ の 他	合計
オカヨシガモ		1						1		1		4				5
ヒドリガモ		22	5					27		13						13
マガモ			41					41		1	6	2				9
カルガモ			24	1				25			13	3				16
ハシビロガモ		1						1								0
オナガガモ		11	1					12							2	
コガモ		100						100		39	2	15			8	
ホシハジロ		211	14	99			30	354		130	65				4	242
キンクロハジロ		243		137			- 50	380		301	2				l '	383
スズガモ		2		99				101		19		115				134
ミコアイサ				- 50				0								0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ								0		2						2
ハジロカイツブリ								0		1						1
カワウ	116	6	66					188	157	8	33	2			2	202
アオサギ	110	1	20					21	137	0	12					13
ダイサギ		- 1	20					0	- 1		12		1			1
コサギ								0		1			- 1			1
オオバン		11		26				37		3	3	3				9
キアシシギ		11		20				0		<u> </u>	<u>ა</u>	<u> </u>				0
イソシギ						1		1								0
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ					2		3	5							12	
ウミネコ			1				3								12	
セグロカモメ		1	- '		1			1 2			1		2			3
オオセグロカモメ		- 1	1					<u>_</u> 1			ı					0
コアジサシ								0								0
コアンサン カモメSP								0								0
ルエンクト	. += m+	<u></u>	西加力	ノ抽+ノ	⊢7ľ	<u> </u>	下記に	•	.「ユ·	の他」i	十二字	:តា			<u> </u>	U
注記事項	始中枠・シ影少・飛当潮の町が見なの判	初は記される。その後で多い。その後で多い。そので多いである。 という はいかい 他中の かんしん かいしん かいしょう しょう かいしょう かいしょく かいしょく かいしょく かいしょく かいしょく かいり かいしょく かいしょ かいしん かいしょく かいしょ	水して	ていたれたのといたが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これ	。(地で こういか らまかん 大き はんかん しょう まんり まんり まんり まんり きょう きょう きょう きょう きょう きょう きょう きょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう し	i潮9:(たマガ たマガ きなか の上に 或に水)5、 iモが プレー こ人 鳥が	•「飛	が 期中」。 (は1羽	のダイ	′サギ1			へ、セ	グロ
							00									

月日	2016/	1/6							2016/	/1/20						
	薄曇、		ややお	5 l)						四風や	や強し	,				
	10°C-									-6.5°C						
調査時間			~	10	:50					05	~	11:	:00			
係留船舶			热内(热内(0枠南				
移動船舶		7100	17 17 30						0	7100	17 1 1	<u> </u>	101			
調査者	荒川							1	荒川				1			
	東	北	枠	枠	飛	北	そ		東	北	枠	枠	飛	北	そ	1
種名	側	側	117	内	翔	側#	0	合計	側	側	•	内	翔	側##	o o	合計
	林	水路	杭	枠 南	中	構内	他	āT	林	水路	杭	枠 南	中	構内	他	āΤ
++ >>.+*+				11.2			2	4		РН		11.2				
オカヨシガモ ヒドリガモ		2						4			4					0 1
マガモ		4 7		_			14	18			1					
		5	5	3				15		2	3					5 17
カルガモ		5	18	12				35		1	16					
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ		2	1					6								0
コガモ		15	1			<u> </u>	13	29		16	1			ļ		17
ホシハジロ		123	9				31	261		49	57	78			35	
キンクロハジロ		189	1				3	263		40	2	22			39	
スズガモ		2	1	135				138		1		16				17
ミコアイサ								0								0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ								0								0
ハジロカイツブリ		1						1								0
カワウ	320		10					330	296		19					315
アオサギ			9					9		5	10		1			16
ダイサギ								0	1							1
コサギ			1					1								0
オオバン		12		15			16	43			14	11			3	28
キアシシギ								0								0
イソシギ								0			1					1
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ		2					2	4								0
ウミネコ								0								0
セグロカモメ		1	2					3					2			2
オオセグロカモメ								0								0
コアジサシ								0								0
カモメSP								0								0
77 27 01	• な <i>た</i>	· / = 80 :	主して 会	候だ	がヵ	上 類 (L D数は)		ī I∓Ω	関係で	ご珍しく	は出い	田園っ	であっ	•
		て少な		(I)X/	/3 /3		7 93,10	шіс				が強か				
			-	エアノ	ヽイパ	ーレス	(キュ-	-隊				ていが				
							、,一 比較的					ると、ii				-
							び立っ					息が南				
	た。					,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			-			オサキ				
		の他」	はユリ	カモメ	は運	河で、	それじ	人外				られた		,		
							ヒドリ					示した		対岸の	奥に	も多
	および	バホシ	ハジロ	1の多	くは北	側水	路の棚	別こい	数の	水鳥σ	集結	が見ら	られた	が、強	い逆:	光風
;÷=□ ★ - ∓							ものな				で波が	が大き	く、正	確な同	司定は	困難
注記事項	が、^	・リコフ	゚゚ター(の音に	驚い	て移重	カしたも	。 の。	であっ							
												対が少		-		,
									-	-		は特に	-			
									-			はよりは				かキ
									ンクロ	ハシ	ロはと	偏った	こり家	はなし	, \ ₀	
<u></u>	<u> </u>								<u> </u>							

月日	2016/	2/3							2016/	/2/24						
		ヹ ん 比風あ	IJ							 比風強	い					
	5°C-6								7°C-6							
調査時間		03	~	11	:03					00	~	10:	:57			
係留船舶			枠内(枠内(_			
移動船舶		7100	1113						0	7100	1113					
調査者	荒川				ı	1			荒川	1				1	ı	-
	東	北	枠	枠	飛	北	そ		東	北	枠	枠	飛	北	そ	
種名	側	側水		内 枠	翔	側 構	Ď	合計	側	側 水	-	内 枠	翔	側 構	Ö	合計
	林	水路	杭	南	中	内内	他	āl	林	路	杭	南	中	内内	他	ĒΙ
オカヨシガモ								0							2	2
ヒドリガモ		14						14		15					14	29
マガモ			32					36		14	2	4			6	26
カルガモ		4 8						47		4	18				2	38
ハシビロガモ		0	39							4	10	14				
								0								0
オナガガモ		5						5		40						0
コガモ		62	1					63		43					29	72
ホシハジロ		424	84					573		338	12	22			9	381
キンクロハジロ		491		46				537		549	9	32			4	594
スズガモ		14		103				117								0
ミコアイサ								0								0
カイツブリ		1						1								0
カンムリカイツブリ								0		1						1
ハジロカイツブリ								0								0
カワウ	516	1	3					520	536	3	1					540
アオサギ	2		11					13		5						5
ダイサギ								0								0
コサギ								0								0
オオバン		19	5	8				32		12		17			9	38
キアシシギ								0								0
イソシギ		1						1								0
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ		20						20			1					1
ウミネコ								0								0
セグロカモメ			1					1			3					3
オオセグロカモメ								0								0
コアジサシ								0								0
カモメSP								0	_							0
77 27 01	⋅北區	1が時:	折われ	5強く[ケレング	1.11-1	L が、枠			が強	(名(/	上海1-	北側	w 敃(*)
							、この							い近くか		
	_	集中度				VPH IO	(_ 0)	_						こいるも		
						が多く	見られ	Lt=。						短時間		
							立った		なかっ				J — 1,	<u></u>	, , , , , ,	,_,
		ハジ									ハジロ(ま、感	覚的(こは98	3%程	きが
						•	Ü		-	-				、 オス(
									受け	られた						
									・その	他は:	対岸卵	型と運	可(コ:	ガモ27	、マガ	` モ 4、
भे≑ाकं क												ヨシガ				
注記事項														行船		
										に思	われる	(工事	監視	船が-	一隻い	たの
									み)		· /	۰. ۵	4		L 18	
														であっ		
									 もの	かイン	ノルゴ	-ノサ(ハフこめ	51週間	訓順姓	した
									לטים							
									<u> </u>							

月日	2016/	/3/2							2016/	/3/16						
		北寄	りの風	しあり						以,以 比風有	IJ					
気温			,,							— 13.5						
調査時間		00	~	11:	:05					00	~	11:	:25			
係留船舶			热内(外0、	热内(
移動船舶		7100	1111						0	7100	17 1 1					
調査者	荒川							1	荒川				1			
	東	北	枠	枠	飛	北	そ		東	北	枠	枠	飛	北	そ	
種名	側	側	1+	内	翔	側##	0	合	側	側	1+	内	翔	側##	o o	合
	林	水路	杭	枠 南	中	構内	他	計	林	水路	杭	枠 南	中	構内	他	計
<u> </u>		ш		1773		F 3		_						P 3		
オカヨシガモ		_						0		1	_	1			2	4
ヒドリガモ		8						8			2					2
マガモ		7	25					32		1	10					11
カルガモ		37	34					71		2	14	2			2	20
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ		5						5								0
コガモ		73	2				3	78		51	3				2	56
ホシハジロ		245	141	54				440		42	264	68			13	387
キンクロハジロ		601	5	236				842		384	16	507			5	912
スズガモ		5		75				80		6		513				519
ミコアイサ								0								0
カイツブリ								0		1						1
カンムリカイツブリ		1					1	2		1		1				2
ハジロカイツブリ		1					'	1		- '						0
カワウ	406		10	2							10	2				
	496	1	10					509		9						779
アオサギ			5					5			3					4
ダイサギ								0								0
コサギ								0								0
オオバン		53	4	10				67		7	27	14			17	65
キアシシギ								0								0
イソシギ			1					1			1					1
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ		5						5		21						21
ウミネコ								0								0
セグロカモメ			1					1		1			4			5
オオセグロカモメ								0								0
コアジサシ								0								0
カモメSP								0	_							0
77 67-01		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	100 	フ がき		· タか・	 った。=			ltt o	力口亡	1-1+	ちること	1±.(\).	るが、	•
		ハジロ					J1_0 -	ト フ							るか、 こうに見	
		.フロ)他は			_/0_	0			る。	, 12 . ALT		. 0 . 0 .		v o o	·) (-)	5/د
	()	. ۱۵ تار	Œ/~] ^	3 / T 0						クロノ	いじロ	ナオス	が圧	倒的(:	こ多い	が
															ホシィ	
															り数が	
									た。	1,10			0,0	0. 7.	2 32.10	•
										モはゝ	ノスが	多く見	えた。			
)対岸				
														の小さ	な群	れで
注記事項															したもの	
									ある。							
1									•							

月日	2016/	4/6							2016/	4/20						
	晴、阿		や強し	١							らやも	b強め(の風に			
	15.5°		-							C~16		-				
調査時間			~	10	:45						~	10:	:28			
係留船舶		外0.	枠内()					枠北	外0、	枠内()				
移動船舶	0	,,,,	111.						0	,,,,	1113	<u>- </u>				
調査者	流川 こうしょう					l	1		荒川					1	1	ı
種名	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	その他	合計	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠内枠南	飛 翔 中	北側構内	その他	合計
オカヨシガモ								0								0
ヒドリガモ		1	1				4	6		2						2
マガモ			2	2			1	5								0
カルガモ			7	6			·	13		6	2					8
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ								0								0
コガモ		20	2	3			4	29		23		1				24
ホシハジロ		20	3				-	11		23	1	'			1	24
キンクロハジロ		146		254			10	410		90	1	46			2	
スズガモ		140	1				10	491		90	- 1	318			-	318
ミコアイサ				490				0				310				0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ																
								0								0
ハジロカイツブリ	700	4.4	00					0	744	40		_				0
カワウ	732	11	36	5			1	785	744	12	68	5				829
アオサギ	3		1					4								0
ダイサギ								0								0
コサギ								0								0
オオバン		5	7	9			2	23								0
キアシシギ								0								0
イソシギ			1					1								0
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ								0								0
ウミネコ			4					4				1				1
セグロカモメ			1		2			3					1			1
オオセグロカモメ								0								0
コアジサシ								0								0
カモメSP								0								0
注記事項	・キン どの! いた。 の理	クロ/ 単位で 運河 由の-	、比較	. コガラ 対的活 テが比 挙げら	Eなど 発に和 較的 れよ	数羽が 多動を 多かっ う。	から20 繰り返 たこと れた。	えして	はり、そセはい北盛カられてからがあります。	スだいいないというできます。これがだけ、これでは、これでいるというできます。	かが運は空のり巣親がったの変河は空のサールはあります。		今い岩東、 うをなった。 ラロる 方は	は	も は な 翔、「 ば ま は ば ま ば ま ば ま ば ま は ば れ る に は は れ る に は る は る は る は る は る は る は る は る は る	数たさる 可数
	•								-							

月日	2016/	5/11							2016/5	/25						-
	晴、引		風.						曇、南		L.					
気温	25°C ∕	~26.5	°C						22.5°C							
調査時間			~	10	:30				9:0		~	10	:20			
係留船舶	枠北	外0、	枠内()					枠北久	小0、	枠内()				
移動船舶		•							0							
調査者									荒川							
10月五日	וילטול	п.		14		115			וילטול		<u> </u>		l .	l "	l .	
種名	東 側 林	北側水路	枠 · 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	その他	合 計	東 側 林	北側水路	枠 • 杭	枠 内 枠 南	飛翔 中	北側構内	そ の 他	合 計
オカヨシガモ								0								0
ヒドリガモ								0								0
マガモ								0								0
カルガモ		1	6					7			5					5
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ								0								0
コガモ								0								0
ホシハジロ			1					1			1		l			1
キンクロハジロ		1						1		3						3
スズガモ								0		Ť						0
ミコアイサ								0								0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ								0					\vdash			0
ハジロカイツブリ								0				\vdash	\vdash		 	0
カワウ	996	3	96	2				1097	1022	8	213	1	-		-	1244
アオサギ	2		1					3	1022	- 0	1	<u> </u>				2
ダイサギ			- 1		2			2	- 1		<u>'</u>		1			1
コサギ							2	2					1			1
オオバン							1	1					'			0
		4					ı									0
キアシシギ		1	4					1								
イソシギ		40	1					1								0
キョウジョシギ		13	29				50	92								0
ユリカモメ ウミネコ			4					0		1	_					0
		4	1					1		1	2					3
セグロカモメ		1	3		8			12								0
オオセグロカモメ								0								0
コアジサシ			1					1				<u> </u>	<u> </u>			0
カモメSP	·	18 ~	+ /n	·	1. ,			0		<u> </u>	. >> =	<u> </u>		11.4	<u> </u>	0
注記事項	使調している。おきないでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	こ工事にいいて、単れたり、これのでは	を時がは、ダ南セとになる。	いた。だは、ないには、ないでは、ないでは、 ないできる できる できる かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう	。 卆の下 出した	段は。 。北側 では 羽は東 運河の	ほとがますでは 方向	んど 水 水 は よ な 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	・カワ ^r 巣に何 ナが枓 一方ま	ウのst 「羽も ぱのよ だれ 河の	多くは1 みられ など1 1卵中2	ニナも こるもの こ休ん なのか	大きく のがあ でいる いと思	成長し 5った。 る姿も われる	、一· 巣立 あった 姿も	つの こったヒ こ。

新砂貯木場鳥類数調查**水鳥**所在別集計表(2016-2017)

天気	2016	3/1														
		主托	暴 <i>/</i>	小雨温	LI ī	女国 —	- 時的に	- 34	2016/ 墨 +		や強し	`				
1 気温	27°C	у <u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,</u>	去、 ′	1 . 144 /50	7 . 1	十 /二、	H41 H 111	二]虫		C-24°C						
調査時間		00	~	9:	56						~	10	:15			
係留船舶			卆内0						枠北タ	<u></u> የት6→0	、枠内	90				
移動船舶	_								2隻入	り、6	隻出る	5				
調査者									荒川							
四.百.日	וילטונ	11.		1+					וילטול	II.		1+				
種名	東側林	北側水路	枠 · 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	その他	合計	東 側 林	北側水路	枠 · 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	その他	合計
オカヨシガモ								0								0
ヒドリガモ								0								0
マガモ			1					1			2	6				8
カルガモ		8	24	16				48		2	8	7				17
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ								0				•				0
コガモ	-							0				8		-		8
ホシハジロ								0			4	2				<u>2</u> 5
キンクロハジロ スズガモ								0			1	4				0
ミコアイサ	1							0								0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ								0								0
ハジロカイツブリ								0								0
カワウ	141	1	893				1	1036	42		219	2			2	265
アオサギ	3	2	8					13	7		12					19
ダイサギ		2	4					6	2		5					7
コサギ			11					11			2					2
オオバン			1					1				2				2
キアシシギ								0								0
イソシギ			1					1		1						1
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ								0								0
ウミネコ		1					1	2			5				4	
セグロカモメ			4					4				1			1	2
オオセグロカモメ								0								0
コアジサシ								0								0
カモメSP	ᅪᄱ	∥ ∥ ∤ # da	ω ±-	Ł≠ヽz=	存在 补加	<u> </u>	311+共1-	<u>0</u> 大型	+ 00	11-4	E . S. 1	a 7.7	D+. H	<u> </u> 久しき	*111-	0
注記事項	クレー業・九州の幸できが	−ン車 従事し 州南で、 観測に	が3台 ていた の台! 非常に こは大	つき、 た。 虱が関 に変化 きなタ	建物 東北 が多 ズメー	の屋. :側の: ・い天(ジとな	上のコ 梅雨前 候だっ	事作 前線と	船舶 た。 ・その 前回、	が多か)他は: 、大量	いった <i>が</i> 運河。	が、10 ヒにい	時ころ たカワ	らには ⁻ フウが	すべて	出

月日	2016/	10/5							2016/	10/19						
	曇、『		夜に台	風涌	渦の見	通し				比風あ	IJ					
	26°C								22°C-		•					
調査時間		00	~	10	:25				9:	00	~	11	:10			
係留船舶	枠北タ	<u> </u>	卆内0						枠北タ	小0、	华内0					
移動船舶	1(出)								0							
調査者									荒川							
	וילטונ					l			וילטונ			·		Т		
種名	東 側 林	北側水路	枠 • 杭	枠内枠南	飛 翔 中	北側構内	そ の 他	合計	東 側 林	北側水路	枠 • 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	そ の 他	合 計
オカヨシガモ								0								0
ヒドリガモ			3					3		6						6
マガモ		1	4					5			14					16
カルガモ		14	68	5				87		2	37	5				44
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ								0								0
コガモ		25	31					56		73	20	3		1	12	108
ホシハジロ				6				6		18				1		114
キンクロハジロ				21				21		114	2			1		572
スズガモ				8				8		17		16				33
ミコアイサ								0								0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ								0								0
ハジロカイツブリ								0								0
カワウ	51		653					704	40	1	502	13				556
アオサギ	5		18					23	10	1	12					23
ダイサギ	1	1	2		1			5								0
コサギ								0								0
オオバン			1	8				9		15		15				30
キアシシギ								0								0
イソシギ			2			1		3		1						1
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ								0				1				1
ウミネコ			1					1								0
セグロカモメ			1					1				3				3
オオセグロカモメ								0								0
コアジサシ								0								0
カモメSP								0								0
注記事項	船舶 ・その ルー か北	は今朝 うちの が、小 側水路	月入っ [・] シ少な・ 舟にす 各には	てきた くとも- 乗って ほとん	ものと - 隻を 出てい ど鳥:	思わら もっていった。 がいな	(きたが) (こかった) (こかった)	7 ため こ。	•₹0	他は	水門σ)棚				

日日	2016/	/11/2							2016/	11/16						
		<u></u> 北風有	l)							····································	や強し	小北風				
		C-11.5								C-13.5		70724				
調査時間		05	~	11	:17					00	~	11:	:00			
係留船舶			华内0							小0、木	4内0					
移動船舶									0							
									# 111							
調査者	流川 こうしょう					1			荒川					1		
種名	東側林	北側水路	枠 · 杭	枠 内 枠 南	飛 翔 中	北側構内	そ の 他	合 計	東側林	北側水路	枠 · 杭	枠 内 枠 南	飛翔中	北側構内	そ の 他	合計
オカヨシガモ								0								0
ヒドリガモ		8	5				6	19			2					2
マガモ		3	5	3			1	12		5	21	10			3	39
カルガモ		7	9	2			1	19		3	4	10			2	19
ハシビロガモ		2						2								0
オナガガモ		3	1					4								0
コガモ		55	1	1				57		73						73
ホシハジロ		221	8	35				264		90	3	40				133
キンクロハジロ		129	1	320				450		207		356				563
スズガモ				21				21		102		300				402
ミコアイサ								0								0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ								0		1						1
ハジロカイツブリ								0								0
カワウ	912		771				1	1684	13		189				3	205
アオサギ	7	1	16				1	25		7	11			1		21
ダイサギ			1					1								0
コサギ	1							1								0
オオバン	2	6		9			4	21		7		9				16
キアシシギ		_		_				0								0
イソシギ		1	1					2			1					1
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ			4				71	75			17				17	34
ウミネコ			1					1								
セグロカモメ			4					4			5					0 5
オオセグロカモメ								0								0
コアジサシ								0								0
カモメSP								0								0
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	み、原	虱が身	にしみ	⊦t=。			上 手がか	じか	· 気温 折強 [。]	く吹くは	比風は	冷たく	、水瓦	L なかっ 面の力	モ類に	時北北
							てきてし							の部分	か、な	2.
							枠)でに			上側に				_+.	州土 I 一 戸	= /Bil
							目当密 ってい							った。 い状		
							うてい 52羽、							かれ		
							た。こ						-	人が		
							多数み							かはる		
							若鳥							増加し		、木
注記事項							多数		シハ	ジロは	逆に派	載少し	た。			
							ある。									
								中を電								
								、木に								
		っているったた		— 世	쓰게	יוכיית.	ノ 1 – くし	*箇所								
				ウレコ	リカエ	・メルギ	重河。-	その								
							ェー。 が露出									
	いる			/	٠ ٨		- ₽□₽									
	-															

月日	2016/	12/7							2016/	/12/21						
	晴、		や強_	→弱					快晴、	弱い	北風					
	12.5°			- 55					10°C-		-10724					
調査時間		00	~	11	:17					00	~	12	:00			
係留船舶			4内0							<u>7</u> 40、柞	4内0					
移動船舶		100 1	1170							:00頃		侵入10	0:15頃	退出)		
調査者									荒川	.00)(1	1131-	~~~		<u> </u>		
шч д ц	716711	11.		1+					716711	II.		14		11.		
種名	東側林	北側水路	枠 · 杭	枠 内 枠 南	飛 翔 中	北側構内	その他	合 計	東 側 林	北側水路	枠 · 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	そ の 他	合計
オカヨシガモ		1		1				2								0
ヒドリガモ			2				14	16							7	7
マガモ		3	28	2				33				33				33
カルガモ		25	20					45			67	3				70
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ		4	2					6			13				1	14
コガモ		46	13					59			42				2	
ホシハジロ		206	51	36			9	302		217	137	17				371
キンクロハジロ		242	3	164				409		354	8					493
スズガモ		22	Ť	161				183		83		74				157
ミコアイサ		1						1		33		- '				0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ		1						1		2						2
ハジロカイツブリ		-						0		1						1
カワウ	137		28				1	166		2	24	2			4	
アオサギ	137	1	6				- '	7	114		13					13
ダイサギ		- 1	- 0					0			13					0
コサギ		1						1		1						1
オオバン		42	12	15			4	73		27	8	11				46
		42	12	15			4			21	0	11				
キアシシギ イソシギ			4					<u>0</u> 1			4					0
			1								1					1
キョウジョシギ							_	0							0.5	0
ユリカモメ							5	5							35	
ウミネコ								0								0 3
セグロカモメ			3							2					1	
オオセグロカモメ								0								0
コアジサシ								0								0
カモメSP		L - "	£,,,,,	.1 !	<u> </u>	<u>L</u>		0		<u> </u>	/a - ^	N/ 1 **	11 C '	<u>. </u>	19	0
注記事項	したが、の場れ況・のそれのである。	が場に業近に主割かり他る域や存作景側がしめプはン1	の自業響の響いことという。というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	水金がて々て アーガ建かの 大黒気がる かんでん イーモン おきまれる サール	でも多なのれる を すめとかいてか 羽 岸に	はた に に に に に に に に に に に に に	はいか工林うの た 門そりは、れ事則見繁 ス 原のモ	、なけれ殖 ナー 引付タど木ら状 スーに近	世枠飛数部中立後さらたその内翔約はにつ約れて、。の	7号の、4-す着。15にた) 他ったスス荒50で水船分のウ はっかい はっぱい はんだい はんだい はんだい はんだい はんだい はんだい はんだい はんだ	ツガか羽カ東枠ど、ハー・ドッチの、ウ側内でかった。	のを臨れて林を退落も ガーカル公子済みりした ガーカー がった かいしょう かいりょう かいしょう かいりょう かいしょう かいしょく かいり かいり かいしょく かいしん いい しん いいしょく かいし かい かい しん かい しん かい しん かい しん かい しん しん いいしん いい	いると、 でと、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	人る面で比して鳥をて 乗力へた水としてが待計 の の の の の の の の の の の た の に の た り り り の た り り り り り り り り り り り り り)が頻びの路ん寺さらし 門ががが去多原が船から10:0直 の	り、斉総一のびた回

Вн	2016/	12/22							2017/	1/4						
			微風明	至か							に歯師	1.やや	出し た	· Z		
		麦-15°C		友刀.						-7.5°C		u 10 10 !	出 ヽ ′み	<i>`</i> ⊘`		
調査時間		00	~	11	:15					00	~	11	:40			
係留船舶				- ''	. 10					<u></u> 10、ᡮ		- ''	.+0			
移動船舶		10. 1	+110						0	10. 1	+110					
調査者	荒川								荒川							
	東	北	枠	枠	飛	北	そ		東	北	枠	枠	飛	北	そ	
種名	側	側	•	内	翔	側	o o	合 計	側	側	•	内	翔	側##	0	合 計
	林	水路	杭	枠 南	中	構内	他	ĒΤ	林	水 路	杭	枠 南	中	構内	他	ĒΤ
<u></u> オカヨシガモ				11.3				0				11.7				0
とドリガモ ヒドリガモ			8				3	11							11	11
マガモ		4					<u>ა</u>	37		2	2	24			11	
		4	33							2	2	24				28
カルガモ		52	66					118		4		62				66
ハシビロガモ					ļ	ļ		0							_	0
オナガガモ			14					14		4	12				2	18
コガモ		38	2				15	55		38					46	84
ホシハジロ		111	138	13			59	321		462		830				1301
キンクロハジロ		225	3	83			18	329		92		150			19	261
スズガモ		3		134				137				12				12
ミコアイサ								0								0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ		1					1	2		1						1
ハジロカイツブリ		2						2								0
カワウ	189	1	18					208	368		9	4				381
アオサギ	3		5					8			9					9
ダイサギ								0								0
コサギ								0						1		1
オオバン		29	7	15			7	58		29		16			5	50
キアシシギ								0								0
イソシギ		1		1				2								0
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ			1				63	64							2	2
ウミネコ							00	0					1			1
セグロカモメ			1		1		1	3			1		12	1		14
オオセグロカモメ					<u>'</u>		'	0			- 1		12	'		0
3 3 = 4 1 1								0								0
コアジサシ								0								
カモメSP	40 10	178 E.L.	ᄭᆇᇚ	+1	<u> </u>				44.0	— гп.	1	11884/	n+ +-	- 1 ± 5 i	- امادا	0
					作日子	りも馬	の分	作か								こいた
			を受り		゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙ヹ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙	:H'\	とした:	h.	ていか		ハハバ	引き終] 山山 [こしょ人	・マノ路	iшc
							その一				け	と内に	カモは	多くな	く多	くが
		-	いない				(0)	шР				ってい		У (.о.	>	1/3
							りの杭	にこ				運航		、水門	のあ	たりま
		- •					ていた		. — .							船が
	も関係	系する	かもし	れなし	ر۱,							て水門				
	•北側	水路	で運河]方向	に群れ	れがせ	り出す	*状				タイプ(
	況もな	少ない	印象で	であっ	た。							枠内に				
注記事項																〈路側
												E が飛				-
												あり、木				カウ
												測数0				
												0羽ほ こからī			いいこ。	
												こから			うた 7-	-8年1
										ハンロスであ		C ′み位	T10 C	, , , ,	101	ᅜᆖᆡ
												で繁殖	植 進備	にか	かって	いる
												になっ				
									1-3, 3	- \ >	عمد د ا	5	、		2.,07.	- 0

月日	2017/	/1/18							2017	/2/1						
		北風	 有							北風						
		-6.5°C								÷7.5°0						
調査時間		00	~	11:	15					00	~	11:2	26			
係留船舶			<u></u>							<u>50</u> 外0、相						
移動船舶		100	1130						0	, 100	11110					
調査者	荒川								荒川		1					
種名	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠 内 枠 南	飛翔中	北側構内	そ の 他	合 計	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠 内 枠 南	飛翔中	北側構内	そ の 他	合計
オカヨシガモ								0				2				2
ヒドリガモ		2					12	14		7					1	8
マガモ		7	14	4				25		4		33				37
カルガモ		37	45	8				90	1		20	23				59
ハシビロガモ		- 01	70					0		10	20					0
オナガガモ		12						12								0
コガモ		80	1					81		69		2			2	73
ホシハジロ		855		1115			0	2017		746	10	1735		-		2539
											10					
キンクロハジロ		489	1	109			1	600		216		222	-	-	27	465
スズガモ				22				22		2		11				13
ミコアイサ														0		
カイツブリ																0
カンムリカイツブリ		1 1 3 0 2												3		
ハジロカイツブリ														2		
カワウ	462													476		
アオサギ	2													5		
ダイサギ					1			1								0
コサギ								0								0
オオバン		10	1	20			10	41		28		22			8	58
キアシシギ								0								0
イソシギ			1					1								0
キョウジョシギ			-					0								0
ユリカモメ					14		21	35							31	31
ウミネコ					17			0							01	0
セグロカモメ			1				1	2					1			1
オオセグロカモメ							'						<u>'</u>			0
コアジサシ																0
カモメSP			- / 8 -	- 15:146-4-	341_ -	L 11 -			*□ □	1001/. 5	+	U. E. /:	₹ 7 1.	/ - 187	A / L L -	0
注記事項	・ホシハジロが圧倒的な数を占めていた。ほとんどがオスで、メスは1割~2割程度の印象。・開始直前時点では、枠内のカモは一番手前(北側)に集結。北側水路では、東端を除くと水路いっぱいに広がり、運河方向まで広くほぼ均等に埋まっている印象。枠の運河側は、通常船の運航があるのであまりカモの広がりは大きくないが、今日はホシハジロを中心に群れが広がっていた。・北側水路の大部分は、観測開始とほぼ同時に飛び立ち枠内等に移動してしまった。カモたちはかなり神経質な様子で、もしかしたらどこからか移動してきた直後なのかもしれない・カワウは、巣材運びをするものも複数あり、営巣または抱卵中のものも少なくなかった。今期の過去の観測結果と比べると、久しぶりに多くのカワウが林に集まったと思われた。・ダイサギは北から南方向に飛翔。・ユリカモメは3羽が北から南へ、11羽が東から西へ飛翔していた。														た方なり 多た 段、ど用中が計 なる調にり又 くよ は調位40 乗ん測 繁く	

8.0	2017/	2/15							2017/	/3/8						
	晴、は									数風か	に由せ	z ll n	国わど	金く		
		-9.5°C							8°C-8		り末っ	7 9 07)	虫() (宝、		
調査時間		:00	~	11:	·47					05	~	11	:10			
孫留船舶					/					00 外0、木			.10			
移動船舶		100	F 10						0	10. 1	T 10					
									_							
調査者	荒川		T 1		ı			Г	荒川							
種名	東 側 林	北側水路	枠 • 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	その他	合 計	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠内枠南	飛 翔 中	北側構内	そ の 他	合計
オカヨシガモ								0							1	1
ヒドリガモ		8					8	16		4					21	25
マガモ			30	3				33		2	18	9				29
カルガモ		3	18	4				25			25	16				41
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ		2	6					8		1		2				3
コガモ		65		2				67		2					41	43
ホシハジロ		1202	31	841				2074		897	30	529			1	1457
キンクロハジロ		350		326			1	677		269		415				684
スズガモ		4		35				39								0
ミコアイサ								0								0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ								0								0
ハジロカイツブリ		1						1								0
カワウ	561	1					2	564	507		7				12	526
アオサギ	7							7			5					5
ダイサギ								0								0
コサギ								0								0
オオバン		11	1	7			3	22		5	2	15			3	25
キアシシギ			-	-				0								0
イソシギ								0							1	1
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ							27	27							44	44
ウミネコ								0								
セグロカモメ								0			2					2
オオセグロカモメ								0								0
コアジサシ								0								0
カモメSP								0								0
注記事項	るい路ち口北飛岩まその	で開て対する。 開き始が等心るっよのは南 始無時っには建たうなとは奥	。(枠の に は に い 水 り は り は き き き き き き う り う り う が う う う う う う う う う う う う う う) 下段は 規則が はのし、 にし、 にし、 にし、 にいた。	にとまといるというというというというというできない。	さっていた。 でのカラ でではいたがいた。 でである。 でいたがいたのかでいた。 でいる。 でいるでいた。 でいるでいた。 でいるでいる。 でいるでいる。 でいるでいる。 でいるでいる。 でいるでいる。 でいるでいる。 でいるでいる。 でいるでいる。 でいるできまれる。 でいるできまれる。 でいるできまれる。 でいるできまれる。 でいるできまままままま。 でいるできままままままま。 でいるできまままままままままま。 でいるできまままままままままままままままま。 でいるできままままままままままままままままままままままままままままままままままま	いるもの Eがははないない。 はなまないが、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が	ての側びハ林斉はがいは水立ジのに削始	・いはモ方動・ゴでびが長づいまな向ますが、去、オ		カキれがび時て飛忰始ませかがし立点おび内後っています。	がいたのでしなり、ないかでのでしたのでしたのでした力をいたので、ちゃったのでは、	つジ、詳 部も側ののので、 1、、9:00 上落った。	いた。頭 ホシッピ か 空 に 着 い と な に は か く に は か く に と く に と り に し た し に し た し た し た し た し た し た し た し	更が更が こなナはオリアの東側の東側 羽い方なり	部分マ側に ミチにった がにが林移 サチ飛

月日	2017/	3/22							2017/	4/12						
		北風	やや硝	注し ^い						化風強	L					
	10°C-			-						C-18°C						
調査時間		00	~	10	:55				9:	00	~	10	:25			
係留船舶	枠北タ	小0、 柞	华内0						枠北タ	外0、 柞	华内0					
移動船舶	0								0							
調査者	芸川								荒川							
120日	וילטול	п.		14					וילטול	11.		14	<u> </u>	п.	1	l
種名	東 側 林	北側水路	枠 • 杭	枠 内 枠 南	飛 翔 中	北側構内	その他	合 計	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠内枠南	飛 翔 中	北側構内	そ の 他	合計
オカヨシガモ		2						2								0
ヒドリガモ		23	1				10	34								0
マガモ		2	8				2	12								0
カルガモ		21	13					34			3				1	4
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ								0								0
コガモ		93	1				2	96								0
ホシハジロ		364	201				1	673		3	12	2				17
キンクロハジロ		542	1					679		53		158			14	225
スズガモ			1	3				4				883				883
ミコアイサ								0								0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ		1						1		1						1
ハジロカイツブリ		•						0								0
カワウ	530	10						540	821	2	58	1			9	891
アオサギ	1	1						2	021		- 00		1	1	_	2
ダイサギ		•						0					<u>'</u>	<u>'</u>		0
コサギ		1						1								0
オオバン		16	15	14			28	73		2	8	1			1	12
キアシシギ		-10	-10	17			20	0							<u> </u>	0
イソシギ								0								0
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ							10	10								0
ウミネコ			3				4	7							3	
セグロカモメ			3		1		4				2				3 2	3 4
オオセグロカモメ					- 1			0								0
コアジサシ								0								0
カモメSP								0								0
カモメシト	<u></u> ++-	1+~	ا ما ا	+ 🗆 /-	- > .		L 1が少7			開始	吐上っ	5.4×+>	11341		よミロケィ	•
注記事項	なキおらにか割ったの	と印象 フロ約26 いたががが は大きが大き	を受け 30羽はなか回ななが でかまで でなった。 でなった。	けた。 特がいたいかいたいが、 だいが、 だが、	北側オート といべると といると とように とように	く路東 うちオ っれる ロもオ ンスの こ思れ	側溜す スが9 ほど圧 スがが かれる。 マンハン	Eりに 5%く 倒的 多 的な	たまあ広・は・西だ・枠にいっかのがのいオ方。ワに	のよう 北側(こが、	うなとき はの 今た、たまれ 単いた ままり こうしょう はんしょう はんしょう しょう こうしょう しょう かんしょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう はんしょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	きはい壁と 河 のに とい	つでん 南 上い 思はまた 利 といっと しょう おまま おまま おまま かんしょう しょう おまま かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅ	1モ防ぐがかったいから かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう いんしょう いんしょう いんしょう いんしょう いんしょう いんしょう いんしょう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅ	はか頃 岩 も東 も東 見ら	にうれる ままれる 大熊 かん まんがん ちゅうしん ちゅうしん ちゅうしん しゅうしん しょう しゅうしん しょう しゅうしん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん し

80	2017/	/4/26							2017/	5/10						
• -		生い南	国							微風						
		<u>乗い角</u> C-16.5														
調査時間			~	10	:10					00		10	:27			
				10	. 10						~ *-	10	.21			
係留船舶		<u> </u>	41시0							<u></u>	위시()					
移動船舶	0								0							
調査者	荒川								荒川							
	東	北 側	枠	枠 内	飛	北 側	そ	<u> </u>	東	北 側	枠	枠 内	飛	北側	そ	۵
種名 	側 林	水路	• 杭	枠南	翔中	構内	の 他	合計	林	水路	• 杭	枠南	翔中	構内	他	合計
オカヨシガモ								0								0
ヒドリガモ		1	1					2								0
マガモ								0								0
カルガモ			3	1		2		6		1		6				7
ハシビロガモ								0								0
オナガガモ								0								0
コガモ								0								0
ホシハジロ			2				1	3								0
キンクロハジロ				26				26		3		4		Ì		7
スズガモ			13					313		2		10				12
ミコアイサ				200				0								0
カイツブリ								0								0
カンムリカイツブリ		1		1				2								0
ハジロカイツブリ		-						0								0
カワウ	850	1	56			2		909	986	2	105	2			-	1100
	000	- 1			4										5	
アオサギ			3		1			4	2		1		1			4
ダイサギ								0								0
コサギ						1		1					1			1
オオバン								0				2				2
キアシシギ								0								0
イソシギ								0			1					1
キョウジョシギ								0								0
ユリカモメ					5		8	13								0
ウミネコ					1			1			3					3
セグロカモメ			4					4			1					1
オオセグロカモメ								0								0
コアジサシ								0								0
カモメSP								0								0
	・コサ	ギは	5側上	空を	南方向	に飛ん	んでじ	た。	•飛翔	中の	アオサ	トギは	北から	。 東へ	、コサ	ギは
注記事項	その1		リカモ	ַאסי		ロだけ:3羽の			キアに ギが、計 ・東った。 京都に	シシれ確とした。	る認いおきともいけるとき	き声にがする。からないからない。からないからないからない。これはいいない。これはいいない。これはいいないない。これはいいないない。これはいいないないない。これはいいないないない。これはいいないないないないないないないないないないないないないないないないないない	混ざ向かないはが巣で	から聞 ったた。 多くの ~4い	にえて め数字 単でか るのられて 見れてし	さして さきく ・見ら ・た。東 いると

月日 2017/5/24		0047	E/0.4						
気温 24°C 調査時間 9:00 ~ 10:35									
調査時間 9:00 ~ 10:35 係留船舶 枠北外0、枠内0 移動船舶 0 調査者 荒川 種名 東側 水 府南 中内枠 内内枠 開場 中内内枠 所 中内内枠 下 中内内内 中内内内内内 中内内内内内内内内 中内内内内内内内内内内			月風強	し					
係留船舶 枠北外の、枠内の 移動船舶 の									
移動船舶 では、					10:	:35			
調査者 荒川 種名 東側 大 内 内 内 内 内 内 内 内 内 内 内 内 内 内 内 内 内 内			卜0、 柞	华内0					
推名 東 北 枠 枠 枠 内 中 内 中 内 日 日 日 日 日 日 日 日 日	移動船舶	0							
推名 東 北 枠 枠 枠 内 中 内 中 内 日 日 日 日 日 日 日 日 日	調杏者	芸川							
種名	WH I	716711			14			1	
ヒドリガモ 0 カルガモ 2 ハシピロガモ 0 オナガガモ 0 コガモ 0 ホシハジロ 3 キンクロハジロ 6 スズガモ 3 ミコアイサ 0 カイツブリ 0 カフウカイツブリ 0 カフウカイツブリ 0 カフウカイツブリ 0 カフウオサギ 1 1 オオバン 2 2 キアシシギ 0 0 オオイバン 2 2 キョウジョシギ 0 0 ユリカモメ 0 0 ウミネコ 1 2 3 セグロカモメ 0 0 0 オオセグロカモメ 0 0 0 カモメSP 0 0 0 ・その他は運河・ダイサギは西方向からきて東に去っていった。 ・強風のため、カワウのカウントは行った。 336あった。 1 2 ・強風のため、カワウの方の大きで、 2 2 2 ナが大きく成長し巣の付近の枝にとまった。 1 2 2 ・経験のけ近の枝にとまった。 2 2	種名	側	側 水		内 枠	翔	側 構	の	合 計
マガモ	オカヨシガモ								0
カルガモ 2 2 ハシビロガモ 0 オナガガモ 0 コガモ 0 ホシハジロ 3 1 キンクロハジロ 6 6 スズガモ 3 1 4 ミコアイサ 0 0 0 カイツブリ 0 0 0 カフウカイツブリ 0 0 0 カフ・シギ 1 1 1 コサギ 1 1 1 コサギ 0 0 0 キアシシギ 0 0 0 キョウジョシギ 0 0 0 オオセグロカモメ 0 0 0 カマジサシ 0 0 0 ・その他は運河・ダイサギは西方向からきて東に去っていった。 0 0 ・強力のカウントも行った。 336あった。 0 0 ・経験イサギは西方のからきて東に去っているものがある一方で、	ヒドリガモ								0
カルガモ 2 2 ハシビロガモ 0 オナガガモ 0 コガモ 0 ホシハジロ 3 1 キンクロハジロ 6 6 スズガモ 3 1 4 ミコアイサ 0 0 0 カイツブリ 0 0 0 カフウカイツブリ 0 0 0 カフ・シギ 1 1 1 コサギ 1 1 1 コサギ 0 0 0 オオバン 2 2 2 キアシシギ 0 0 0 エリカモメ 0 0 0 オオセグロカモメ 0 0 0 カマジサシ 0 0 0 ・ダイサギは西方向からきて東に去っていった。 0 0 ・変イサギは西方のからきたの他は運河 0 0	マガモ								0
ハシビロガモ 0 オナガガモ 0 コガモ 0 ホシハジロ 3 1 4 キンクロハジロ 6 6 6 スズガモ 3 1 4 ミコアイサ 0 0 0 カイツブリ 0 0 0 カイツブリ 0 0 0 カイツブリ 0 0 0 カマサギ 1 1 2 ダイサギ 1 1 1 コサギ 0 0 0 オオバン 2 2 2 キアシシギ 0 0 0 イソシギ 0 0 0 キョウジョシギ 0 0 0 オオセグロカモメ 0 0 0 カモメSP 0 0 0 ・その他は運河・ダイサギは西方向からきて東に去っていった。 0 0 0 0 ・をの他は運河・ダイサギは西方向からきて東に去っていった。 0 0 0 0 ・経風のため、カワウのカウントも行った。 336あった。 0 0 0	カルガモ			2					2
コガモ									0
コガモ									0
ホシハジロ 3									0
キンクロハジロ 6 6 6 A 4 ミコアイサ 0			3					1	
スズガモ 3 1 4 ミコアイサ 0 0 カイツブリ 0 0 カワウ 848 1 213 2 9 1073 アオサギ 1 2 2 4 2 3 1 2									6
ミコアイサ 0 カイツブリ 0 ハジロカイツブリ 0 カワウ 848 1 213 2 9 1073 アオサギ 1 1 2 ダイサギ 1 1 1 1 コサギ 0 0 2 4 2 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 4 4 0 0 0 4 4 0 0 0 4 4 0 <					1				
カイツブリ 0 カワウ 848 1 213 2 9 1073 アオサギ 1 1 2 ダイサギ 1 1 1 コサギ 0 0 0 オオバン 2 2 2 キアシシギ 0 0 0 イソシギ 0 0 0 キョウジョシギ 0 0 0 エリカモメ 0 0 0 オオセグロカモメ 0 0 0 オオセグロカモメ 0 0 0 ・その他は運河・ダイサギは西方向からきて東に去っていった・・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。 ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。			3		I			-	
カンムリカイツブリ 0 カワウ 848 1 213 2 9 1073 アオサギ 1 1 2 ダイサギ 1 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 4 4 4 4 4 4 4 4 <	ミコノイサ								0
ハジロカイツブリ 848 1 213 2 9 1073 アオサギ 1 1 1 2 ダイサギ 1 1 1 1 コサギ 0 2 3 2 3 2 3 2 3 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4									
カワウ 848 1 213 2 9 1073 アオサギ 1 1 1 1 コサギ 0 1 1 1 コサギ 0 0 2 3 2 3 1 2 3 3 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4<									
アオサギ 1 1 1 コサギ 0 1 1 オオバン 2 2 2 キアシシギ 0 0 0 ユリカモメ 0 0 0 ユリカモメ 0 0 0 オオセグロカモメ 0 0 0 オオセグロカモメ 0 0 0 カモメSP 0 0 0 ・その他は運河・ダイサギは西方向からきて東に去っていった・・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。									
ダイサギ 1 1 コサギ 0 オオバン 2 2 キアシシギ 0 ユリカモメ 0 ウミネコ 1 2 セグロカモメ 0 オオセグロカモメ 0 コアジサシ 0 カモメSP 0 ・その他は運河・ダイサギは西方向からきて東に去っていったと・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。		848	1	213	2			9	
コサギ 0 オオバン 2 キアシシギ 0 ユリカモメ 0 ウミネコ 1 2 セグロカモメ 0 オオセグロカモメ 0 コアジサシ 0 カモメSP 0 ・その他は運河 ・ダイサギは西方向からきて東に去っていった た ・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。 ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。		1		1					2
オオバン22キアシシギ0イソシギ0キョウジョシギ0コリカモメ12ウミネコ12オセグロカモメ0コアジサシ0カモメSP・その他は運河 ・ダイサギは西方向からきて東に去っていった ・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。 ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。						1			
キアシシギ 0 イソシギ 0 キョウジョシギ 0 ユリカモメ 0 ウミネコ 1 2 3 セグロカモメ 0 オオセグロカモメ 0 カモメSP ・その他は運河・ダイサギは西方向からきて東に去っていった・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。	コサギ								0
キアシシギ 0 イソシギ 0 キョウジョシギ 0 ユリカモメ 0 ウミネコ 1 2 3 セグロカモメ 0 オオセグロカモメ 0 カモメSP ・その他は運河・ダイサギは西方向からきて東に去っていった・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。	オオバン		2						2
キョウジョシギ 0 ユリカモメ 1 2 3 セグロカモメ 0 オオセグロカモメ 0 カモメSP ・その他は運河・ダイサギは西方向からきて東に去っていった・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。 ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。	キアシシギ								0
キョウジョシギ 0 ユリカモメ 1 2 3 セグロカモメ 0 オオセグロカモメ 0 カモメSP ・その他は運河・ダイサギは西方向からきて東に去っていった・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。 ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。	イソシギ								0
ユリカモメ 1 2 3 セグロカモメ 0 オオセグロカモメ 0 カモメSP ・その他は運河・ダイサギは西方向からきて東に去っていった・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。									
ウミネコ 1 2 3 セグロカモメ 0 オオセグロカモメ 0 コアジサシ 0 カモメSP 0 ・その他は運河 ・ダイサギは西方向からきて東に去っていった。 ・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。 ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。									
セグロカモメ0オオセグロカモメ0コアジサシ0かモメSP・その他は運河・ダイサギは西方向からきて東に去っていった・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。				1		2			
オオセグロカモメ0コアジサシ0カモメSP0・その他は運河・ダイサギは西方向からきて東に去っていった・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。									-
コアジサシ カモメSP ・その他は運河 ・ダイサギは西方向からきて東に去っていった ・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。 ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。									
カモメSP ・その他は運河 ・ダイサギは西方向からきて東に去っていった ・強風のため、カワウのカウントはかなり厳し かったが、前回同様巣のカウントも行った、 336あった。 ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまった り、枠に上にとまっているものがある一方で、 抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。ま た、巣材を運ぶ成鳥も目にした。									
・その他は運河 ・ダイサギは西方向からきて東に去っていった ・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。 ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。									
・ダイサギは西方向からきて東に去っていった。 ・強風のため、カワウのカウントはかなり厳しかったが、前回同様巣のカウントも行った、336あった。 ヒナが大きく成長し巣の付近の枝にとまったり、枠に上にとまっているものがある一方で、抱卵中と思われる巣もまだかなりあった。また、巣材を運ぶ成鳥も目にした。	ルモノンド	・エハ	(411+)	雷河				<u> </u>	U
	注記事項	た強った336かたり、卵	いのた。 こが、i っった。 が大き に上い 中と思	め、カ' 前回同 く成長 ことまっ	ワウの 関様巣 し巣の る巣も)カウ: のカウ)付近 るもの まだか	ントは フントも の枝! のがあ いなりる	かない う行っ ことま るー:	り厳し た、 こった 方で、

新砂貯木場鳥類数調査**陸鳥**所在別集計表(2014-2015)

F D	2014/	10/15							2014/	/11/5						$\overline{}$
	2014/ 小雨、								墨、							
ラス		儿風							芸、~	し風						
調査時間		00	~	10	:40				٥.	05	~	10	:45			
孫留船舶 孫留船舶				10	.40					05 外0、柞			.45			
移動船舶		' የ ୬ . 1	+149						1+169	'rυ 、 ή	+ 173 10					
調査者	荒川	ı						1	稲垣、	宮本	、荒川					
種名	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	その他	合計	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠 内 枠 南	飛翔中	北側構内	その他	合 計
1. 17-01 \$ 1		Щ		1+1		P3				ĽD.		1+1		Pi		
ヒメアマツバメ								4								
キジバト					1			1					1			1
ドバト								0						2		2
ミサゴ トビ	_							0								0
	1							1								
オオタカ								0								0
ノスリ カワセミ								0								0
<u>カワセミ</u> チョウゲンボウ								0					1			0
ハヤブサ								0					1			0
モズ	1							1								0
オナガ	1							1								0
	1				4									4		1
ハシボソガラス					1	1		1	2				1	1 2		
ハシブトガラス					2	1		1	2				4			8
シジュウカラ ヒバリ					3	1		3 1	4					1		0
ツバメ						1			1					1		
ヒヨドリ	3				25			0 28	8				2	3		0 13
ウグイス	3				25				0					3		
メジロ								0								0
								0								0
セッカ ムクドリ					2			2						ΕO		0
ツグミ								0						50		50 0
								0						1		1
ジョウビタキ イソヒヨドリ			1					1						I		0
スズメ			1			10		10						120		120
ハクセキレイ					1	10		2		1	1			2		
セグロセキレイ					ı	1				ı	ı					4
タヒバリ								0								0
カワラヒワ					2			2					3			3
ホオジロ					۷			0					3			0
アオジ								0								0
オオジュリン								0								0
337477								U								-
注記事項																

月日	2014/	/11/19							2014/	12/3						
	快晴、									北風	強い					
気温																
調査時間		08	~	10	:50				9:	15	~	10	:40			
係留船舶		小0、 木	卆内9						枠北タ	小0、	卆内10)				
移動船舶				こその	後退出				0							
									+ 15	# 111						
調査者	他坦、		、 流リ						人尔、	荒川		1	1			
種名	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠 内 枠 南	飛 翔 中	北側構内	その他	合計	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠 内 枠 南	飛翔中	北側構内	そ の 他	合計
ヒメアマツバメ																
キジバト								0								0
ドバト								0								0
ミサゴ								0								0
トビ								0					1			1
オオタカ								0					·			0
ノスリ								0								0
カワセミ								0								0
チョウゲンボウ						1		1						2		2
ノョンソンハソ																0
ハヤブサ		-	-	-	-			0	4				-			
モズ	1							1	1							1
オナガ	1							1	_							0
ハシボソガラス	1							1	3		3					6
ハシブトガラス						2		2	7					1		8
シジュウカラ								0								0
ヒバリ								0								0
ツバメ								0								0
ヒヨドリ	2					3		5	6					4		10
ウグイス								0								0
メジロ								0								0
セッカ								0								0
ムクドリ								0			1					1
ツグミ								0	3		'					3
ジョウビタキ						1		1								0
イソヒヨドリ						- 1		0								0
スズメ						50								2		
						50		50			_			2		2
ハクセキレイ					1	2		3			1			2		3
セグロセキレイ				<u> </u>												
タヒバリ						1		1								0
カワラヒワ						2		2						1		1
ホオジロ								0								0
アオジ								0								0
オオジュリン					1			1								0
		ジュリ に鳴き			持内西	方から	新砂	干潟			がけい で飛		 から	北側棒	内上	空を
注到市场																
注記事項																

8.0	2014/	12/24							2015/	/1/7						
	晴、		LI								北風引	余! \				
気温		L 134 (V)	·)						⇒ "	IJ H⊟ ✓	46/±k):	χυ.				
調査時間		18	~	10	:50				q.	06	~	10):58			
係留船舶					.00					00 外0、		- 10				
移動船舶		100	TF310						0	100	T 10					
調査者	佐々、	荒川	1					1	荒川	ı			1	1		
種名	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠 内 枠 南	飛翔中	北側構内	その他	合計	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	そ の 他	合計
ヒメアマツバメ																
キジバト	2					1		3	2					3		5
ドバト					50			50								0
ミサゴ								0								0
トビ								0	1							1
オオタカ								0								0
ノスリ								0								0
カワセミ								0								0
チョウゲンボウ								0								0
ハヤブサ								0								0
モズ								0								0
オナガ								0								0
ハシボソガラス								0	1					1		2
ハシブトガラス	7					4		11	2					2		4
シジュウカラ								0	_					_		0
ヒバリ								0						1		1
ツバメ								0								
ヒヨドリ	5				15	5		25	3					5		0 8
ウグイス	1							1	Ŭ					Ŭ		0
メジロ	i i					1		1						7		7
セッカ								0						Ė		0
ムクドリ	7					10		17								0
ツグミ		1				2		3						3		0 3
ジョウビタキ	1							1						Ŭ		0
イソヒヨドリ								0								0
スズメ	30							30						10		30
ハクセキレイ			1			1		2		1				3		4
セグロセキレイ														Ŭ		
タヒバリ						1		1								0
カワラヒワ								0						8		8
ホオジロ								0								n
アオジ	1							1			-	 	1	2		8 0 2
オオジュリン	<u> </u>							0								0
	译44.	中の	トヨドロ	ルナー	群です	きから	西方向	•		は東側	川林の	<u> </u>	加上	上 流方配	「を飛	_
注記事項				化へ飛		-			北俱	構内	で運動	协場下	かった	こりの	木立に	は風

80	2015/	/1/21							2015/	2/4						 -
	みぞれ		小国	あ い					晴、		LI					
気温		し 芸、	16/5%	<i>w</i>					PFI 、 A	L /5% (V)	9					
調査時間		05	~	10	:35				Q٠	00	~	11	:00			
係留船舶				- 10	.00				枠北5				.00			
移動船舶		10. 1	T 10						0	10. 1	T 1 1 0					
調査者	大原、	荒川	ı			ı		r	荒川	ı		ı		r	1	
	東	北	枠	枠	飛	北	そ		東	北	枠	枠	飛	北	そ	
種名	側林	側 水 路	·· 杭	内 枠 南	翔中	側 構 内	の他	合計	側林	側 水 路	杭	内 枠 南	翔中	側 構 内	の他	合計
ヒメアマツバメ																
キジバト	4							4	3							3
ドバト								0								0
ミサゴ								0								0
トビ								0								0
オオタカ								0								0
ノスリ								0								0
カワセミ								0								0
チョウゲンボウ								0								0
ハヤブサ								0								0
モズ								0								0
オナガ								0								0
ハシボソガラス	1							1								0
ハシブトガラス								0	2					3		5
シジュウカラ								0								0
ヒバリ								0					2			2
ツバメ								0								0
ヒヨドリ	2							2								0
ウグイス	1					1		2								0
メジロ	<u>'</u>					<u>'</u>		0								0
セッカ								0								0
ムクドリ					1			1						20		20
ツグミ					1	1		2						20		0
ジョウビタキ					_ '	- '		0						1		1
イソヒヨドリ								0								0
スズメ								0						10		10
ハクセキレイ			1			3	1	5			1			10		10
			ı			3	- 1	3			ı					
セグロセキレイ						4		4						_		
タヒバリ	<u> </u>			 		1		1						2		2 0
カワラヒワ								0								U
ホオジロ						1		1								0
アオジ						1		1								0
オオジュリン								0			<u> </u>	<u> </u>		»,,, -	L - '	0
									•日当 聞か:		い良い	からた	か、ヒノ	いりの	さえず	りも
									- 飛翔	 中の	ヒバリ	は、東	東から	北西に	、また	こしば
													2羽ず			
										- 1			- • • •	710		
 注記事項																
・エル・ティス																
-	-					咨			-							

月日	2015/	/2/18							2015/	3/4						1
	小雨、		強い								かでき	.温暖	か、			
気温			-													
調査時間		00	~	11	:00				9:	10	~	10	:35			
係留船舶			卆内5						枠北タ	<u></u>	卆内6-	→7				
移動船舶									1							
調査者									+ 15	# III						
	ボハ	ı	Ι	ı	Т	Г			人尔、	荒川	T	1	T .	ı		
	東	北側	枠	枠 内	飛翔	北 側	そ	合	東	北 側	枠	枠 内	飛	北側	そ	۵
種名	側	水		枠	翔中	構	の	計	側	水		枠	翔中	構	0	合 計
	林	路	杭	南	Η Ψ	内	他		林	路	杭	南	甲	内	他	
ヒメアマツバメ																
キジバト								0								0
ドバト								0								0
ミサゴ								0								0
トビ								0								0
オオタカ								0								0
ノスリ								0								0
カワセミ								0								0
チョウゲンボウ	l			i –				0					1			0
ハヤブサ								0								0
モズ								0								0
オナガ								0								0
ハシボソガラス	1							1	2							2
ハシブトガラス	3					3		6						1		2 1
シジュウカラ	Ť							0						1		1
ヒバリ						1		1						1		1
ツバメ								0								0
ヒヨドリ						2		2								0
ウグイス								0								0
メジロ								0								0
セッカ								0								0
ムクドリ	5					5		10						2		2
ツグミ								0								0
ジョウビタキ								0								
イソヒヨドリ								0								0
スズメ						5		5								0
ハクセキレイ			1			2		3						2		2
セグロセキレイ																
タヒバリ						2		2								0
カワラヒワ	2					2		4								0
ホオジロ								0								0
アオジ								0								0
オオジュリン								0								0
	・ヒバ	リは、	雨天	で冷た	い風が	が拭く	中では					•	-			
			ってし		- ,,		, 2.0	-, -								
注記事項																

月日	2015/	/3/18							2015/	4/1						
	晴、往		り、時	髪か					曇、	., .						
気温																
調査時間	9:	00	~	11	:00				9:	00	~	10	:40			
係留船舶	枠北久	小0、	卆内1						枠北タ	小0、	卆内2					
移動船舶									0							
									++- ı.ı							
調査者	荒川				1				荒川			_	I			
	東	北	枠	枠	飛	北	そ	_	東	北	枠	枠	飛	北	そ	
種名	側	側 水		内 枠	飛翔	側 構	の	合計	側	側 水		内 枠	翔	側 構	の	合 計
	林	路	杭	南	中	内	他	н	林	路	杭	南	中	内	他	н
ヒメアマツバメ																
キジバト	1							1	1							1
ドバト	-							0								0
ミサゴ								0								0 0 0
トビ								0								0
オオタカ								0								0
ノスリ								0								0
カワセミ								0								0
チョウゲンボウ								0								0 0 0
ハヤブサ								0								0
モズ	\vdash							0				 	1			0
オナガ								0								0
ハシボソガラス	1		1			4		6								
ハシブトガラス	<u> </u>					2		2	3					2		0 5 0 2
シジュウカラ						1		1								- 0
ヒバリ	1					2		3	1					1		2
ツバメ	<u> </u>					1		1						<u>'</u>		
ヒヨドリ						2		2	1							0
ウグイス								0								0
メジロ	1							1								0
セッカ	- '							0								0
ムクドリ								0			2			40		42
ツグミ						1		1	2							2
ジョウビタキ	1							1								
イソヒヨドリ	-							0								0
スズメ								0						25		25
ハクセキレイ						1		1						2		2
セグロセキレイ								<u> </u>								
タヒバリ	H							0			 	t				0
カワラヒワ	\vdash					3		3				 	1			0
ホオジロ	\vdash							0				 	1			0
アオジ	\vdash					1		1				 	1	2		0
オオジュリン								0								0
	・ツバ	メナま	L 周杏旨	-ط	て今 ²	上 年初該	20			リはに	いずれ	<u>,</u> キ,さぇ	ずって	こいた。		ightharpoonup
		19日			7-	こ レンロル	,o (2 0	—	<i>ـَـ</i> ′′	7100	, 10		. , , , (/ - 0		
			,													
注記事項																

天気 気温 調査時間 係留船舶	快晴、	強い	南風					
調査時間	0.0							
	0.4							
係留船舶		00	~	10	:30			
		<u>ነዐ、</u>	华内1					
移動船舶	0							
調査者	荒川							
種名	東側林	北側水路	枠 · 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	その他	合計
ヒメアマツバメ								
キジバト								0
ドバト								0
ミサゴ								0
トビ								0
オオタカ								0
ノスリ								0
カワセミ								0
チョウゲンボウ						1		1
ハヤブサ								0
モズ								0
オナガ	3							3
ハシボソガラス	1					5		6 1
ハシブトガラス シジュウカラ	1							0
ヒバリ						1		1
ツバメ						2		
ヒヨドリ	2							2 2 0
ウグイス								0
メジロ								0
セッカ								0
ムクドリ			3			2		5
ツグミ								0
ジョウビタキ								0
イソヒヨドリ								0
スズメ						10		10
ハクセキレイ			2					2
セグロセキレイ								
タヒバリ								0
カワラヒワ								0
ホオジロ								0
アオジ								0
オオジュリン								U
注記事項								

新砂貯木場鳥類数調査**陸鳥**所在別集計表(2015-2016)

月日	2015/	9/16							2015/	10/7						
天気											の影響	型で北	風強し	<u> </u>		
気温	౼	<u> </u>							気温2		マンホン 目	= C 10.	/ 丛() 五 (
調査時間	9.	05	~	10	:05					00	~	10	:30			
係留船舶					.00				枠北				.00			
移動船舶		100	TF30						<u>1+1∟</u>	710.	7+173	<u> </u>				
									_							
調査者	荒川								荒川							
種名	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠内枠南	飛翔中	北側構内	その他	合計	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠 内 枠 南	飛翔中	北側構内	その他	合 計
ヒメアマツバメ																
キジバト								0	1							1
ドバト						1		1	ı							
						ı										0
ミサゴ								0						-		0
トビ								0								0
オオタカ								0				<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>		0
ノスリ								0								0
カワセミ								0								0
チョウゲンボウ								0								0
ハヤブサ								0								0
モズ								0								0
オナガ								0								0
ハシボソガラス								0	1		2					3
ハシブトガラス	1					4		5	2							3 2
シジュウカラ	1					2		3	_							0
ヒバリ	•					1		1						1		1
ツバメ						'		0						<u>'</u>		0
ヒヨドリ	2					1		3	3					2		5
ウグイス						ı		0	3							0
メジロ								0								0
セッカ								0								0
ムクドリ								0								0
ツグミ								0								0
ジョウビタキ								0								0
イソヒヨドリ								0								0
スズメ						30		30						6		8
ハクセキレイ			2			3		5	1		1			1		3
セグロセキレイ																
タヒバリ																0
カワラヒワ								0	2							2
ホオジロ								0								0
アオジ								0								0
オオジュリン								0								0
注記事項	ていけ	Έ				西方向		翔 し						<u>いた。</u> り でいた。		, G

- 日日	2015/	/10/21							2015/	/11/4						
	曇、耳		の国語	ÉL.							りの原	ほあり				
	2 0°		U 7114 J	<u> </u>					18°		7 0 7 13	X (4) /				
調査時間	9:	10	~	11	:05						~	11	:25			
係留船舶	ᅓ北	₩N									枠内					
移動船舶	0	7101	7+1731	<i>,</i>					0	770.	1+1/3	<u> </u>				
調査者	荒川							1	荒川							
	東	北	枠	枠 内	乖	北	そ		東	北	枠	枠 内	飛	北	そ	
種名	側	側	•	内	飛 翔	側 構	0	合計	側	側		内	翔	側##	0	合 計
	林	水路	杭	枠 南	中	内内	他	āT	林	水 路	杭	枠 南	中	構 内	他	āT
ヒメアマツバメ						' '				РН						
キジバト						1		1								
ドバト						- 1		0								0
ミサゴ								0								0
トビ								1	4							1
		1							1							
オオタカ								0								0
ノスリ								0								0
カワセミ								0								0
チョウゲンボウ		1						1								0
ハヤブサ								0								0
モズ	1					1		2	1					1		2
オナガ								0								0
ハシボソガラス			2			3		5	2							2
ハシブトガラス	1							1	1					3		4
シジュウカラ								0								0
ヒバリ						3		3						1		1
ツバメ								0								0
ヒヨドリ	5					5		10	2				25	4		31
ウグイス								0						1		1
メジロ								0								0
セッカ								0								0
ムクドリ								0								0
ツグミ								0								0
ジョウビタキ								0	1					1		2
イソヒヨドリ								0								0
スズメ						65		65						10		10
ハクセキレイ								0	1		2			2		5
セグロセキレイ																
タヒバリ								0								0
カワラヒワ						2		2						2		2
ホオジロ								0						1		1
アオジ								0								0
オオジュリン								0								0
		•		•					・トビ	は東側	訓はや	し上3	とを飛	匑		
													側水路		を西	から
										面に飛						
注記事項																
									ļ							

月日	2015/	11/18							2015/	12/2						
			暖か。						曇、は							
気温	20.5°	C-21	.5°C						11.5°0							
調査時間	9:	05	~	11	:05					00	~	10	:55			
係留船舶			枠内(枠内(
移動船舶	0	7100	1 T F J						0	7100	1711					
										,,						
調査者	荒川	ī		ī					荒川洋	<u> </u>	ı	ı	ı	ı		
	東	北	枠	枠 内	飛	北	そ		東	北	枠	枠 内	飛	北	そ	
種名	側	側 水	-	内坎	翔	側構	の	合計	側	側水		内协	翔	側 構	の	合計
	林	路	杭	枠 南	中	内	他	п	林	路	杭	枠 南	中	内	他	п
ヒメアマツバメ																
キジバト	1							1								0
ドバト								0								0
ミサゴ								0								0
トビ								0								0
オオタカ								0								0
オオダカ ノスリ								0								0
カワセミ						4		0								0
チョウゲンボウ						1		1						1		1
ハヤブサ モズ								0								0
七ス								0								0
オナガ								0								0
ハシボソガラス	1		1			2		4						5		5 2
ハシブトガラス	1					2		3						2		2
シジュウカラ								0								0
ヒバリ						2		2						1		1
ツバメ								0								0
ヒヨドリ	3					5		8	2					3		0 5
ウグイス								0						1		1
メジロ								0								0
セッカ								0								0
ムクドリ								0								0
ツグミ								0								0
ジョウビタキ								0								0
イソヒヨドリ								0								0
スズメ						10		10								0
ハクセキレイ	1	1	1			1		4			2					2
セグロセキレイ																
タヒバリ						1		1						3		3
カワラヒワ						1		1						Ĺ		0
ホオジロ						1		1								0
アオジ								0								0
オオジュリン								0								0
337477						<u> </u>		U			<u> </u>		<u> </u>	<u> </u>		
注記事項																

月日	2015/	/12/16							2015/	12/24						
	晴、徘										やや強	<u></u> 魚め				
	14°C-								10.5°							
調査時間	9:	00	~	11	:15						~	11	:10			
係留船舶	枠北	外0.	枠内(0					枠北	外0.	枠内	0				
移動船舶	0								0	V 1 - V						
調査者	元川	ı	ı	ı	ı	1			荒川		ı	1		1		1
	東	北 側	枠	枠 内	飛	北 側	そ	_	東	北 側	枠	枠 内	飛	北 側	そ	_
種名	側	水		枠	飛翔	構	その	合計	側	水	<u>.</u>	枠	翔	構	の	合計
	林	路	杭	南	中	内	他	н,	林	路	杭	南	中	内	他	H'
ヒメアマツバメ																
キジバト	2							2								0
ドバト								0								0
ミサゴ								0					1			1
トビ								0								0
オオタカ								0								0
ノスリ								0								0
カワセミ								0								0
チョウゲンボウ			l	i –				0						1		1
ハヤブサ								0								0
モズ								0	1							1
オナガ								0								0
ハシボソガラス	1					2		3	1		1					2
ハシブトガラス						4		4						2		2
シジュウカラ								0						3		2 2 3 5
ヒバリ	1							1						5		5
ツバメ								0								0
ヒヨドリ	2					11		13	3					3		6
ウグイス								0								0
メジロ						3		3						3		3
セッカ								0								0
ムクドリ								0	3							3
ツグミ								0	1							1
ジョウビタキ								0								0
イソヒヨドリ								0								0
スズメ								0								0
ハクセキレイ	1		1			3		5		1	1			2		4
セグロセキレイ																
タヒバリ						1		1						2		2
カワラヒワ						1		1								0
ホオジロ								0								0
アオジ								0								0
オオジュリン								0								0
											軍河上					
													1羽は	東側ホ	木方向	から
									北側	構内に	こ飛ん	できた	きもの			
注記申语																
注記事項																
	<u> </u>															
					_		_			_			_	_		

	2016/	/1/6							2016/	/1/20						$\overline{}$
	薄曇、		わわま	5 LI							や強し					
	万墓、 10℃-) -/					8.5°C							
調査時間			~	10	:50						~	11	:00			
孫留船舶					.50						枠内					
移動船舶		<u> </u>	作的	<u> </u>						<u> </u>	作的	UMT IT][_			
									0							
調査者	荒川								荒川							
		北		枠		北	_			北		枠	_	北	_	
┃ 種名	東側	側	枠	内	飛翔	側	その	合	東 側	側	枠	内	飛翔	側	その	合
12.1	林	水路	杭	枠 南	中	構内	他	計	林	水路	杭	枠 南	中	構内	他	計
		阳		I T I		ΡŊ				阳		田		173		
ヒメアマツバメ																
キジバト	1							1						1		1
ドバト					3			3								0
ミサゴ					1			1								0
トビ								0			1					1
オオタカ								0								0
ノスリ		<u> </u>						0								0
カワセミ								0								0
チョウゲンボウ						1		1								0
ハヤブサ								0								0
モズ						1		1								0
オナガ								0								0
ハシボソガラス	1							1	2		1					3
ハシブトガラス						1		1								0
シジュウカラ						2		2						1		1
ヒバリ						6		6						·		0
ツバメ								0								0
ヒヨドリ	2					4		6	2					3		5
ウグイス						1		1						- 3		0
メジロ						2		2								0
セッカ								0								0
ムクドリ								0	70							70
ツグミ						1		1	3					1		70
						1								4		
ジョウビタキ								0								0
イソヒヨドリ						00		0						_		
スズメ						30		30						3		3
ハクセキレイ		1	1			1		3			1			2		3
セグロセキレイ																
タヒバリ						1		1								0
カワラヒワ						2		2								0
ホオジロ								0								0
アオジ						1		1								0
オオジュリン								0								0
		—			たのに									と思わ	れるも	5のを
													いた。			
		寺間か	「短い	関係で	こ、記録	まが多	くでき	たの						空を升		
	か。				, , , , , , , , , , , , ,	- L. I	-»—··		スラッ	ジプラ	ラントの	の建物	屋上	に一時	とまっ	った。
					は運河											
					飛翔、	F//F	は、北	ふから								
			ぐ飛翔		側構内	h n th	ション	录┕								
注記事項			ていた		侧伸尸	りしてが	はマリル	至上								
	1mm1~0	とよう	(6.75	• 0												
	<u> </u>								<u> </u>							

月日	2016/	/2/3							2016/	2/24						
	晴、		L)								LV					
気温	5°C-6	°C							7° C-6							
調査時間	9:	03	~	11	:03					00	~	10	:57			
係留船舶	₩₩	λγ. Ω								<u>外</u> 0、						
移動船舶	0	7100	7777	<u> </u>					0	7100	<u> </u>	<u> </u>				
調査者	荒川			1					荒川		1		1			
	東	北	枠	枠 内	飛	北	そ	_	東	北	枠	枠 内	飛	北	そ	
種名	側	側 水		枠	飛 翔	側 構	の	合計	側	側 水		枠	翔	側 構	の	合計
	林	路	杭	南	中	内	他	н	林	路	杭	南	中	内	他	н
ヒメアマツバメ																
キジバト						1		1								0
ドバト						•		0								0
ミサゴ								0								0
トビ								0								0
オオタカ								0								0
ノスリ								0								0
カワセミ								0		1						1
チョウゲンボウ								0								0
ハヤブサ								0								0
モズ								0						1		1
オナガ						1		1								0
ハシボソガラス	1							1	2							2
ハシブトガラス	2					4		6	1					2		2
シジュウカラ						2		2								0
ヒバリ						2		2						1		1
ツバメ								0								0
ヒヨドリ					2	2		4						2		2
ウグイス								0								0
メジロ						6		6						2		2
セッカ								0								0
ムクドリ						40		40								0
ツグミ						1		1						2		2
ジョウビタキ								0								0
イソヒヨドリ								0								0
スズメ						30		30								0
ハクセキレイ			1			1		2		1				1		2
セグロセキレイ																
タヒバリ						1		1						1		1
カワラヒワ						1		1								0
ホオジロ								0								0
アオジ		Ĺ						0		Ĺ						0
オオジュリン								0								0
		-		-					·北俱	水路	の西側	則棚で	、初め	てカワ	フセミス	がしい
									た							
													17日			
										がイン	゚゚゚゚゚゚゚゚゙゚゚゚゚゚゚゚゙゚゚゚゚゚゚゙゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚	ロンザ	のため	51週間	間順延	した
									もの							
ひきます																
注記事項																
-																

月日	2016/	/3/2							2016/	/3/16						
	快晴、		りの屈	ほあり						比風有	·Ŋ					
気温									8.5°C							
調査時間		00	~	11	:05						~	11	:25			
係留船舶			枠内()					枠北	外0、	枠内	0				
移動船舶	0	71-1	111.						0	71-1						
調査者	元川	ı			ı				荒川		1	1	1	ſ		1
	東	北 側	枠	枠 内	飛	北 側	そ	_	東	北 側	枠	枠 内	飛	北 側	そ	۸
種名	側	水		枠	翔	構	の	合計	側	水		枠	翔	構	の	合計
	林	路	杭	南	中	内	他		林	路	杭	南	中	内	他	
ヒメアマツバメ																
キジバト	2							2								0
ドバト	-							0								0
ミサゴ								0								0
トビ								0								0
オオタカ								0								0
ノスリ					-			0			1					0
カワセミ					-			0	-		-	<u> </u>		-		0
チョウゲンボウ		-			-			0			 		1			0
アョソソンバリ		-														
ハヤブサ	<u> </u>	-	-		<u> </u>			0				<u> </u>				0
モズ								0								0
オナガ								0								0
ハシボソガラス	1		1			1		3						2		2 7
ハシブトガラス						6		6	6				1			7
シジュウカラ						1		1						1		1
ヒバリ						1		1						1		1
ツバメ								0								0 2
ヒヨドリ						1		1						2		2
ウグイス						1		1						1		1
メジロ								0						4		4
セッカ								0								0
ムクドリ						6		6						4		4
ツグミ						2		2						5		5 0
ジョウビタキ								0								0
イソヒヨドリ								0								0
スズメ								0								0
ハクセキレイ			2			3		5			1			1		3
セグロセキレイ			_			Ŭ		Ť								Ť
タヒバリ								0								0
カワラヒワ						1		1	1							1
ホオジロ						<u> </u>		0	-							0
アオジ					 			0				-				0
オオジュリン					\vdash			0								0
2777	■ 毎月 汨		 一至 卓	きせる	<u>l</u> 前1-	<u> </u> オオタ	」 zカが・			111++	l マラボリ	<u>I</u> .1≠.		<u> </u>		
			に到る		H111~,	ハハウ	۰,۱۱۲۰	167]	'\	ソル	-~9 ¹	りつ				
	-	1610	.0.57	_												
上 注記事項																
工 配																
	L								L							
						½~ ∧										_

	0040	1410							0040	14/00						
	2016/		14.74.1						2016/		> 15 t	L 74 14	0 E /-			
	晴、雨		で強し	`								3短(4)	の風に	-		
	15.5°			40	- 45					C~16	.5°C	40				
調査時間			~		:45								:28			
係留船舶		<u>外0、</u>	秤囚()						<u>外0、</u>	枠内	0				
移動船舶	0								0							
調査者	荒川								荒川							
		北		枠		北				北		枠		北		
種名	東 側 林	机侧水路	枠 • 杭	内枠南	飛 翔 中	祖構内	その他	合計	東側林	礼側水路	枠 • 杭	内枠南	飛翔中	側構内	その他	合 計
ヒメアマツバメ																
キジバト						1		1						2		2
ドバト								0								0
ミサゴ								0								0
トビ								0								0
オオタカ								0								0 0 0 0
ノスリ			Ì					0								0
カワセミ								0								0 0 0
チョウゲンボウ	 		 		<u> </u>			0				 				0
ハヤブサ								0								
モズ	\vdash		\vdash		 			0	 				1			
オナガ								0								0 0 1 2 0
ハシボソガラス			1			1		2						1		
						3		6								<u> </u>
ハシブトガラス	3					3								2		
シジュウカラ								0								0
ヒバリ	1					1		2						1		
ツバメ								0								0
ヒヨドリ						3		3						8		0 8 0
ウグイス						1		1								0
メジロ						1		1						1		1
セッカ								0								0
ムクドリ								0						2		2
ツグミ								0						1		1
ジョウビタキ								0								0
イソヒヨドリ								0								0
スズメ						2		2						10		10
ハクセキレイ			2			1		3			1			2		3
セグロセキレイ																
タヒバリ								0								0
カワラヒワ								0						2		2
ホオジロ								0								0
アオジ					i –			0								0
オオジュリン								0								0
	・ヒバ	U. ウ	グイス	はさ	えずり	‡,,				ドリの	 うち73	別は陸	側から	ら飛来	L <i>t-</i>	٦
	<u> </u>	<i>,</i> , ,	- 17		- , ,	J 0					えずし		, M379	J/16/1	J/_0	
										,,,,,		• 0				
注記事項																

天気 端、強い南風 景、南風強し 気温 25°C~28.5°C 22.5°C~23°C 22.5°C~23°C~23°C~23°C~23°C~23°C~23°C~23°C~23	月日	2016/	/5/11							2016/	5/25						
Sail 25°C~26.5°C 22.5°C~28.2°C 10.30 9.00 ~ 10.20 10.20												L					
調査時間 9:00 ~ 10:30 9:00 ~ 10:20 保留船舶 枠北外0、枠内0 枠北外0、枠内0 枠北外0、枠内0 枠北外0、枠内0 機工																	
(条留船舶 枠北外0、枠内0 移動船舶 0 0	調査時間	9:	00		10	:30							10	:20			
移動船舶 O																	
調査者			710.	1+17	<u> </u>						710.	7+1/3	<u> </u>				
種名 東 北側 水 路 北側 木 花 内内内 根 別 根 そ の 他 計 根 内内内内																	
本名 本 本 本 本 本 本 本 本 本	調査者	荒川								荒川							
株		<u> </u>	北	∔ +h.	枠	₹K	北	7		+	北	±+.	枠	-TK	北	7	
本 本 本 本 本 本 本 本 本 本	種名	果側			内	翔		ての	合	果側		117	内	翔		ての	合
Eメアマツバメ 1	<u> </u>		水 路	杭		中			ĒΤ		水路	杭	中南	中		他	計
キジバト 1 <td>1. 17-01 \$ 1</td> <td></td> <td>ш</td> <td></td> <td>1773</td> <td></td> <td>173</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>μп</td> <td></td> <td>1+1</td> <td></td> <td>P 3</td> <td></td> <td></td>	1. 17-01 \$ 1		ш		1773		173				μп		1+1		P 3		
下が																	
まサゴ トピ 0 0 0 1 2 2 1 7 9<							1								1		1
トピ オオタカ																	0
オオタカ																	0
ノスリカワセミ 0 チョウゲンボウ 0 ハヤブサ 0 モズ 0 オナガ 0 ハシボソガラス 1 1 1 ルシブトガラス 1 シジュウカラ 1 ヒバリ 1 リスメ 0 レニョドリ 0 ウグイス 0 メジロ 0 セッカ 1 ムクドリ 2 ジョウビタキ 0 イソヒョドリ 0 スズメ 4 ハクセキレイ 0 サビヴロセキレイ 0 サビヴロセキレイ 0 サビヴロセキレイ 0 カアラシロ 1 オオジュリン 0			<u> </u>														0
カワセミ チョウゲンボウ 0 ハヤブサ 0 モズ 0 オナガ 0 ハシボソガラス 1 1 1 ハシブトガラス 1 シジュウカラ 1 ヒバリ 1 セバリ 1 ログイス 0 メジロ 0 セッカ 1 ムクドリ 2 ジョウピタキ 0 イソヒヨドリ 0 スズメ 4 ハクセキレイ 0 セグロセキレイ 0 セグロセキレイ 0 セグロセキレイ 0 オオジュリン 0	オオタカ																0
チョウゲンボウ 0 ハヤブサ 0 まズ 0 オナガ 0 ハシボソガラス 1 1 1 ハシボソガラス 1 1 1 ヒバリ 1 ウジュウカラ 1 ヒバリ 1 ツバメ 0 ヒョドリ 0 ウグイス 0 メジロ 0 セッカ 1 ムクドリ 2 ツグミ 0 ジョウビタキ 0 イソヒヨドリ 0 スズメ 4 ハクセキレイ 0 セグロセキレイ 0 カアラヒワ 1 オオジュリン 0			<u> </u>	<u> </u>													0
ハヤブサ 0 モズ 0 オナガ 0 ハシボソガラス 1 1 1 ハシブトガラス 1 シジュウカラ 1 ヒバリ 1 ツバメ 0 ヒョドリ 0 ウグイス 0 メジロ 0 セッカ 1 ムクドリ 2 ジョウビタキ 0 イソヒヨドリ 0 スズメ 4 ハクセキレイ 0 タビパリ 0 カフラヒワ 1 セグロセキレイ 0 タビパリ 0 オオジュリン 0	カワセミ																0
ハヤブサ 0 モズ 0 オナガ 0 ハシボソガラス 1 1 1 ハシブトガラス 1 シジュウカラ 1 ヒバリ 1 ツバメ 0 ヒョドリ 0 ウグイス 0 メジロ 0 セッカ 1 ムクドリ 2 ジョウビタキ 0 イソヒヨドリ 0 スズメ 4 ハクセキレイ 0 タビパリ 0 カフラヒワ 1 セグロセキレイ 0 タビパリ 0 オオジュリン 0	チョウゲンボウ																0
モズ カナガ 0 1 1 オナガ 0 1 1 1 1 ハシボソガラス 1	ハヤブサ																0
オナガ ハシボソガラス 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	モズ								0								0
ハシボソガラス			Ī	Ī					0						1		1
シジュウカラ 1 </td <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>2 4</td>		1							1			1			1		2 4
シジュウカラ 1 </td <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4</td>							1			2							4
Eバリ 1 1 2 1 ツバメ 0 1 ヒョドリ 0 3 1 ウゲイス メジロ 0 スジリン メジロ 0 1 1 1 ムクドリ 2 2 1 7 ツグミ 0 0 1 7 ジョウビタキ 0 0 1 1 イソヒョドリ 0 0 1 1 スズメ 4 4 4 1 ハクセキレイ 0 1 1 1 タヒバリ 0 0 1 1 カワラヒワ 1 1 1 1 オオジュリン 0 0 0 1	シジュウカラ	1															1
ツバメ 0 1 ヒヨドリ 0 3 ウグイス 0 0 メジロ 0 1 セッカ 1 1 1 ムクドリ 2 2 1 7 ツグミ 0 0 0 0 0 ジョウビタキ 0 0 0 0 0 0 イソヒョドリ 0 0 1 0 0 1 0 0 1 0 <t< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></t<>							1			1							1
とヨドリ ウグイス	ツバメ	<u> </u>					·								1		1
ウグイス 0 メジロ 0 セッカ 1 ムクドリ 2 ツグミ 0 ジョウビタキ 0 イソヒヨドリ 0 スズメ 4 ハクセキレイ 0 セグロセキレイ 0 タヒパリ 0 カワラヒワ 1 ホオジロ 0 アオジ 0 オオジュリン 0										3							4
メジロ 0 セッカ 1 ムクドリ 2 ツグミ 0 ジョウビタキ 0 イソヒヨドリ 0 スズメ 4 ハクセキレイ 0 セグロセキレイ 0 タヒパリ 0 カワラヒワ 1 ホオジロ 0 アオジ 0 オオジュリン 0	ウグイス																0
セッカ 1 1 1 1 1 1 1 7 ツグミ 0 1 7 ツグミ 0																	0
ムクドリ							1			1							1
ッグミ 0 ジョウビタキ 0 イソヒヨドリ 0 スズメ 4 ハクセキレイ 0 タヒバリ 0 カワラヒワ 1 ホオジロ 0 アオジ 0 オオジュリン 0			-	-								1			7		8
ジョウビタキ 0 イソヒョドリ 0 スズメ 4 ハクセキレイ 0 セグロセキレイ 0 タヒバリ 0 カワラヒワ 1 ホオジロ 0 アオジ 0 オオジュリン 0												'			,		0
イソヒヨドリ 0 スズメ 4 ハクセキレイ 0 セグロセキレイ 0 タヒバリ 0 カワラヒワ 1 ホオジロ 0 アオジ 0 オオジュリン 0	ジュウビタモ																0
スズメ 4 4 1 ハクセキレイ 0 1 セグロセキレイ 0 1 タヒバリ 0 0 カワラヒワ 1 1 ホオジロ 0 0 アオジ 0 0 オオジュリン 0 0	ノリレコドリ								0								0
ハクセキレイ 0 1 セグロセキレイ 0 1 タヒバリ 0 1 カワラヒワ 1 1 ホオジロ 0 0 アオジ 0 0 オオジュリン 0 0							1								1		1
セグロセキレイ タヒバリ 0							4										
タヒバリ 0 カワラヒワ 1 ホオジロ 0 アオジ 0 オオジュリン 0									U						1		1
カワラヒワ 1 1 0 1 7 1		<u> </u>							_								
ホオジロ アオジ オオジュリン																	0
アオジ 0 オオジュリン 0		 1	<u> </u>	<u> </u>													0
オオジュリン			<u> </u>	<u> </u>													0
			<u> </u>	<u> </u>	ļ												0
注記事項	オオシュリン								0								0
	注記事項																

新砂貯木場鳥類数調査**陸鳥**所在別集計表(2016-2017)

月日	2016	/9/7							2016/	9/21						
			墨. /	小雨混	IJ. ī	南風一	時的は	こ強		比風や	や強し	١,				
気温			Δ,	3 113720	, , , ,	13724	-,-,-,-	_ ,		C-24°C						
調査時間		00	~	9:	56				9:	00	~	10	:15			
係留船舶			卆内0						枠北久	<u>ነ</u> 6→0	、枠区	内0				
移動船舶										り、6						
調査者									荒川							
	流川			1		1			流川							
種名	東 側 林	北側水路	枠 • 杭	枠内枠南	飛 翔 中	北側構内	その他	合 計	東側林	北側水路	枠 • 杭	枠 内 枠 南	飛翔中	北側構内	その他	合 計
ヒメアマツバメ								0								0
キジバト						3		3								0
ドバト								0						5		5
ミサゴ								0								0
トビ	1					1		2						1		1
オオタカ								0	1						1	2
ノスリ								0								0
カワセミ								0								0
チョウゲンボウ								0								0
ハヤブサ								0								0
モズ								0								0
オナガ								0	2					2		4
ハシボソガラス	1		1			7		9	1							1
ハシブトガラス	2					13		15	2					3		5
シジュウカラ	1							1						2		2
ヒバリ								0								0
ツバメ								0						4		4
ヒヨドリ								0						2		2
ウグイス								0								0
メジロ								0								0
セッカ								0								0
ムクドリ								0	2					2		4
ツグミ								0								0
ジョウビタキ								0								0
イソヒヨドリ								0								0
スズメ								0								0
ハクセキレイ		2				1		3		1	1			4		6
セグロセキレイ								0								0
タヒバリ								0								0
カワラヒワ								0								0
ホオジロ								0								0
アオジ								0								0
オオジュリン								0								0
注記事項	クレー 業に ・東側 木の (北側	-ン車 従事し 川林の 上で何 構内	が3台 してい。 シジェ 引かを 上空(つき、 た。 ュウカ・ 食べ・	. 建物 ラは、 ている 回して	の屋. さえす ようた こいる	上のコ り。ト った トビあ	:大型 二事作 ビは り) ヒヨ	オオ路。辺したがでは、ツはな	タカは 上一 上 ー イ リ は は は い い い た 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	東側上かめる。	林に。 に飛び こ2羽! られて ではなく	が、した 出現し こいるが こいか。 が今年	ていた ばらくし た。オ が、調	てから オタカ 査時に 認とな	夢のは周出現るの

ВП	2016/	/10/5							2016/	10/19						\neg
			夜に台	マ国 温 :	温の目	温口				比風あ						
気温		刊丛、	1久1~ 口	1) 四, 四,	直り元	、地し			րր 22°C-		9					
調査時間		00	~	10	:25						~	11	:10			
係留船舶				10	.25					00 外0、柞		- 11	.10			
		/ro、1	41 7 10							'ru、1	41 4 10					
移動船舶									0							
調査者	荒川								荒川							
		北		枠	_	北	_			北		枠	_	北	_	
種名	東 側 林	側水路	枠 • 杭	· 内 枠 南	飛 翔 中	側構内	そ の 他	合 計	東 側 林	側水路	枠 • 杭	· 内 枠 南	飛 翔 中	側構内	そ の 他	合 計
1-17-11.51		μц		173		r 3				μц		1773		F 3		
ヒメアマツバメ								0								0
キジバト						2		2	1							1
ドバト								0						3		3
ミサゴ								0								0
トビ	1							1						1		1
オオタカ								0								0
ノスリ								0								0
カワセミ								0								0
チョウゲンボウ								0								0
ハヤブサ								0								0
モズ	2					2		4	1							1
オナガ	4							4	5							5
ハシボソガラス	2		2			1		5								0
ハシブトガラス						1		1						12		12
シジュウカラ						3		3								0
ヒバリ	1					1		2						2		2
ツバメ								0								0
ヒヨドリ	2					3		5	91					90		181
ウグイス	_					Ĭ		0	<u> </u>					- 00		0
メジロ	1							1						1		1
セッカ								0						'		0
ムクドリ								0						6		6
ツグミ								0						U		0
ジョウビタキ																
イソヒヨドリ								0								0
スズメ	4					40										0
	4		_			10		14		_						
ハクセキレイ	1		2			3		6		3				3		6
セグロセキレイ								0				<u> </u>	-	 		0
タヒバリ								0								0
カワラヒワ		ļ			ļ			0			ļ	<u> </u>		2		2
ホオジロ		ļ			ļ			0			ļ	<u> </u>				0
アオジ								0								0
オオジュリン		<u>L</u>	<u> </u>		L	لببا		0			<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	لـــــا	_ ,	0
	向に・	一羽す	t北側 『つ相 .側林(次いて	き飛ん	で行っ	た。		か、す	刺の	林で	は南か	が到来 いら北ス J林へ	方向へ	18羽	移
			そんで:				-		30羽.	、40羽	、南方	う向か	ら北側	構内	へ飛き	未した
													30羽、			
													時的に			
											_移動	を続り	ナてい	つたよ	つなり	家を
注記事項									受けた	.						

BA	2016/	/11/2							2016/	11/16	,					
	曇、岩		l)								や強し	/北周				
	13.5°									C-13.5		70724				
調査時間			~	11	:17						~	11	:00			
係留船舶										<u>*</u> 10、	卆内()					
移動船舶		100 1	1130						0	100 1	1110					
調査者	荒川							Г	荒川						-	
	東	北 側	枠	枠 内	飛翔	北 側	そ	合	東	北 側	枠	枠 内	飛	北 側	そ	合
種名	側 ++	水	+±	枠	翔中	構	の	計	側	水	· 杭	枠	翔中	構	の 他	計
	林	路	杭	南	Ψ	内	他		林	路	机	南	"	内	1世	
ヒメアマツバメ								0								0
キジバト								0	1							1
ドバト								0					20			20
ミサゴ								0								0
トビ					1			1						2		2
オオタカ					·			0								0
ノスリ								0								0
カワセミ								0			\vdash	\vdash				0
チョウゲンボウ								0								0
ハヤブサ		 						0			\vdash	\vdash	\vdash			0
モズ	1							1	1		<u> </u>	<u> </u>		1		2
オナガ								0	2							2
ハシボソガラス	1							1	1							1
ハシブトガラス						3		3	1					4		5
シジュウカラ								0								0
ヒバリ								0								0
ツバメ								0								0
ヒヨドリ	5					4		9	3					3		6
ウグイス								0								0
メジロ								0								0
セッカ								0								0
ムクドリ								0	2							2
ツグミ								0	2							2
ジョウビタキ								0								0
イソヒヨドリ								0								0
スズメ						3		3						3		3
ハクセキレイ			3			1		4		1				1		3
セグロセキレイ			⊢					0		- '	\vdash	\vdash		- 1		0
タヒバリ								0			\vdash	 				0
カワラヒワ								0			\vdash					0
								0			-					0
ホオジロ		-									 	<u> </u>				-
アオジールン		 						0			<u> </u>					0
オオジュリン		<u> </u>	<u> </u>	= + ^=	 羽は、	h. ~ =	- сл—	0		114	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u> 向へ-		#¥ 1	0
	をして ・トビ 回して ・北側 か?〕	ていた。 は北側 ていた リ構内) がしか	。 削構内 。 の東は たが、	上空が と方向 姿はす	から貯 でタナ けぐにい	木場の 類の 建物の	の上空 声(オス	を旋	- 7. 空を		×1400 .	/ J	. •	- • •	A1 11 0 1	-
	1207	で訂決	対入し	ム八 省	<u> የ</u> ነጉ	ノに。										
注記事項																

天気 晴、北風やや強一弱 快晴、弱い北風 気温 12.5℃-13.5℃ 10℃-14℃ 10℃-14℃ 10℃-14℃ 10℃-14℃ 10℃-14℃ 10℃-14℃ 10℃-14℃ 10℃-14℃ 10℃-14℃ 10℃-14℃ 10℃-14℃ 10℃-14℃ 10℃-14℃ 10℃-14℃ 10℃-14℃ 10℃-14℃ 10℃-15頃退出) 10℃-15頃国出 10℃-15頃国出 10℃-15旬国出 10℃-15頃退出 10℃-15旬国 10℃-15頃退出 10℃-15頃退出 10℃-15頃退出 10℃-15頃退出 10℃-15頃退出 10℃-15頃退出 10℃-15頃退出 10℃-15頃退出 10℃-15頃退出 10℃-15頃国 10℃-15頃国 10℃-15頃国 10℃-15頃国 10℃-15頃国 10℃-15頃国 10℃-15頃国 10℃-15旬国 10℃-15旬国	80	2016/	12/7							2016/	12/21						
State				上子	. 22							-V 団					
調査時間 9:00 ~ 11:17 9:00 ~ 12:00 係留船舶 枠北外の、枠内の 校北外の、枠内の 校北外の、枠内の 校北外の、枠内の 校北外の、枠内の 校北外の、枠内の 校北外の、枠内の 1(10:00頃枠内に侵入10:15頃退出) 荒川 荒川 荒川 荒川 荒川 花川 校 校 校 校 校 校 校 校 校					→33							儿風					
係留船舶 およがり、枠内0 およがり、枠内0 およがり、枠内0 1(10:00頃枠内に侵入10:15頃退出)		12.5	00		11	.17							10				
移動船的 1 (10:00頃枠内に侵入10:15項退出)					1.1	. 1 /							12	00			
調査者 規則 投換 投換 投換 投換 投換 投換 投換 投			YPU、 1	平171 0									<i>1</i> 3 1 1	0.4.5.1石	い日山)		
種名											.00頃1	午四二	闵八 I	0.10頃			
種名	調査者	荒川								荒川							
とメアマツバメ 1 2 8 2 ドバト 5 1 2 8 2 ドバト 0 0 1	種名	側	側 水		内 枠	翔	側 構	の	合計	側	側 水		内	翔	側 構	の	合計
キジバト 5 1 2 8 2 ドバト 0 0 1 トピ 1 1 1 1 オオタカ 0 0 1 1 ノスリ 0 0 1 1 カワセミ 0 0 0 1 チョウゲンボウ 0 0 1 1 キュウガラス 1 1 1 1 1 ルジボソガラス 1			路		閈		Ŋ				路		用		Ŋ		
下が下							_			_							0
下記		5				1	2			2							2
トピ オオタカ																	0
オオタカ	ミサゴ																0
ノスリカワセミ 0 チョウゲンボウ 0 ハヤブサ 0 モズ 1 ハシボソガラス 1 ハシブトガラス 2 シジュウカラ 1 ヒバリ 0 ツバメ 0 ヒヨドリ 5 ウグイス 0 メジロ 4 セッカ 0 ムクドリ 9 ツグミ 2 ジョウピタキ 0 イソヒヨドリ 0 スズメ 0 ハクセキレイ 0 タビパリ 0 カワラヒワ 2 ホオジロ 0 アオジ 1 オオジュリン 0 ・飛翔中のカワラヒワは北側から東側林方向に、キジバトは東から西方向へ飛翔。 ・未受がいは東から西方向へ飛翔。							1										0
カワセミ 0 チョウゲンボウ 0 ハヤブサ 0 モズ 1 1 1 1 オナガ 3 3 1 1 1 ハシブトガラス 2 2 1 3 3 2 2 1 3 3 3 1												1					1
チョウゲンボウ 0 ハヤブサ 0 モズ 1 オナガ 3 ハシボソガラス 1 シジュウカラ 2 ヒバリ 0 ウグイス 0 メジロ 4 セッカ 0 ムクドリ 9 ツグミ 2 ジョウビタキ 0 イソヒヨドリ 0 スズメ 0 ハクセキレイ 1 セグロセキレイ 0 タとパリ 0 カフラヒワ 2 オオジコ 0 ・飛翔中のカワラヒワは北側から東側林方向に、キジパトは東から西方向へ飛翔。 **R類中のカワラヒワは北側から東側林方向成鳥。																	0
ハヤブサ																	0
モズ 1 1 1 1 1 オナガ 3 3 1 1 ハシボソガラス 1 1 2 2 ハシブトガラス 2 2 1 3 シジュウカラ 1 1 1 1 ヒバリ 0 1 1 1 ツバメ 0 1 1 1 ヒョドリ 5 5 13 1 ウグイス 4 4 4 4 セッカ 0 1 1 2 メジロ 4 4 4 4 セッカ 0 1 2 2 1 2 ジョウビタキ 0 1 1 1 1 3 セグロセキレイ 1 1 1 4 1 3 4 セグロセキレイ 0 0 0 0 0 0 0 カフラヒワ 2 2 2 1 <td></td> <td>0</td>																	0
ハシボソガラス 1 1 1 2 2 2 1 3 3 ジューウカラ 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1																	0
ハシボソガラス 1 1 1 2 2 2 1 3 3 ジューウカラ 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1										1					1		2
シジュウカラ 1<	オナガ						3			1							
シジュウカラ 1<	ハシボソガラス	1		1						2							2 4
シジュウカラ 1<	ハシブトガラス						2		2	1					3		4
Eバリ ツバメ 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1																	0
ツバメ 0 13 1 ウグイス 0 1 1 メジロ 4 4 4 4 セッカ 0 0 5 9	ヒバリ								0	1					1		2
ヒヨドリ 5 5 13 1 ウグイス 0 1 1 メジロ 4 4 4 4 セッカ 0 0 4 4 ムクドリ 9 9 9 5 ツグミ 2 2 1 2 ジョウビタキ 0 1 1 1 イソヒヨドリ 0 0 1 1 スズメ 0 0 0 0 ハクセキレイ 0 0 0 0 タヒパリ 0 0 0 0 カワラヒワ 2 2 1 1 オオジロ 0 0 0 0 アオジ 1 1 1 1 オオジュリン ・飛翔中のカワラヒワは北側から東側林方向に、キジバトは東から西方向へ飛翔。 ・オオタカは枠内の杭にとまっていた。オスの成成鳥。	ツバメ								0								0
ウグイス 1 メジロ 4 4 4 セッカ 0 0 4 ムクドリ 9 9 9 ツグミ 2 2 1 ジョウビタキ 0 1 1 イソヒヨドリ 0 3 4 スズメ 0 0 3 ハクセキレイ 0 0 4 タヒパリ 0 0 0 カワラヒワ 2 2 1 オオジロ 0 0 0 アオジカン 1 1 1 オオジュリン 0 0 0 ・飛翔中のカワラヒワは北側から東側林方向に、キジパトは東から西方向へ飛翔。 ・オオタカは枠内の杭にとまっていた。オスの成成鳥。	ヒヨドリ						5		5						13		13
メジロ 4 4 4 セッカ 0 5 ムクドリ 9 9 5 ツグミ 2 2 1 ジョウビタキ 0 1 1 イソヒヨドリ 0 1 1 スズメ 0 0 0 ハクセキレイ 1 1 1 4 1 3 セグロセキレイ 0 0 0 0 0 カワラヒワ 2 2 1 1 1 オオジロ 0 0 0 0 0 アオジ 1 1 1 1 オオジュリン 0 ・オオタカは枠内の杭にとまっていた。オスの成鳥。 **R翔中のカワラヒワは北側から東側林方向に、キジバトは東から西方向へ飛翔。 **オオタカは枠内の杭にとまっていた。オスの成鳥。																	1
セッカ ムクドリ 9 9 5 ツグミ 2 2 1 2 ジョウビタキ 0 1 1 イソヒヨドリ 0 1 1 スズメ 0 0 0 ハクセキレイ 1 1 1 4 1 3 セグロセキレイ 0 0 0 0 カワラヒワ 2 2 1 1 1 オオジロ 0 0 0 0 0 アオジ 1 1 1 1 1 オオジュリン ・飛翔中のカワラヒワは北側から東側林方向に、・オオタカは枠内の杭にとまっていた。オスのに、・キジバトは東から西方向へ飛翔。 **R類中のカワラヒワは北側から東側林方向に、・オオタカは枠内の杭にとまっていた。オスのに、・キジバトは東から西方向へ飛翔。							4										4
ジョウビタキ 0 1 イソヒョドリ 0 0 スズメ 0 0 ハクセキレイ 1 1 1 4 1 3 セグロセキレイ 0																	0
ジョウビタキ 0 1 イソヒョドリ 0 0 スズメ 0 0 ハクセキレイ 1 1 1 4 1 3 セグロセキレイ 0							9								5		5
ジョウビタキ 0 1 イソヒョドリ 0 0 スズメ 0 0 ハクセキレイ 1 1 1 4 1 3 セグロセキレイ 0									2	1							0 5 3
イソヒヨドリ 0<																	1
スズメ 0 3 ハクセキレイ 1 1 1 4 1 3 セグロセキレイ 0																	0
ハクセキレイ 1 1 1 4 1 3 セグロセキレイ 0 0 0 0 タヒバリ 0 0 0 0 ホオジロ 0 0 0 0 アオジ 1 1 1 1 オオジュリン ・飛翔中のカワラヒワは北側から東側林方向に、キジバトは東から西方向へ飛翔。 ・オオタカは枠内の杭にとまっていた。オスの成鳥。																	0
セグロセキレイ 0 タヒバリ 0 カワラヒワ 2 ホオジロ 0 アオジ 1 オオジュリン 1 ・飛翔中のカワラヒワは北側から東側林方向に、キジバトは東から西方向へ飛翔。 に、キジバトは東から西方向へ飛翔。 成鳥。		1	1	1			1					1			3		4
タヒバリカワラヒワ 2 2 1 <td< td=""><td></td><td></td><td><u> </u></td><td></td><td></td><td></td><td><u> </u></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>-</td><td></td><td></td><td>Ť</td><td></td><td>0</td></td<>			<u> </u>				<u> </u>					-			Ť		0
カワラヒワ 2 2 1 オオジュリン 1 1 1 ・飛翔中のカワラヒワは北側から東側林方向に、キジバトは東から西方向へ飛翔。 ***・大力は枠内の杭にとまっていた。オスの成鳥。																	0
ホオジロ						2				1							1
アオジ 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1																	0
オオジュリン ・飛翔中のカワラヒワは北側から東側林方向に、キジバトは東から西方向へ飛翔。 ・成場。							1							1	1		1
・飛翔中のカワラヒワは北側から東側林方向 ・オオタカは枠内の杭にとまっていた。オスのに、キジバトは東から西方向へ飛翔。 成鳥。							'								<u>'</u>		0
に、キジバトは東から西方向へ飛翔。成鳥。	337477	- 非判	<u></u>]山の	カワニ	<u></u>	┢┪┢	からす	個は林	·	• ナ ナ	· タナバ	 } 热巾		- レ士・	ってい	t- *	•
	注記事項													-5			•

種名 ヒメアマツバメ キジバト	青/曇一 1.5度· 9:00 卆北外	−時雨 -15℃ 0	· ~ 华内0	11:	15				2017/ 快晴微 約6℃ 9:0 枠北タ	数風か -7.5℃ 00	~		強くな :40	:る、		
気温 1 調査時間 係留船舶 内 移動船舶 0 調査者 荒 種名 ヒメアマツバメ キジバト	1.5度 9:00 2	-15°C 0 -0、材 北側水	· ~ 华内0	11:	15				約6℃ 9:0	-7.5°C 00	~			. ৩ ৻		
調査時間 係留船舶 材 移動船舶 0 調査者 種名 ヒメアマツバメ キジバト	9:00	0 ·0、材 北側水	~ 华内0 枠	枠	15				9:0	00	~	11	:40			
係留船舶 材 移動船舶 0 調査者 労 種名 ヒメアマツバメ キジバト	空北外 荒川 東側林	北側水	华内0 枠	枠	15							11	:40			
移動船舶 0 調査者 デ 種名 ヒメアマツバメ キジバト	東側林	北側水	枠	枠					作礼グ	ነሀ 、 ተ	どいい					
調査者 デ 種名 ヒメアマツバメ キジバト	東側林	側 水	.	枠					_		11,50					
種名 ヒメアマツバメ キジバト	東側林	側 水	.	枠					0							
種名 ヒメアマツバメ キジバト	林	側 水	.	枠					荒川							
種名 ヒメアマツバメ キジバト	林	側 水	.	17		北				北		枠		北		
キジバト	5		杭	内 枠 南	飛翔中	側構内	そ の 他	合計	東 側 林	側水路	枠 • 杭	内枠南	飛翔中	側構内	その他	合 計
	5							0								0
	~							5	7					1		8
ドバト								0								0
ミサゴ								0								0
トビ								0						4		4
オオタカ			1					1								0
ノスリ	$\neg \uparrow$							0						1		1
カワセミ	\dashv							0								0
チョウゲンボウ								0								0
ハヤブサ	\dashv							0						1		1
モズ	1							1								0
オナガ	- 1							0								0
ハシボソガラス								0						_		0
ハシブトガラス	2							2	1					5		6
シジュウカラ								0								0
ヒバリ								0	2							2
ツバメ								0								0
ヒヨドリ	5					8		13	3					15		18
ウグイス						1		1								0
メジロ						1		1						1		1
セッカ								0								0
ムクドリ						1		1								0
ツグミ								0						1		1
ジョウビタキ								0								0
イソヒヨドリ								0								0
スズメ								0	3							
ハクセキレイ		2	2			4		8	Ť		1			2		3
セグロセキレイ						1		1			•					0
タヒバリ								0						1		<u></u>
カワラヒワ		-				1		1						1		
ホオジロ	+					- 1		0						- 1		0
アオジ	+					1		1						1		
オオジュリン	-					- 1		0						- 1		
	++, -+-, /	<u> </u>	- 平 华石 -	L & , \ + :	1.00	± +ħ. +	ー on杭	Ū	T /2	- A BB	た ム、	1 124	8433 L	空を	/ =□1	
σ. ŧ	D両日 関係 セグロ	1とも; する; コセキ	オオタ かもし テレイ(カの7 れない よ水鳥	トスが い。 ¦カウン	とまっ 小中 ⁻	ていた で姿を	こと 確認	グロカ 加わ ^し	コモメも り、これ この後	510羽 いまで	ほどが にない	定回し な猛禽	-エッた ていた 類の数 てハヤ	:。ノス 対であ	リが った

FO	2017	/1/18							2017/	/2/1						
天気									快晴、		1					
気温									沃明、 6.5℃							
調査時間	3.5 0	0.5 0		11.	1 5						~	11::	26			
			~	11:	15							11:	26			
係留船舶		/NU、/	M MO						枠北外	/NU、/	件内U					
移動船舶	0								0							
調査者	荒川								荒川							
		北		枠		北				北		枠		北		
種名	東側林	側水路	枠 • 杭	内枠南	飛翔 中	側構内	その他	合 計	東側林	側水路	枠 • 杭	内枠南	飛翔中	1側構内	その他	合計
ヒメアマツバメ								0								0
キジバト								0	2							2
ドバト								0								0
ミサゴ								0			1					1
トビ								0					1			1
オオタカ								0								0
ノスリ								0								0
カワセミ								0					 			0
チョウゲンボウ								0						 		0
ハヤブサ					-			0								
													 	 		0
モズ								0					-	 		0
オナガ						1		1						-		0
ハシボソガラス								0	1					_		1
ハシブトガラス	1					12		13	2					3		5
シジュウカラ								0								0
ヒバリ						1		1								0
ツバメ								0								0
ヒヨドリ	1					2		3						3		3
ウグイス								0								0
メジロ						5		5						1		1
セッカ								0								0
ムクドリ								0								0
ツグミ	1					1		2						2		2
ジョウビタキ								0								0
イソヒヨドリ								0								0
スズメ								0								0
ハクセキレイ			1			2		3			1			1		2
セグロセキレイ			 					0						t i		0
タヒバリ								0								0
カワラヒワ						1		1					<u> </u>	1		1
ホオジロ						- 1		0						- -		0
アオジ					 			0					 	2		2
オオジュリン								0					 	 		0
オオンユリン								U	~11		レナム	L いら飛来	++-	L 1717 -	スパタコ	
注記事項										下 つ た		J/IG/I				

Вн	2017/	2/15							2017/	/3/8						
	晴、は										に亩タ	ะแก	風やや	強く		
		-9.5°C							8°C-8		り米市	T 9 07,)出, (3 (5	71出 \		
調査時間			~	11	:47					05	~	11	:10			
係留船舶				- ' '	.41					05 外0、柞		- ' '	.10			
移動船舶		'ru、11+	· P30							/ru、1	+140					
									0							
調査者	荒川								荒川							
		北		枠		北				北		枠		北	_	
種名	東 側 林	側水路	枠 • 杭	内 枠 南	飛翔中	側構内	その他	合 計	東側林	側水路	枠 · 杭	· 内 枠 南	飛 翔 中	側構内	その他	合 計
ヒメアマツバメ								0								0
キジバト								0						1		1
ドバト								0								0
ミサゴ								0					2			2
トビ								0					_			2
オオタカ					1			1			1					1
ノスリ					<u> </u>			0			<u> </u>					<u>'</u>
カワセミ								0								0
チョウゲンボウ								0				-				0
																0
ハヤブサ								0				-				
モズ						_		0								U
オナガ	1					3		4	_							0 0 3 6
ハシボソガラス			1					1	2					1		3
ハシブトガラス						2		2						6		6
シジュウカラ								0								0
ヒバリ								0						1		1
ツバメ								0								0
ヒヨドリ	1					2		3						1		1
ウグイス								0						2		2 2 0
メジロ								0						2		2
セッカ								0								0
ムクドリ								0						4		4
ツグミ						2		2						2		4 2
ジョウビタキ								0						1		1
イソヒヨドリ								0								0
スズメ								0						2		2
ハクセキレイ			1			2		3			1			2		3
セグロセキレイ								0								0
タヒバリ						1		1								n
カワラヒワ								0								n
ホオジロ								0								2 3 0 0 0
アオジ								0								0
オオジュリン								0								0
2777	. 調本	終了に	<u> </u> こよた/	<u> </u>	L タカが	由無≠	ハレー	_		見ね	<u> </u> 	۷ ا	<u>l</u> :部上3	+ı −1⊅	. 2 11 €	_
注記事項	向に対	飛んで、2羽の 3オオク	行った ハシフ	:。帰路 ブトガラ	B、野 ^ュ ラスに:	草の小 挟まれ	道上	空付 われ	ゴでびが長れる	旋回し - 部は。 った。 調査開 スが止	ており 飛び立 枠内の 始後、 まって)、カモ なち西)カモ(・枠内 ている	記され :も 変っ のの杭」 ののた。 ・	ら着か マリー・ な多くに とにオ E認しが	ないれ ナ方向 はなか オタカ た。	兼子 可に飛 った □の成

ВВ	2017/	/3/22							2017/	4/12						
			やや強	\$ 1.\					晴、岩		. 1					
人 <u>刘</u>	沃明、 10℃-	11℃	, 13 13 5	HU'						L)無5型 C-18℃						
調査時間	10 0-	00	~	10	.EE						~	10):25			
振星 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				10	:55				枠北5			10	1.23			
		/ru、1	平 内 U							'NU、1	41 4 10					
移動船舶									0							
調査者	荒川								荒川							
	東	北	枠	枠	飛	北	そ		東	北	枠	枠	飛	北	そ	
種名	側林	側水路	· 杭	内 枠 南	翔中	側 構 内	の他	合 計	側林	側水路	杭	内 枠 南	翔中	側 構 内	の他	合計
ヒメアマツバメ								0								0
キジバト						2		2								0
ドバト								0								0
ミサゴ								0								0
トビ								0								0
オオタカ								0								0
ノスリ								0								0
カワセミ								0								0
チョウゲンボウ								0						1		1
ハヤブサ								0								0
モズ			Ì					0								0
オナガ								0								0
ハシボソガラス						1		1	1					1		2
ハシブトガラス	1					7		8						9		9
シジュウカラ	-					<u> </u>		0	1					1		2
ヒバリ						1		1						·		0
ツバメ								0						3	2	5
ヒヨドリ						3		3	2					5		5 7
ウグイス						1		1								0
メジロ								0								0
セッカ								0								0
ムクドリ						4	2	6						3		3
ツグミ						2		2								3
ジョウビタキ						_		0								0
イソヒヨドリ								0								0
スズメ						3		3						5		
ハクセキレイ		-	2			3		5			2			2		5 5 0
セグロセキレイ	-							0								0
タヒバリ								0								0
カワラヒワ			 					0								0
ホオジロ			 					0								0
アオジ	 							0						1		1
オオジュリン	 							0						'		0
2777	・スケ	1441十	<u>l</u> 、運河	ナンが	谷튜	<u> </u>	、カドロ		. 2 , 2 %		1 7=7+7	L 由和ロ	<u> </u> ごも北仏	l 川で±・	ナラゴ [*]	-
	いた。		、迷川	1-13,	. か.)干:	, .	・ノトリ	Z/J,	してし		ノは	不則(- U4L1	KI C'U	こんり	ッで
	آ ' ' آ	,									ボウロ	は北個	訓構内	上空を	北方	向に
									飛翔							
									710733		0					
) 注記事項																
721077																
<u> </u>																

BA	2017/	4/26							2017/	5/10						1
	曇、引		圃							微風						
	17.5°									16.5°C						
調査時間			~	10	:10					00		10	:27			
係留船舶	枠北5									<u>7</u> 0、木						
移動船舶									0	1001						
調査者	荒川		1						荒川			1				
種名	東側	北 側 水	枠 •	枠 内 枠	飛翔	北 側 構	その	合計	東側	北 側 水	枠 •	枠 内 枠	飛翔	北 側 構	その	合 計
	林	路	杭	南	中	内	他		林	路	杭	南	中	内	他	н
ヒメアマツバメ								0								0
キジバト								0								
ドバト								0						2		0 2 0
ミサゴ								0								0
トビ								0								0
オオタカ								0								0
ノスリ								0								0
カワセミ								0								0
チョウゲンボウ			i –					0								0 0 0 0
ハヤブサ								0								0
モズ								0								0
オナガ								0								0
ハシボソガラス	5					3		8						2		2
ハシブトガラス	1					5		6						_		2 0 2 2 2 0 0 0 2 3
シジュウカラ	2					Ŭ		2						1		2
ヒバリ	-					1		1	1					1		2
ツバメ						3		3						2		2
ヒヨドリ	2					3		5								0
ウグイス								0								0
メジロ								0								
セッカ	1							1	2							2
ムクドリ						2		2			1			2		3
ツグミ								0								0
ジョウビタキ								0	1							0
イソヒヨドリ								0								0
スズメ						3		3						8		8
ハクセキレイ	1	1				1		3			1			2		3
セグロセキレイ	<u> </u>	i i				•		0			•					0
タヒバリ								0								0
カワラヒワ	1		\vdash			2		3						2		2
ホオジロ	- 							0								0
アオジ								0	_							0
オオジュリン								0								0
	(درد.	ュウナ	ラは	<u>.</u> 東側材	თ <i>2</i> ჩ	い所で	さえず	•		∥林の	シジュ	ウカ=	<u>.</u> ラ. か	<u>ーーー</u> 力. 車	側林	と北側
	いた。		- 210	/PTRI />	J _ /J	<i>i</i> /i C	_/_ 7	<i>-</i>					ってい		S DOTTIN	_ 10 [7]
注記事項																

月日	2017/	5/24						
	晴、雨							
気温	24°C							
調査時間	9:	00	~	10	:35			
係留船舶		<u></u>	卆内0					
移動船舶	0							
調査者	荒川							
	,,,,,	北		枠		北		
 種名	東側	側	枠	内	飛 翔	側	その	合 計
1里位	林	水 路	杭	枠	中	構 内	他	計
		岭		南				
ヒメアマツバメ						1		1
キジバト								0
ドバト ミサゴ								0
トビ								0
オオタカ								0
ノスリ								0
カワセミ								0
チョウゲンボウ			<u> </u>					0
ハヤブサ								0
モズ								0
オナガ								0
ハシボソガラス						1		1
ハシブトガラス シジュウカラ	1					3		4
シジュウカラ	1					2		3 2
ヒバリ	1					1		
ツバメ					1			1
ヒヨドリ	2					2		4
ウグイス								0
メジロ								0
セッカ	1							1
ムクドリ						1		1
ツグミ								0
ジョウビタキ								0
イソヒヨドリ スズメ						2		0
ハクセキレイ						3 2		3
セグロセキレイ								0
タヒバリ			-					0
カワラヒワ	1					2		3
ホオジロ								0
アオジ			<u> </u>					0
オオジュリン								0
	・ヒメ	アマツ	バメに	はほぼ	調査約	冬了時	に、	-
	構内.	上空に	こいた					
	行った	Ξ						
) 注記車店								
注記事項								

調査地周辺地域水鳥数調査(2014-2015)

月日	2014/11/18		
天気	北風強い		
時間	9:48	~	11:30
担当	荒川		

	2015/1/16		
天気	晴、穏やか		
時間	9:43	~	11:30
担当	荒川		

種名	Α	В	С	D	Е	F
オカヨシガモ			10			
ヒドリガモ						
マガモ					2	
カルガモ	12	3			2	
ハシビロガモ			3			
オナガガモ		12				
コガモ						
ホシハジロ	5	7	60	10	41	2
キンクロハジロ	26	15	23	55	487	2
スズガモ					40	
ミコアイサ						
カモsp		1				1
カイツブリ						
カンムリカイツブリ						
ハジロカイツブリ						
カワウ		2			36	7
アオサギ					5	
ダイサギ						
コサギ						
オオバン	27	7	4			
キアシシギ イソシギ						
イソシギ		1				
キョウジョシギ						
ユリカモメ						
ウミネコ						
セグロカモメ						1
オオセグロカモメ						
コアジサシ						
カモメSP						
トビ						1
カワセミ						

Α	В	С	D	Е	F
		1			
					10 1
		2			1
32	4				63
	2				
		1			2 194 144 537
10	12 23			166	194
	23			93	144
					537
	4			1	
	1				7
	1				
8	25	10		24	6
0	25	12		21	6
		1			1
		'			
					1

周辺地域区分の概要:

- A 砂町運河で夢の島大橋から水再生センターに至る部分
- B 夢の島マリーナ全域
- C 新砂水門脇の部分で潮の干満により地面が露出する部分
- D 新砂貯木場西南の運河部分
- E 新砂貯木場内水域(本報告調査地)の一部分
- F 荒川下流新砂干潟と、砂町運河の新砂水門に至る部分

月日	2015/2/11		
天気	晴、		
時間	9:29	~	11:40
担当	荒川		

月日	2015/2/25		
天気	曇、		
時間	9:25	~	11:10
担当	荒川		

種名	Α	В	С	D	E	F
オカヨシガモ			2			
ヒドリガモ					18	
マガモ	2					
カルガモ	34					
ハシビロガモ					2	
オナガガモ						
コガモ			9		46	
ホシハジロ	65	20	112		384	2
キンクロハジロ	20	48	16		439	
スズガモ			1			293
ミコアイサ						
カモsp						
カイツブリ	1					
カンムリカイツブリ						1
ハジロカイツブリ		1				3
カワウ	1		1		3	
アオサギ						
ダイサギ						
コサギ						1
オオバン	20	28	15		7	16
キアシシギ						
イソシギ						
キョウジョシギ						
ユリカモメ						
ウミネコ						
セグロカモメ					1	
オオセグロカモメ						
コアジサシ						
カモメSP						
トビ						
カワセミ						
			が祝日		-ナは移	動する
注記事項						

Α	В	С	D	E	F
		3			
				7	5
2	4			2	5 2 2
2 20	4 26			2	2
5					
		2		51	
38	43	2 125		204	6
70	5	34		214	6 4 119
					119
	1				
					1
					3
				2	
27	14	9		3	28
	1				
					1
エロ カビ たん	하느니	~ L 白 I		1/ 1 1	<u> </u>

旧新砂貯木場の水鳥は調査当初夢の島大橋から見たとき砂町運河に張り出しており枠内には多くなかったように見えた。 マリーナからはあまり多く見られなかったの

マリーナからばあまり多く見られなかったので、帰りに大橋から確認したところ運河に張り出していた分がなくなり、枠内に移っていたかの印象を受けた。運河は浚渫が行われており、船の動きもあったのでそれらが影響した可能性がある。

	2015/3/27		
天気	快晴、		
時間	9:20	~	11:15
担当	荒川		

種名	Α	В	С	D	Е	F
オカヨシガモ						
ヒドリガモ						
マガモ		1				
カルガモ	16	5				
ハシビロガモ						
オナガガモ						
コガモ			8			
ホシハジロ		17	18		71	
キンクロハジロ		49	20		219	
スズガモ					76	6
ミコアイサ						
カモsp						
カイツブリ						
カンムリカイツブリ						
ハジロカイツブリ		1				7
カワウ	3	2				11
アオサギ ダイサギ コサギ						
ダイサギ						
コサギ						1
オオバン	8	23	11	4		13
キアシシギ						
イソシギ	1	1				
キョウジョシギ						
ユリカモメ				3		
ウミネコ						
セグロカモメ		1			1	2
オオセグロカモメ						
コアジサシ						
カモメSP						
トビ						
カワセミ		2				

NPO法人ネイチャーリーダー江東 水鳥調査 (2014-2016)

調査日: 各年12月23日

			2	.014호	F					2	2015 ź	Ŧ					2	2016年	Ŧ.		
区間/種類	(1)横十間	(2)田中川	(3)荒川	(4)仙台堀川	(5)大横川	(6)) 展日	合計	(1)横十間	(2)田中川	(3)荒川	(4)仙台堀川	(5)大横川	(6)) [] []	合計	(1)横十間	(2)田中川	(3)荒川	(4)仙台堀川	(5)大横川	(6)展日	合計
オカヨシガモ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7	0	0	1	0	0	0	1
ヒドリガモ	0	7	5	0	8	20	40	9	6	7	0	37	34	93	0	0	13	0	14	49	76
マガモ	1	0	3	0	2	3	9	1	0	1	0	10	3	15	2	0	8	0	4	5	19
カルガモ	25	1	3	55	11	8	103	38	5	0	22	6	46	117	39	1	2	21	0	16	79
ハシビロガモ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オナガカモ	37	10	0	38	73	42	200	33	0	4	47	14	36	134	32	7	2	23	13	10	87
コガモ	0	0	0	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
ホシハジロ	1	0	3	0	0	152	156	0	0	0	0	13	188	201	0	1	170	2	13	148	334
キンクロハジロ	38	5	67	46	10	22	188	38	3	34	44	14	36	169	39	8	84	39	0	39	209
スズガモ	0	0	880	0	0	20	900	0	0	467	0	0	23	490	2	0	290	0	0	40	332
カイツブリ	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0
カンムリカイツブリ	0	0	1	0	0	0	1	0	0	7	0	0	1	8	0	0	5	0	0	1	6
ハジロカイツブリ	0	0	5	0	0	0	5	0	0	10	0	0	0	10	0	0	5	0	0	0	5
カワウ	3	3	26	3	4	18	57	27	1	18	6	5	8	65	1	8	12	6	3	7	37
ゴイサギ	1	0	0	3	0	0	4	0	0	0	10	0	0	10	0	0	0	3	0	0	3
アオサギ	3	1	4	2	0	3	13	0	7	2	5	1	0	15	1	3	4	4	0	1	13
ダイサギ	2	0	0	0	0	0	2	5	2	0	0	0	0	7	0	3	1	0	0	0	4
コサギ	0	0	3	0	0	0	3	0	0	2	1	1	0	4	1	9	3	2	1	0	16
オオバン	2	3	8	2	2	54	71	5	17	9	10	1	124	166	6	12	7	3	4	151	183
イソシギ	1	3	2	0	3	3	12	0	2	3	1	1	3	10	0	2	5	0	0	2	9
ユリカモメ	4	56	7	6	0	15	88	18	66	0	23	0	18	125	26	70	89	19	5	21	230
ウミネコ															0	0	0	0	0	4	4
セグロカモメ	1	0	2	0	10	1	14	3	0	7	0	4	1	15	0	1	3	0	4	6	14
オオセグロカモメ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
カワセミ	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	3

- ① 横十間川コース 亀島小学校付近から猿江恩賜公園を経てクローバー橋付近まで
- ② 旧中川コース 亀戸中央公園から旧中川沿いに荒川ロックゲート付近まで
- ③ 荒川コース 新砂干潟から荒川沿いに荒川ロックゲート付近まで
- ④ 仙台堀川公園コース やすらぎの滝付近から明治通り付近までと野鳥の島からクローバー橋の付近まで
- ⑤ 大横川コース 黒船橋から牡丹三丁目付近までと越中島付近まで
- ⑥ 辰巳コース 漣橋から東京辰巳国際水泳場付近まで

水鳥生息調查

環境清掃部 環境保全課 調査係 窓口:防災センター06-06 電話:03-3647-6148 FAX:03-5617-5737 🛂



最終更新日:2015年05月25日 09時02分

調査概要

(1)目的

江東区環境基本計画に基づき、水鳥の生息調査を年に5回実施 しています。

(2)調査期間

平成26年6月~平成27年2月(年に5回実施)

- (3)調査地域
- ① 都立亀戸中央公園
- ② 都立猿江恩賜公園
- ③ 仙台堀·横十間川親水公園
- ④ 荒川
- (新木場周辺)
- ⑤ 豊洲運河(越中島周辺)



キンクロハジロ

(4)調査方法

定点センサス法(上記④、⑤)またはラインセンサス法(上記①~③)により観察される水鳥の種類と 出現数を記録しました。なお、本調査ではカイツブリ科、ウ科、サギ科、ガンカモ科、クイナ科、チドリ 科、シギ科及びカモメ科の8科に属する野鳥を水鳥としました。

定点センサス法: 調査定点にとどまり周辺に出現する鳥類を確認する方法 ラインセンサス法: 歩きながら調査線周辺に出現する鳥類を確認する方法

(1)調查結果総括

出現した水鳥の種類は23種で3,117羽でした。科別では、出現したのは7科 であり、カイツブリ科2種6羽(出現率0.3% 以下同じ)、ウ科1種490羽 (15.7%) 、サギ科4種86羽 (2.8%) 、ガンカモ科8種2,183羽

(70.0%)、クイナ科2種94羽(3.0%)、シギ科2種5羽(0.2%)、カモメ 科5種251羽(8.1%)でした。ガンカモ科の出現数が最大となり、本区の冬 季の水鳥を代表することがわかりました。

出現した水鳥の上位5種類は、①キンクロハジロ1,238羽 (39.7%)、②カ ワウ490羽 (15.7%)、③ヒドリガモ298羽 (9.6%)、④カルガモ258羽 (8.3%)、⑤オナガガモ257羽(8.2%)の順であり、これら上位5種類で出 現総数の81.5%に達しました。

(調査結果表は関連ドキュメント参照)



アオサギ

【2】 月別調査結果

(第1回 6月)

出現種類7種で188羽であり、この時季は水鳥は多くありませ ん。最も多く出現したのはカワウ(主に豊洲運河)で137羽でし た。

(第2回 9月)

出現種類9種で436羽であり、6月と比べて出現数が増加しました。最も多く出現したのはカワウ(主に豊洲運河)で295羽でした。

(第3回 12月)

出現種類14種で580羽であり、9月と比べて出現数は増加しました。これはカモ類などの水鳥が越冬のために区内の水辺に飛来したことによります。冬になると本区の水辺は水鳥でにぎやかとなります。最も多く出現したのはヒドリガモ(主に豊洲運河)で109羽でした。



カワウ

(第4回 1月)

出現種類12種1,479羽であり、12月と比べて出現数は増加しました。最も多く出現したのはキンクロハジロ(主に荒川)で979羽でした。

(第5回 2月)

出現種類15種434羽であり、12月、1月より出現数が減少しました。最も多く出現したのはキンクロハジロ(主に豊洲運河)で168羽でした。

【3】 地域別調査結果

(亀戸中央公園)

年間で13種、323羽が出現しました。最も多く出現したのはユリカモメで129羽でした。その他ヒドリガモが多く出現しました。ここは公園東側を流れる旧中川に冬季のあいだカモ類やユリカモメが集まるのが特徴です。

(猿江恩賜公園)

年間で8種、270羽が出現ました。最も多く出現したのはオナガガモで94羽でした。その他キンクロハジロとカルガモが多く出現しました。ここは公園内に3つの池があり、東側には横十間川があるため冬季にカモ類などが多く集まるのが特徴です。



カンムリカイツブリ

(仙台掘・横十間川親水公園)

年間で10種、455羽が出現しました。最も多く出現したのはカルガモで169羽でした。その他キンクロハジロとオナガガモが多く出現しました。ここは冬季に公園中央の「野鳥の島」周辺や、その西側の仙台堀川にカモ類やサギ類が多く出現するのが特徴です。

(荒川 (新木場周辺))

年間で11種、1,050羽が出現しました。最も多く出現したのはキンクロハジロで895羽でした。その他カワウが多く出現しました。ここは荒川の河口にあたり、内湾の水鳥が出現するのが特徴です。

(豊洲運河 (相生橋周辺))

年間で16種、1,017羽が出現しました。最も多く出現したのはカワウで383羽でした。その他ヒドリガモとホシハジロキンクロハジロが多く出現しました。ここはコンクリートブロックが点在しており、羽を休めるカモ類やカワウが多く集まるのが特徴です。



水鳥の群れ(新木場緑道公園から浦安方面を見たところ)

【4】 経年変化

河川や運河の水質が年々改善する傾向にあるにもかかわらず、本区で確認される水鳥の数は年々減少する傾向にあります。本区に飛来する水鳥の多くはシベリアなど北方からの渡り鳥ですが、地球温暖化や都市化の影響などが懸念されています。

(経年変化は関連ドキュメント参照)

関連ドキュメント

水鳥生息調査 出現数経年変化 (67.3 KB) 調査地域図 (440.8 KB)

PDF書類をご覧いただくにはAdobe Readerが必要です。
Reader 左のアイコンをクリックし無料配布されているAdobe Readerをダウンロード、インストールしてください。

トップページ > 生活情報 > 環境・ごみ > 江東区の環境 > 水鳥生息調査

このサイトについて | 更新履歴 | サイトマップ | プライバシー | 著作権・リンク

〒135-8383 東京都江東区東陽 4-11-28 江東区役所 電話: 03-3647-9111 (代表) 江東区役所への行き方

江東区のホームページ 水鳥生息調査の関連ドキュメント (2015年5月)より

水鳥牛鳥調查 出現数経年変化

111	局生心嗣宜 口		十多化								
	種名	22年	E度	23年	F度	24年	E度	25 [±]	E度	26年	连度
	186-11	出現数	出現率	出現数	出現率	出現数	出現率	出現数	出現率	出現数	出現率
	カイツブリ	1	1	3		6		2			
	ハジロカイツブリ	6		8		2		2			
3	カンムリカイツブリ	1		3		1		2		8	
	(カイツブリ科 小計)	8	0.2%	14	0.5%	9	0.4%	6	0.3%	8	0.3%
4	カワウ	361		251		423		363		490	
	(ウ科 小計)	361	10.6%	251	8.7%	423	17.1%	363	19.8%	490	15. 7%
5	ダイサギ	2		8		4		1		1	
6	チュウサギ	Vici		4400		1560		90		988	
7	コサギ	40		19		28		24		11	
8	ゴイサギ	16		20		21		40		1	
9	アオサギ	-53		49		51	4	41		73	
	(サギ科 小計)	111	3, 3%	96	3.3%	104	4. 2%	106	5. 8%	86	2. 8%
	マガモ	40		19		58		19		12	
11	カルガモ	221		204		201		216		258	
	コガモ	1100		:00:				1		7.00	
	オカヨシガモ	166		36		100		2000		3	
	ヒドリガモ オナガガモ	142 262		169 321		177 342		123 309		298 257	
	ハシビロガモ	202		341		342		309		257	
	ホシハジロ	280		410		131		132		115	
	キンクロハジロ	1, 401		913		446		352		1, 238	
	スズガモ	1, 401		126		440		302		1, 200	
1.59	(ガンカモ科 小計)	2, 636	77.4%	2, 198	76. 1%	1, 363	55. 0%	1, 152	62. 9%	2, 183	70.0%
	パン	2,000	1 1 - 12/0	2, 130	10, 10	1, 000	00,000	1, 102	32, 9/0	2, 100	10. 0/1
99	オオバン	50		25		34		29		92	
2.0	(クイナ科 小計)	50	1.5%	25	0. 9%	34	1.4%	29	1.6%	94	3.0%
23		0.0	1.00	20	51.070	0.1	11.170	20	1.00		D. 0/g
	キョウジョシギ										
	ハマシギ										
	キアシシギ										
27		8		4				3		ĩ	
	セイタカシギ	0.471		1						7/	
	チュウシャクシギ	2		15						4	
1715	(シギ科 小計)	10	0.3%	19	0.7%	0	0.0%	3	0.2%	5	0.2%
30	セグロカモメ	28		45		228		64		49	
	ユリカモメ	117		64		100		59		171	
32	ウミネコ	85		178		217		49		26	
33	2 a 30	1 = 21				-22/1		2.20		2	
	コアジサシ					1		1		3	
	(カモメ科 小計)	230	6.8%	287	9.9%	546	22.0%	173	9.4%	251	8. 1%
	合計	3, 406	100%	2,890	100%	2, 479	100%	1,832	100%	3, 117	100%



※測定地点を変更しているため参考とする

● 水鳥生息調査

区内の水鳥生息状況を把握するため、毎年調査を実施しています。

平成 26 年度調査概要

調査期間	調査地点	調査対象及び調査方法
平成 26 年 6、9、12 月 平成 27 年 1、2 月 (年 5 回)	① 旧中川(都立亀戸中央公園) ② 都立猿江恩賜公園 ③ 仙台堀川公園·横十間川親水公園 ④ 荒川(都立新木場緑道公園) ⑤ 豊洲運河	 水辺で見られる鳥とし、次の鳥類を対象とする。 カモ目、カイツブリ目、カツオドリ目、ペリカン目、ツル目 チドリ目 定点センサス法(④⑤)またはラインセンサス法(①②③)により、種ごとに個体数を計数

平成26年度の調査では、5地点の合計で6目7科23種、年間総個体数3,117個体を確認しました。確認された種の分類群は、カモ目(カモ科8種)、カイツブリ目(カイツブリ科1種)、カツオドリ目(ウ科1種)、ペリカン目(サギ科4種)、ツル目(クイナ科2種)、チドリ目(シギ科2種、カモメ科5種)でした。

観察個体数の多かった種は、順にキンクロハジロ、カワウ、ヒドリガモ、カルガモ、オナガガモとなりました。

また、カモ目の個体が最も多く観察され、総個体数の70%を占めていました。



<その他>

● 水鳥生息調査

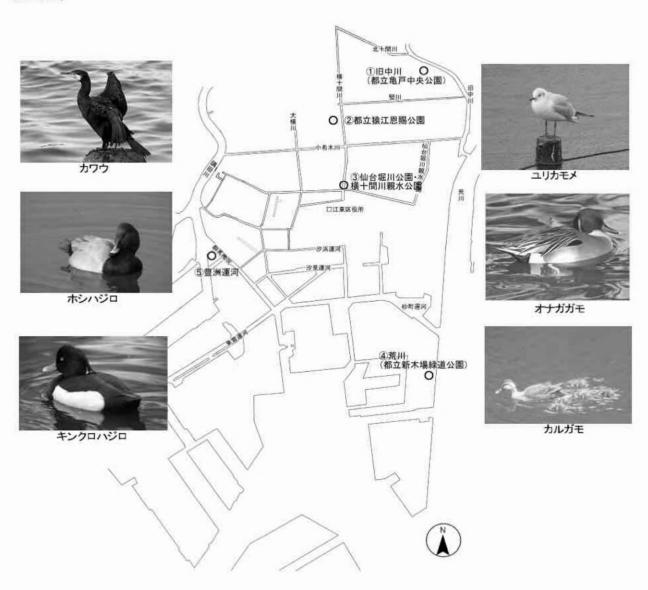
区内の水鳥生息状況を把握するため、毎年調査を実施しています。

平成 27 年度調査概要

調查期間	調査地点	調査対象及び調査方法
平成 27 年 6, 9, 12 月 平成 28 年 1, 2月 (年5回)	① 旧中川(都立亀戸中央公園) ② 都立猿江恩賜公園 ③ 仙台堀川公園・横十間川親水公園 ④ 荒川(都立新木場緑道公園) ⑤ 豊洲運河	 水辺で見られる鳥とし、次の鳥類を対象とする。 カモ目、カイツブリ目、カツオトリ目、ベリカン目、ツル目 チドリ目 定点センサス法(①⑤)またはラインセンサス法(①②③)により、種ごとに個体数を計数

平成27年度の調査では、5地点の合計で6目7科20種、年間総個体数2,509個体を確認しました。 確認された種の分類群は、カモ目(カモ科7種)、カイツブリ目(カイツブリ科2種)、カツオドリ目(ウ 科1種)、ペリカン目(サギ科4種)、ツル目(クイナ科1種)、チドリ目(シギ科1種、カモメ科4種)で した。

観察個体数の多かった種は、順にカワウ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ユリカモメ、オナガガモとなりました。



江東区の環境白書 ~江東区環境基本計画 平成28年度実績報告~ 水鳥生息調査 43頁より

<その他>

● 水鳥生息調査

区内の水鳥生息状況を把握するため、毎年調査を実施しています。

平成 28 年度調査概要

調査期間	調査地点	調査対象及び調査方法
平成 28 年 6、9、12 月 平成 29 年 1、2月 (年5回)	① 旧中川(都立亀戸中央公園) ② 都立猿江恩賜公園 ③ 仙台堀川公園·横十間川親水公園 ④ 荒川(都立新木場緑道公園) ⑤ 豊洲運河	 水辺で見られる鳥とし、次の鳥類を対象とする。 カモ目、カイツブリ目、カツオドリ目、ペリカン目、ツル目 チドリ目 定点センサス法(④⑤)またはラインセンサス法(①②③)により、種ごとに個体数を計数

平成28年度の調査では、5地点の合計で6目7科24種、年間総個体数2,553個体を確認しました。 確認された種の分類群は、カモ目(カモ科8種)、カイツブリ目(カイツブリ科3種)、カツオドリ目(ウ科1種)、ペリカン目(サギ科5種)、ツル目(クイナ科2種)、チドリ目(チドリ科2種、カモメ科3種)でした。

観察個体数の多かった種は、順にスズガモ、カワウ、ユリカモメ、ホシハジロ、キンクロハジロ、オナガガモとなりました。



資-72 43

その他周辺地域水鳥数調査(2014-2015)

		2014年		2015年			
区間/種類	G	Н	ı	G	Н	I	
(調査日時)	1/24 10:15	1/24 10:54	1/24 11:15	1/16 12:19	1/16 13:10	1/16^13:40	
カルガモ		1		3	5		
オナガカモ	1	2					
ヒドリガモ				1			
キンクロハジロ		4		7			
ホシハジロ	27	22	3	35			
スズガモ	94	18	389	78	129	253	
オオバン	11	13	9	18	11	4	
セグロカモメ		64			322		
オオセグロカモメ		1					
カモメ	5		2				
ウミネコ	25						
カワウ	2		1	5		3	
カイツブリ				1	1		
カンムリカイツブリ			1				
ハジロカイツブリ	1			2		2	

(G)14号地第1貯木場: 主に北西と南東にある橋の上から観測 (H)14号地第2貯木場: 主に北東と南西にある橋の上から観測 (I)12号地貯木場の南の一部分: 主に東端にある橋の上から観測

データ作成・解析・著荒川洋一2019年12月発行2021年6月

発行責任者

特定非営利活動法人ネイチャーリーダー江東 会長 李剛 東京都江東区南砂1-4-24-806

特定非営利活動法人 ネイチャーリーダー 江東